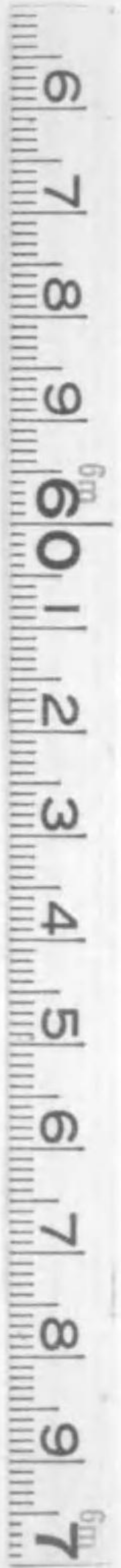


342  
336



始





342-756

24x60

文學博士 谷本富著

教育宗教  
社會經濟

洋行土產談

東京 合資  
會社 六盟館

大正  
2. 5. 20  
内交



謹んで此書を  
伊藤長次郎君に  
献呈す

富  
拜再

### 歐米再遊の告白

余が平素からの意見を云へば、我々學者の末班を汚す者は少くも十年目位には海外に遊んで、時勢の進歩を親しく視察するの必要があると信じて居る。

東西兩帝國大學に於ては此に鑑みる所あつてか、毎年順次に各教授を海外に特派して、仔細に其の専門の方面を視察せしめつゝあるが、憾むらくは其の定員極めて少きを以て、現に余の如きも容易に其の望を達する事が出来なかつたに、今度圖らず再遊の機會を得、不日出發せんとするは、余の衷心歡喜に堪へない所である。

但し今回の洋行は別に御用有之で出張する譯ではなく、全くの私費洋行である。元來官吏は凡て私費洋行を許されぬ定めであつたが、先年明治二十七年時の文部大臣井上子爵が大學教授たるものは海外日新の學術を親しく視察するの要あれば、私費洋行の如きも愈々獎勵すべきものなりとの卓見を閣議に提出して、それに決定せし由にて、余も亦今回本省より容易く其の許可を得た。

余の海外再遊の目的は固より西洋諸國に於ける人文發展の現況を視るのが其の主眼で、兼て日英博覽會と白耳義の萬國大博覽會とを視察する積りであるが、特別研究の事項としては、歐米各國の社會政策の實況並に宗教教育の情勢を知り、平素主張



す、新教育學の發展に資益せんと思ふ。

然り而して余と同行の約ある畏友貴族院議員伊藤長次郎君は世に知られたる屈指の大地主にして、殊に農民の利益進歩に注意する人であるが、今回農商務大臣の囑託を受けて、彼地に於る生産組合事業の調査を爲す事となつた。余の特別研究の事項たる社會政策の視察と相待つの便があらう。

斯くて余は來る五月九日神戸出帆の獨逸船ビュローロ號に乘じ、印度洋を経て先づ英國に向ふ筈だが、歸朝期は遅くとも十月下旬を超えないであらう。東京法科大學々生奥井平四郎君が伊藤氏に隨行するとなつたのは好都合である。(讀賣新聞)

## 序言

本書は余が曩に歐米再遊中見聞せし所の一端を筆にものし、又人に話しなどしつるものを撰集めたるなり。往時初遊の折は、數星霜を累ねたれば、齟す所も自ら多く、若し直にこれを披瀝したらんには多少世に裨益あるべしと思ひしものから、時宜しからず、終に其の機を失ひしは竊に遺憾に堪へず。乃ちこれに懲りて今は不完全ながら、斯くは取急ぎて世に公にすることはなせり。然かもそれさへ平素公私の事、ただ匆忙なるに由りて意外に暇取り、荏苒一年有半にして僅に成れるは、吾ながら鈍とや曰はん。但六蒲十菊の譏は或は猶ほ免るべしと高を括りて、烏澁がましくも梓に上すこと、微衷は讀者の諒察に任すべく、萬一之れに由りて經世家、教育家に參考の資を供ふることを得ば、望外の幸福なり。全篇體裁一徹に出でず、文脈最も錯雜せるは、素隨時隨所に自ら走書し、又人に急ぎ寫させたればなり。若夫れ卷末第四、第五兩篇の學會報告の如きは、大阪府教育會夏期講習會並に備中倉敷日曜講演の速記録を以て之れに充てたること、却つて一部の讀者には興味あるべしと考へてなり。讀者先づ第一篇を通覽して、歐米漫遊の大體を承知し、更に細目に涉りては、便宜第二篇第



三篇に就いて其の説明をもとめ、尙且つ卷末兩篇に由りて一層詳細の講話を聽かれ  
 ば、略ぼ歐米近狀の一斑を窺ふに足るべし。この外女子教育に關する卑見は、歸朝  
 の際、大阪市清水谷高等女學校に於て數回演述し、其の筆記既に『實業之日本』社より出  
 版したれば、本書第四篇を讀みし人は夫にも併せ及ばれたし。將た又同行伊藤長次  
 郎君は諸事手まめに於て、逸早く自著の『歐米管見談』を願たるゝあり、彼此相参照せら  
 れなば更に妙ならん。余は此の好機會を利用し、今度歐米再遊に際し、知遇を辱し、公  
 に私に援助を賜はりたる内外諸賢は勿論、右兩講演會主催者、並に會て拙稿の爲めに  
 餘白を割愛せられたる新聞社、雜誌社の好意を鳴謝せんと欲す。

大正元年十一月下浣

京都斯可庵に於て

著者識す

目次

第壹篇 紀行通信

第一信	香港より	一
第二信	新嘉坡より	四
第三信	コロンボより	七
第四信	アデンより	九
第五信	ジエノアより	二二
第六信	チュリッヒより	二四
第七信	ウイスバーデンより	二六
第八信	ボンより	二八
第九信	ヘーグより	三〇
第十信	倫敦より	二三
第十一信	同	二五
第十二信	コーペンハーゲンより	二七



第十三信 同……………三二

第十四信 ストックホルムより……………三三

第十五信 ベテルスブルグより……………三七

第十六信 維納より……………三八

第十七信 同……………四一

第十八信 プリュッセルより……………四五

第十九信 伯林より……………四八

第二十信 巴里より……………五〇

第二十一信 紐育より……………五三

第二十二信 桑港より……………五六

第二十三信 地洋丸より……………五九

瑞西の湖水……………六一

英國の詩郷……………六三

ウオタロイ古戰場を弔ふ……………六七

歐洲漫遊史談……………七二

第貳篇 見聞雜纂——教育宗教……………八一

一 歐米教育所見……………八一

二 教育事業と社會改良……………八九

三 歐米に於ける社會政策と教育との關係……………九一

四 第九回萬國商業教育會議概況……………一〇一

五 第一回萬國農業團體并に地方民勢會議概況……………一〇六

六 第三回家庭教育萬國會議概況……………一一〇

七 伯林大學と巴里大學……………一一一

八 實驗心理學と教育學……………一一六

九 ヘフディング先生を訪ふの記……………一二四

十 紐育の博愛學校……………一二九

十一 大學植民の事……………一三五



十二	漢堡殖民學校	一四〇
十三	獨逸書籍商學校	一四三
十四	宗教の將來	一四六
十五	布哇に於ける教育問題	一五四
十六	歐米諸國の議會	一五七
十七	雄飛と奉公	一六一
十八	修身教育上一考すべき實話	一六六
十九	正直答の記	一七二
<b>第參篇 見聞雜纂——社會經濟</b>		
一	萬國平和協會中央會長との會見	一七五
二	コンスタンス男爵との會見	一七六
三	獨逸皇帝と平和運動	一七八
四	米國富豪の義舉	一八六
五	カーン氏との會見	一九一

六	クラブ會社	一九五
七	孤兒院と養育院	二〇二
八	兒童虐待禁止會	二一五
九	肺病撲滅運動の一斑	二一九
十	教員肺病問題に就て	二二四
十一	グラスゴ市施設の施設	二三一
十二	田園都市の近況	二三七
十三	大都會の三要件	二四四
十四	英國政界の近況	二五二
十五	英國の購買組合	二五五
十六	英國の農事改良	二五九
十七	瑞西の産業	二六八
十八	丁抹の産業組合	二七八
十九	獨逸の産業組合	二八六
二十	歐米に於ける婦人問題の實況一斑	二九六



廿一 歐米最新の流行……………三〇二  
 廿二 歸朝せる谷本博士(京都日報)……………三一六  
 廿三 谷本博士と歐米(大阪毎日)……………三三〇  
 廿四 新歸朝の谷本博士(大阪朝日)……………三二二  
 廿五 歐米に於ける日本人の位置……………三二五  
 廿六 再遊所感……………三三〇  
 廿七 哀又哀……………三三八

第四篇 學會報告 上—家庭教育論……………三四七

○第一章 家庭教育の必要……………三四七  
 第二章 家庭教育の効果……………四二六  
 第三章 就學前の家庭教育……………五二三  
 第四章 就學中の家庭教育……………五六九  
 第五章 卒業後の家庭教育……………六〇〇  
 ○第六章 兒童研究の近況……………六八五

第七章 異常兒の研究……………七五七  
 第八章 兒童に關する施設……………八二〇

第五篇 學會報告 下—農事改良と商業教育……………八七七

序 論……………八七七  
 第一章 農事改良の技術的方面……………九一五  
 第二章 農事改良の經濟的方面……………九五九  
 第三章 商業教育の實際的方面……………九九九  
 第四章 商業教育の道德的方面……………一〇三五  
 以上



第壹篇

紀行通信



目次



# 洋行土産

文學博士 谷 本 富 述

## 第壹篇 紀行通信 第一信

歐米日新の文明、過ぐる十年間の進歩を見んためと言はゞ、頗るエラソウに聞え、又英吉利、白耳義さては、埃太利各所の學會に出席して、得意の長廣舌を振はん爲めなど云はゞ、尙更エラソウに聞ゆべけれど、其實は博覽會見物が關の山。二度目の洋行なれば萬事勝手知つたと云ふも、實は先き眞闇。旅の恥は搔捨てとは國の體面にも關すれば固より思ひも寄らねど、根が四國猿の人真似なれば、到底彌次喜多の笑ひは免れまじ。其一人の相手は貴族院議員の伊藤長次郎君といはゞ、此も大宮人めけど、實は播州のお百姓、まづ似た者同志の世界見物、何が何だか五里霧中、道理で神戸解纜



の折柄も霧最も深くして、汽笛屢々吹鳴せるもすさまじ。讃岐の沖に二時間、備後の沖に三時間、眞に是こそ望洋の嘆と申すべきか。曾て上村中將を口さがなう譏りし人々に見せたきは此霧と云へど、其實は何にも見えぬ。船長殿も道に閉口したと覺えて、水先をも雇入れた様子。長崎には四五時間遅れて着きたれば、行手いそぎで上陸せず。商業會議所會頭橋本辰次郎といふ人、其の父貴族院議員の雄造大人に代り訪ひ來まし何かと説明せらる。要する所追々不振とは太だ以て心細き次第なり。昔は二本の長き鎖にて港の口を塞ぎしとかや。其の鎖今猶縣廳にある由。鎖國とは雷に形容の辭のみにあらずとは、なんぼうをかしき事ならずや。支那海も依然霧深し。水亦漸く黄濁となり行けば、先眞闇たると益々甚だしく、船脚進み難ねて、上海に着きたる時亦三四時間遅れたり。吳淞の夕景色、長江一帶細雨さへ交へたれば風情多し。元來はアストルハウスか又はパレオホテルに投宿すべく、衣服など用意して行きたれども、埠頭に出迎ひの人々が豫て用意の親切、無外に斷はるべくもあらざれば、導かれて東和洋行に入れり。此處は金玉均、暗殺の舊き歴史あれば、暗殺の心理研究に興味を持てる此の身には多少の因縁あり。否それよりも同僚某々諸大人の御舊柄と聞きては一入なつかし。勿論舊惡探聞などの人柄惡しき事は致さ

れば御安心あつて然るべし。上海は十年振りなり。追々進歩の跡は電車の驅ける跡と同じく頗る明かにて、復た争ひ難し。道に大陸なりと伊藤君も感嘆の様子なり。古き支那人町は前回は見ざれば、今度は第一番に探見と出掛く。城隍廟の繁昌と不潔とは趣きありとや謂はん。徐家匯の李鴻章廟は規模大にて廟畔の銅像はクルツ社の鑄て寄せたるもの、流石に本場丈けあり。張園にはスケーティングの眞似事して、廣き家の床に油ひきたる上を、西洋婦人の臂張りて婆娑たり翻々たるは面白し。愚園の方は名詮自稱、愈々愚にもつかぬ有様。新到の人手五十封度とか、九歳の大頭奇童とか、さては五脚の仔牛とか、聞くさへ嫌なもののみなれば、客も流石に避易して近寄らず。維持困難にて近々公賣とは何たる愚ぞ。但し身長九尺の大男の前に伊藤君も僕も尙又東京法科の奥井學生も共に五尺ソコソコの小男が並立ちし時は、恰も日本と支那との對比の様に覺えて、國大なれば人亦大なりと思はず、嘆聲を發せり。三馬路の改良劇場は名さへ大舞臺と稱するだけありて、建築は見るべし。演劇は依然舊態を脱せず。總じて支那の事物は粗鈍の二字評し盡くして餘りありと存ぜらるゝなり。日本小學校並に金港堂關係の商務印書館工場を観る、太だ頼母し。郷友雨山詩仙飄泊して滬上に在り、相見ざる十餘年、詩を贈らる。乘風破浪、駕巨鯨、舫上



回看海月高。天涯知己應不少。重遊意氣比前豪。臺灣海峽海靜にして平なること油の如し、今油頭を近く望む、明朝早く香港に在るべし（五月十六日香港を）

## 第二信

迷信は下らぬもの、學問の力は偉いものと今更相場づけも無用の事ながら、豫て噂高かりしハレー彗星と我地球との衝突も何等微細の變動も起さず、却つて同僚の地理學者が航路は安全なり風波亦起らざるべしとの豫言適中して、元來船には餘り強からぬ我儕も道に平凡の航海には洋行らしくなしと無聊を啣つ位。支那海の霧は上海を打立ちてより跡なく霽れて、春天一碧水は油の如く又鏡に似たれば、船は全速力を以て進行しつ。大抵豫定より早く既に香港にも着き、又新嘉坡にも着く筈。同船の一等客は港毎に出入繁ければ一定はせざれども、只今のところ約五十人程あり。國籍は區々にて、或意味にては萬國人種の展覽會とも謂つべき節多く、操る言葉も様々にて、世界言葉の共進會とも稱すべし。男と女は概ね半々の割にて、老いたるも若きも皆元氣よく、取分け外國人の異風は頻に男を獵りて婿えらびに餘念なき令嬢もあり。其父なる人は某國急進黨の名士と聞きて、道に此の子もある筈と、手を拍ちて

笑へり。男の方にも色男めかして頻に女の後を追ふ遊冶郎あるらしく、傍目には太た氣障と見ゆれど、當人は大得意にて、朝な夕な襟飾りなど取替へ、剩へ粉など塗れるはをかしと言はんもをかし。船中の日課は別に變りたることなく、眞實自然主義實行。飲み食ひ第一にて、先づ早朝の茶に始り、夕食の盛饌まで凡そ六度あり。其間には男女打伴れて甲板を散歩するか、さなくば輪投げ球投げ、さてはデッキピリヤードなど、あどけなき戯れして打興ずめり。特に此船は他の佛蘭西船などに較べては萬づ新式として、上甲板には別に運動室の設けあり、自轉車、乘馬乃至日本には聞も及ばぬ駝乗りさへ電氣裝置にて作られ、尙ゼイブラチオンサイステスなど何共説明に堪へざる道具あり、電氣按摩、電球マッサージも具へたれば、消閑と慰勞と事は足れども、何事も機械的に趣味乏しきは煽風器の涼意乏しきが如く、彌次喜多の本音は矢張り東海道中宿屋の女按摩こそ嬉しけれ、杯いふ愚痴も出るなり。沐浴は船中ながら太だ完全にて、浴室は男女用各四五槽づゝあり。朝は夙に起きて海水浴をなし、夜は稍暖き溫浴を取りて一日の疲れを治すもよく、然かも寢床に就きてはいと／＼蒸暑くて汗かくは、肥えたる身には最も苦し。服装は日本を出る時は冬着なりしも、上海より中着となり、香港よりは滿船白衣の客となりて、激變驚くべし。然も晚餐は又黒のタ



キシートに威儀つくろひて構ふるは日毎變らず。女のみは色々取り替へての盛装目さむる許りに美し。目下は英國皇帝の喪中として弔意を表して音楽、舞踏は遠慮したれども、日曜の夕方は自ら別なり。既に葬儀も済みたればとて、今朝は若者一同元氣日頃に倍し、運動會の催しあり、我儕にも是非にと出席を勧め、今夜は又船長の誕生とて舞踏會開かるべく、娘連中の欣ぶ様早く顔色に顯はれたり。乗客に老いたる夫婦づれの亞米利加人少からず。而も其身元は大抵百姓なればこれぞ伊勢參宮同様の積りにて、世界一週と洒落れるなるべく、道に西洋の彌次喜多は萬事萬端世界的なるに感心せり。斯く伊勢參宮連の多き中にて、稍、名の著はれたるは上海なるブロックスミス氏の一家と、年老いて而もいと世慣れたる英國海軍中佐とのみ従て我儕一行は何となく肩身廣きも心はづかし。取別け獨逸は學者尊敬の國柄とてヘル、プロフェツソルの呼聲は一種の威嚴を以て響渡るに、彌次郎の鼻の高さは香港ゲイクトリア、ピークの匹にあらず。最もそれも詮じ詰むれば全く大日本戰捷の餘光にて、昨朝も偶々「マリン、ルンドシャフト」てふ獨逸雜誌を繙けば、日本海軍々令部の組織は美制なり學ばざるべからずとて、其の細目など逐一記載せるあるに、一個佛國判事の船内に在るが側近く寄來つて、遂にカムラン灣を指しつゝ、日露戰爭の間に於ける佛國

軍艦の事を辯護し、頻に他意なき由を喋々せるも妙なり。但し人種の好惡は固より除き去るべきにあらず。何事にも兎角敬遠の風見ゆるは片腹痛ければ、時にはたしなめる事もあり。晚餐後の水菓子に歐米諸國の國旗翳しながら、日の丸見えざれば咎めしに、失念仕候とて、直に二本持ち來りて、我儕の前に備へたるは笑止千萬なり。斯く幼風なる事して可惜時間を費せる儘に、眸を放ちて彼方を望めば、數十頭の鮫波間に躍るあり。又一尾の大鯨の水吹く様ハレ、彗星の尾にも優りて壯觀なり。矢張り洋行はすべきものと、喜多八殿大感心の體。(五月廿二日新嘉坡)

### 第三信

洋行平凡と海の穩なるを嘲ちし我儕も、ベナンを發してよりは波稍荒く、喜多八は幸に無病と初旅ながら自慢するにつけ、彌次郎は終日キャビンに閉籠るつらさ。滿船の知人より此海に病氣とは平生の元氣に似合はずなど、見舞やら冷しやら、何とも片腹痛き次第。兎角、人毎に一つの癖はあるものを我には許せ、船暈の癖と駄洒落も一向にはずまず。今朝漸くコロソポに着きてほつと息つくも、我ながら憐れなり。船中にて奇談少からず。前便舞踏會の事をいひしが、當夜の仕末さながら我國の



盆躍に異ならで、結ぶの神のお月さま、搦て、加へてハレー星の瓦斯の崇りか、随分年取りたる手合に意氣な沙汰は其處此處に聞えたり。總じて英人は嫺雅に、佛人は洒落に、獨人は堅實に、而も米人は素朴なりとは、過ぐる二週間餘の旅に得たる經驗。日本人はスバシコイとも謂つべきか。但我儕彌次喜多の頓問さは固より沙汰の限りにて、印度土人のジャグラが手品に乗り、まんまと四志も取られたこと、お話にならず。偕又上海よりの二等客にデビスといふ六十四五の人あり。此人今の身分は英國政府の收税吏たる由聞けど、四十年の昔は帆船の水夫にして、時しも伊藤井上兩公が折角の洋行に國難を傳へ聞かれて復もや立歸らるゝ途中、澳門より太沽まで同じ船の水夫役、其時より追は伊藤公機敏頗る驚くべきものあり、鶉の目鷹の目一刻も靜に猶豫せず、視るもの聴くもの悉く手帳に書留められしが、さりとて此人が日本建國第一の元勳とならうとは誰しも思ひも寄らず、其後追々伊藤公の名は耳朶に觸れしが、よもや當年の其人とは夢にも考へざりしに、圖らず數年前履歴の一端を新聞に讀みて、奇運に敬服の餘り、いづぞは日本に渡りて懷舊の話も致したき志、さては無上の名譽と我ながら誇りしものを、哈爾濱の凶難は天道さま聞えませぬとしみじみ泣きもし兼ねまじき氣合に、我等彌次喜多も亦一夕態々呼寄せて聞きながら思はずハン

カチを濕せり。尙又同じ一等客の中に新嘉坡より乗込みし瓜哇住居の二人の和蘭婦人あり、一人は夫の維新當初我が國にお雇ひたりし蘭醫ゲールツ氏の遺愛と聞きて色々思ひ出づることあり。コロンボ上陸後カンヂー迄もと望みしかど、出帆の時間迫りたれば、僅に近郊に馬車驅りてケラニヤの大佛塔を拜む。錫蘭は佛敎國の要處なり。我儕も先祖代々佛陀の敎を奉ずるもの、難有さは人並ならねど、さても其あはれなる有様又涙の種なり。小乗の大乗のと議論は一切抜き、途々に過ぎ見たる加特力敎徒の今日日曜日と着飾りて巍々たる教會堂に詣づるとは、實際雲泥の違ひとや申すべき。印度の政治、英國の恩澤も下民には及ばず。貧乏は愈々貧乏なりと案内者の愚痴も無理ならず。斯くして佛敎國の前途は誠に氣懸りに堪らずと彌次喜多根性離れての述懐、只頼むのは我國佛敎徒の眞實信心に外ならず。(五月廿九日錫蘭)

## 第四信

波ぢやくと船辨慶の文句ならねど、さてモンストンの恐ろしきことは豫て聞きしにも優り、吾儕蔭辨慶に取りては誠に物すごしとや謂はん。先年初度の洋行に



は日本海支那海さては南海も兎角穩ならず、海南沖にタイフンの逆捲く波今猶想へば胸惡き程なれど、此度は太平洋の名空しからず、疊の表の浦安らかに過越せしを、物事一つかなへば又適はぬ事の有勝ちとて、早コロンボ着前よりモンストーンの影漸く現はれ、風波頗る荒るゝあり。コロンボを船出してより印度洋の長途管に一日、二日のみならず。三日、四日も荒れに荒れて、道に船脚速き此ビュロイ號も一日僅に三百海里を走るに過ぎず。固より向ひ風に一萬噸近くの大船なれば、横波の揺れはなく共、九天に上り又九地に落る心地、風音耳を突裂く許りにて、濤聲は湧くが如く崩るが如し。下甲板、中甲板はいふに及ばず、吾儕が住居の上甲板まで時に餘波の迸しりて、玻璃窓を打てば、夜半の夢は只管驚かざるゝ許りなり。吾儕の船室は元來船長の室に隣りて船のオフィシヤの居る所なるを、都合して特に借りたるなれば、恰も食堂の上に當り、又サロンの上に位して最平靜なるべき筈なるに、尙斯くの如くなるから、他の人々の船室はいはずもあれ、中等客の艙に居り、三等客の艙に在る者は、波のまに／＼船の昂落も極めて甚しければ、如何ばかり酔ひたりけん、同情に堪へず。上等客も食事に出席せざる者日に數を加へたるが、中等客は時に十中二三に及ばざりし事もありと聞き及べり。斯る有様なれば、夙に船には弱き自分の缺席は別に書く迄も

なし。シャンバンは船暈に妙と新しい經驗も矢張り辛酸は嘗めたるを、獨り伊藤君のお百姓ながらも海邊に育ちし故にもあらん、終始平氣にて未だ一度も缺けず、中央食卓の首端近く坐りて泰然と構へ込みつゝ、飲食毫も沮む色なかりしは、眞に我が海國男兒の爲に氣を吐く者、反吐もはき兼まじき彌次郎に較べては、此處喜多八得意の上出来。決して隅には置けぬ豪物とや譽むべき。總じて日本人の待遇は獨逸船ながら、今は決して悪しからず。其後晚餐の獻立書にも特に日本風景を美しく寫し出すあり、樂隊の奏樂にも折り／＼我が俗曲など取組みて旅情を慰むる事少からず。畢竟は戰勝の餘光と謂へども、又一つには船長のいと如才なく氣の利きたるに由るなり。ペナンを出て、間もなく新嘉坡より乗込みし和蘭商人の夫婦連にて兒さへ二人三人連れたるが、豫て病む所ありけん、發熱遽に甚しく、惡性のマラリアにて終に果敢なく斃れしを、他の船客の知りて騒がんことを憚り、即夜竊に水葬しつ。船室船具悉く取除きて消毒し、其旅裝の親しく身に附きたる物も亦皆買取りて打捨てたるなど、頗る機敏の處置には、吾儕も心底より敬服するを辭せず。船長名はフォルメスとて、髯いかめしく、毘沙門天にも肖たらん威嚴あれど、目元いと／＼愛嬌ありて接待最やさし。其父は有名の俳優にして、其兄弟も亦然るべき唱歌の名人と聞けば、自ら



遺傳の具はるものもあるにや。ソコトラ島近くなりて海急に靜に、アラビア灣に入りて波ただ平なり。一週間近く陸影を見ざりし印度洋の上に偶々我が郵船加賀丸と行合ひては、思はず手巾打振りて萬歳を絶叫せざるを得ず。吾儕の船は明早朝アデンに到るべし。アデンは世界極暑の處とす、紅海の旅亦最暑かるべし、而して今宵は又舞踏の催あり、愈、暑い哉。(六月四日亞典より)

## 第五信

偕も其後アデンには錨を繋ぐこと短く、特に暑氣の甚だしきに恐れて、格別見るべき物も無ければとて船客一同上陸せず。紅海に入つてよりは灼くが如き暑さなるべしと豫て閉口せしに似て、意外に涼しく、波亦ただ穏かにて、遙にシナイの靈山を仰ぎつゝ、水天渺茫の際に夕日の落つるを望むなど、他に類例なき大景には、彌次喜多も追に詩趣動き、又宗教思想の萌すを覺ゆなど申合へるも可笑し。佛教には五戒十戒あり、モセス亦夙に十戒を此山に於て授かりたり。宗教もと既に一つならば、流れて末は復一つになるべき筈など、米國人と議論の種も閑に任せて此處に花を咲かすあり。花咲かすといへば實に蘇士のカナールこそ人智の花とも見るべけれ。百餘哩

の長途一道の水脈を通じて、一萬噸の大船も安々と往き來すること唯驚嘆の外あらず。前回通過の時は二十七尺の深さと聞き及びしに、今は愈、浚へて三十二尺近くになれりともいふ。此堀割の竣功は明治の元年なり。而して夫のパナマの開渠畧、明治五十年頃には成就すべき由米國人の話もあり。東西文明の接觸層一層親しく成行くは、萬國平和の爲め最も嬉しき事なり。併し今日までのところにては早く已に蘇士の堀割出來たれども、尙亞細亞歐羅巴とは天地自ら相違あり、地中海に浮び出てゝは感想自ら異なれりとは、同行喜多八殿も追々活眼を開き始めたらし。クレタ島を過ぎてはこれぞ三千年の昔リカルガスの法律を學びたる所といへば、聽て世界法律の搖籃とも稱すべき節ありと説き、エルバ嶋を望みては英雄ナポレオンも亦吾儕同様短軀なりしものと瘦我慢張りても始まらず。ポルトセイドよりしては阿弗利加在留の歐人歸國の便に乗込みしも尠からず。就中一人佛蘭西婦人豚の如く太りたるが、小猿一疋連來れるにて、圓らず四國猿も仲間は出來たるものゝ、兎角は風俗作法相同じからねば、互に物笑の種となれるは是非なしとやいはん。獨逸婦人などの差向ひに座りながら意氣の合はざる儘に自ら睨合へるも、心憎しとや思はれけん。人種の好悪は固より容易に去るべき事にはあらざるべし。斯くて十三日ヲ



ブルスに着き船かゝりの間急ぎてボンベイの古跡を尋ね、更に十四日の夕方海路恙なく此處伊太利のジェノアに到れり。海上三十有五日を費せしものからコロンブスの生地と聞きては、吾儕又多少の感なくてやは。(六月十五日ジェノア着)

## 第六信

吾等今度の旅行彌次喜多的なりといふも、明治の今日無鐵砲には行ひ難く、自ら途順の穿鑿に多少の工夫を用ふる所あり。時節柄思ひつきたるにもあらねど、團扇形に歐羅巴を圓く而かも柄あり軸ある様旅行すること然るべしと考へ定めて、さては先づチーブルスにボンベイ二千年の昔を尋ねし事に始まり、コロンブスの生地てふジェノアに上陸して直に瑞西に入り、獨逸に出て、ライン河を下り夏季最も美なりと言はるゝ山水自然の景物に俗眼を洗ひつゝ、和蘭を経て天晴歐羅巴通を氣取りて、英吉利に乗込まんと魂膽なり。ボンベイ、ジェノア共にいふべき事太多けれども、特にあさましく覺えしは、今も昔も人情の別に變りなきとす。ボンベイの發掘は伊太利政府今尙巨萬の資を措まず引續きて行へど、中にも旅客の目を惹くは夫のいやらしき家なるべく、ジェノアの名物はカンボサントの廣大なる墓地といへども、中

にも最も高大なる墓は近頃亞米利加にて珈琲商賣に俄富限の成金某といふ事なり。ジェノアより瑞西のジェネツに赴く。兩地々名の相肖たるは屢々旅客の誤りを生ずることありとか。彌次喜多に取りては豫じめ注意を要する所なり。アルペン山脈には高峰太多く、伊佛國境近くには八千尺、九千尺さては富士山をも凌ぐべき高山に白雪皓皓たるを寧ろ恐ろしき程なるに、川は急に、湖は碧に、野原青々として而かも果樹の太だ茂りたるは何共いへず。別して山間村落の畫趣は見ぬ人に見せたくて堪らじ。瑞西のジェネツは末松青萍も曾て評したりてふ出雲の宍道湖畔、松江市の風景に肖たるは疑ひなければ、規模といひ設備といひ、固より同日の談にはあらず。レマン湖は其大さ略々琵琶湖に匹適すれども、自動車を驅り又汽船に乗りて大抵は見盡したるが、トノンの温泉モントロアの避寒地は萬事目を驚かす許りなり。中にもルツソの生れたりてふ家、さてはバイロンの住みたりてふ古城など感想得もいはれず。下手な俳句などは復浮ぶべき餘地なし。同行喜多八の望みにて山鹽の産地を尋ねて、遠くブイの洞中をくゞり、舊師ハウスクテヒト氏の案内にてエベセの葡萄酒を味ふなど、一々書き盡し難し。ハ氏は今はレマン湖畔ロザン大學の教授なるが、閑を偷みて彼是専門の人々に紹介され、導かれてムドンの酪農を見、又ジュラ山中



の時計業を見たり。同行の喜多八が草刈機械に乗り牧場を驅廻りたるは、永く話の種なるべく、實は汽車に乗り遅れて空しく田舎の小宿に一夜を明せし珍談もあり。ジユラ山民は所謂自由山民にて氣樂さ加減想像の外なり。ベルンにては議會を傍聽し、尙且萬國平和協會中央會長と會見するなど、彌次一流とばかり思ひ玉ふなかれ。ツーン湖プリンツェ湖は共に船にて渡る。湖間のインテルラケンに羨しき程に美しき邑なり。湖畔の高山奇峰は耶馬妙義の比にあらず。剩へ瀑布の多く且高きは日光の七瀧も顔色なからん。リュツェルン湖の美景も見あきて而かも今はチューリッヒ湖畔の一大旅館に在り。(六月廿四日チューリッヒを)

## 第七信

日本は火山國として温泉太だ多し。湯治行きは十返舎一九の筆に昔より行はれて今も愈々盛んに、有馬、道後、別府を西の三役とすれば、東に箱根、草津、伊香保あり。城崎は張出大關にて、寶塚も亦近頃入幕せり。斯く温泉の繁昌するにつけて、西洋諸國湯治場の模範を観るも亦必要と、瑞西より和蘭への途すがら、ライン河畔の觀光と産業組合の視察と相兼ねて、茲處ツイスバーデンの温泉に兩三日の宿を假ることとは

なれり。抑々此温泉は遠く二千年の昔羅馬時代より夙に有名のものなるが、然かも規模の斯く廣大と成りしは全く近々三四十年間のことなり。昔も大きな宿には早く内湯の設あり、また湯元の周圍には幾多の小家を構へ浴場とするなど、畧我國諸温泉の舊態に似たりしが、今は設備益々大仕掛となり、湯元には大なる廻廊を周らせ、美しき玻璃盃に沸る泉を汲みて客に勸むるあり、宿々には管もて之を引きて而かも客毎に湯を改むるの仕組とせり。別してアウグスタス、ヴィクトリア湯と稱する一大建築物は我等が旅館と廊下續きなるが、頗る莊嚴を極め、其中約廿部に分かれたれ、尋常の温泉浴は勿論、羅馬浴あり、露西亞浴あり、電氣浴、泥浴も備はらざるなく、機械體操、按摩療治、揉療治を、最近の學理に由りて行はるゝ上に、外科治療の然るべき名醫さへありて、X光線室迄悉く具備せるは、彌次喜太一流の想像固より及ぶ所にあらず。尙且市街には大病院あり、博物館、劇場あり。クールハウスと呼ぶは僅々數年前改築したるものなるが、費用正しく三百萬圓を要せし由にて、巍々たる宮殿遍く浴客の入りて娛樂燕息する所とし、大小の音樂堂、圖書室は勿論、料理店の立派なること容易に筆に寫すべからず。庭園瀟洒にして噴水の高きは胸塵を一洗して餘りあり。道路一般に樹木の青々したる下には、百花爛漫と開きて、途行く美人と娟艶を競ふこと、誠に



一大淨土と稱するも過ぎたりとせず。斯く市民舉りて浴客の歡迎に盡力すれば、費用多きも収入亦多く、浴客近年頗る増加して、外人の來泊するもの一年拾九萬餘に及び之を百年前僅に二三千人なりしに較ぶれば雲泥の違あり。従つて市街も愈々擴張して人口益々増加し、五十年内に四倍して今は早や十萬を數ふるに至れりといふ、豈に盛んならずや。精しきはやがて歸國の上に土産話とすることあるべく、残念ながら我國諸温泉の比べ物にならざるは、畢竟國富の如何と外人往來の便不便に由るなるべし。昨日は近傍ガイセンハイムの園藝學校を參觀し、並に醸造者産業組合の事を調査して面白きこと多かりき。是れ又一に國本培養の爲めと思はれたしと眞面目腐りて一言す。(六月廿八日ウイスバーデン)

## 第八信

ウイスバーテンの温泉たとへ太掖芙蓉池の面白味ありとも、限りある旅路にはいつまでも居續けするを許さず。盡きぬ名残を後に、ライン河を下りて名にし負ふ和蘭の方に行く事とは定めたり。吾等曾て學校に物まなびせしころ早く頼山陽の筑後川の詩を読み、又耶馬溪圖卷の記を誦せしことあり。稍、長じて九州遊覽の途次親

しく舟筏を僦うて水勢矢の如き急流を下りし事もあれども、所謂ラインの風景なるものは固より之と同日の談にはあらず。誠に瑞西の湖水と並べて世界絶景の双美と稱せらるゝも宜なり。ライン河は早く羅馬人に知られ、今猶獨逸人が愛國の大動脈として吟詠措かざる所。長七百五十哩の大河にて、源を瑞西の湖水に發し、獨逸國境近くの所には幾多の瀧ありて特に一遊の價あれども、それは車窓の眺めとして曩に過ぎしたれば、今はマインツより船に乗りてコブレンツ迄下るととせり。船は河船なれば底太だ淺かるべけれども、其長さ幅は我が内海交通の商船よりは遙に優り、數百の客人を乗せて綽々餘裕あり。座席食卓の設け夫の瑞西の湖水を渡りし者には或は及ばざれども、又必ずしも悪しとなさず。マインツよりコブレンツ迄は下るに尙四時間を費せば、必ずしも近しと思はざれど、其間河流迂餘曲折太だ奇なるあり。兩岸の山々相迫りて宛かも囊の口なき如き者、更に開けては又迫り、さながら幾多の湖水を珠數繋ぎに繋ぎたり共形容すべく、山上には古城壁の半ば崩れて苔蒸したるに封建の昔を偲ばしむるあれば、山下には所々名所舊蹟今猶遊覽の客を迎へて設備の頗る具はれるあり。鐵道亦左右に奔れば交通の便は最好しと稱せらるゝが然かも上り下りの船舶舳舻相接する程にて、繁昌想像の外にあり。此邊一帶に葡萄



酒の名醸を出すことゝて、山腹岩石の間も打拓きて栽培を怠らず。新樹の青々と茂りたるを眺めながら、夜光の盃を手にし、剩へライン有名の鮭を下物とすれば松江の鱈亦敢て羨むを須ひず。彌次喜多兩人得意となりて身の異境にあるを忘れたる間に、早やコブレンツと呼はる聲に驚かされつ、取急ぎて陸に上り、更に汽車に依りて夜半同じくライン河畔のボン市に着きたり。曉起きて見渡せば此邊は河水既に平原を流れたれば趣稍乏しけれども、彼方には所謂七山の峰々打續きて詩思を動かすあり。吾等亦ニーベルンゲンの古歌を想起するを禁ぜずとは、道に明治の彌次喜多ならずや。(七月一日ボン市)

## 第九信

ボン市には有名なるライン博士あり。ライン河畔に同名の老先生あること既に奇なるが、先生三十年の昔我が國に滞在せられたるとあり。日數僅かに二ヶ年に過ぎざりしかど北北海道より南薩摩の端までも足跡遍く打廻りて、地理の研究意りなく、終に「ヤパン」てふ大部の著述を出して、今猶オーゾリテの名空しからず、近く版を重ねるあり。我等來着の旨を聞き老軀を厭はず訪問せられたるは、奇遇只管恐縮に

堪へず。又ボン市近郊のポツベルスドルフには有名の高等農學校あり。校長フォングルツ氏(農政學大家は數年前逝きて見るに能はざれども、新校長クロイステル博士亦親切に案内せらるゝあり。斯くてボン市の用事滞りなく済みたれば、更にエツセンに向ひ有名なるクルップの鐵工場を見舞へり。吾等元來萬國平和の主張者として數日前も現に瑞西に中央會長と會見せしもの、兵器の製造に興味を有せりとは辻褄合はぬ嫌あれども、世界の現状は我等とても固より急に武備の廢止を望まず。況んや之を小にしてはクルップ家興隆の由來頗る名教の鑑となすべきあり、之を大にしては同會社職工優待の施設天下の模範と稱せらるゝに於ては、吾等亦決して輕々看過すべきにあらず。而して圖らずも同地在留の陸軍將校特に親切に周旋を吝まず、諸事頗る便利を得たるは最も嬉し。終に一タラインの鮭を刺身として水入らずの純葡萄酒に日本萬歳の祝宴を開きしはめでたしとや申すべき。やがてケルンの高塔を仰ぎて今猶宗教の盛んなるを感じながら、和蘭の都へーグに着けば、又一種的情あり。徳川氏三百年の鎖國にも此國ばかりは絶えず交際を結びしを想へば、誠に餘所ならぬ因縁なり。スケヅエニンケンの海水浴場は北歐屈指の盛り場なれども到底助倍人間の集り場たるを免れずとは、喜多八一生の大出來。女王離宮の拜見



最も立派にて中にもオレンジの廣間と稱せらるゝ八角形の大舞踏室は曩に始めて萬國平和會議を開きし所と聞けば更に嬉しとも嬉し。四壁天井名畫を以て飾りたる中に、入口の扉の裏にはミテルバとハーキユリスの門を開きて平和の女神を迎ふる所を畫けるは其様恰も手力雄の命が天の岩戸押開きて天照太神の現はれ玉ひしと相似たるも頗る妙なり。アムステルダムにレンブラントの名畫十年振に見て感更に深く、ハレムに花作りの巨家クレラーヂを尋ねて、花卉一年の輸出總額一千萬圓、蔬菜は四千萬圓と聽きて膽をつぶせるもをかし。此國は有名の低地ながら水利太だ整理し、牧場の打開けたるに、牛馬の群れ遊べるは又一種の風景なり。風車の名物他國には類少し。昔ポツテルてふ田園畫家あり牛の畫を彙がきたるが、モイリッハウスの博物館に在りと聞き、喜多八と見に行く途中、斯うもあらうか。

ポツテルがモイリッハウスの牛見んと

播州百姓連れ立ちて行く

明朝は農商務大臣を訪問すべく、其後直にフアク線にて英國に渡るべし。

(七月六日ヘীগク)

## 第十信

和蘭より茲處倫敦に入りて早く三週間の光陰を耗せり。倫敦には曾て數ヶ月滯留したる事あれば地理萬端心得あるべき筈なれど、名にし負ふ迷宮的市街とて、まごつくど吾ながら唯あきるゝばかりなり。地下電鐵は僅に中央貫通の一線なりしが今は増して十數條となり、交互錯綜を極めたる上に、郊外各地方との聯絡も亦便利に似て頗る繁雜を加ふるあり。小地圖常に懐中に入れてたれども、然かも一々詮索の煩に堪へず。即ち多少經費の嵩むを顧みず頻りに自動車走らすと、所謂倫敦通の人よりは道に彌次喜太なりとの蔭言を免る能はざるべけれども、彌次喜多には又彌次喜多相應の言分あり。折角の洋行に冥途の旅同様地下のみ奔るは吾は與せずなど言はんも、畢竟瘦我慢に過ぎざるべきか。此自働車は十年前には殆んど無かりしもの、今は日に増し行きて全市には二十萬輛内外もありと聞くこと、眞に長足の進歩とや謂ふべき。但例のキャップ(四輪車)ハンソン(一輪車)乃至乗合馬車も今尙依然四方に往來するを見れば混雜は一層甚しく、彌次喜多流の鈍き人物には車に轢かれ馬に蹴られざるが切めての幸と覺ゆるもをかし。之れを措きては十年前と十年後と



格別の差異はあらず。ピカデリーの廣衢に出没する化生の者近頃漸く其の數を減じたること、又一特徴なりなど言ふ者あれども、根が臆病の吾等なれば早く懼れて未だ近かず。其眞偽を確むるに由なきを憾とするのみ。セニアードブツシの日英博覽會は日本にての評判とは雲泥の差なり。一個の大仕掛なる見世物に外ならず。英國の出品は寥々曉の星の如くにして而かも大賞牌を授けらるゝ事日本出品者に數倍せり。失敬千萬なりと力む人も往々見受けたれども、賢明なる政府のなされたる事に、吾等彌次喜多軍の喙を容れんは恐縮に堪へず。若し萬一不都合ありとせば豫め其不都合を看破せずして可惜大金を投じながら今更愚痴をこぼす者却て愚なり。英國は固より其國にての事なれば、見せ物に出品するも觀客なかるべしとて、白耳義の萬國大博覽會に奮つて參同し、佛獨諸大國と盛んに競争せるに際し、日英博覽會てふ美名の下に日本のみ獨り此處に陳列展覽して、同盟國の長所は勿論短所まで悉くさらけ出したる事、確に日本紹介の効は少なからず。されば堂々たるタイムス新聞さへ五十餘頁の大附録を添へて日本の進歩を喋々したるに、剩さへ軍艦生駒の遠く南米より寄航するありたれば、日本最良の洋人は追々増加すること疑ひなく、黃禍の代に、ジャツバナクロニズムてふ新語さへ作らるゝあり。日英提携の流行目前

に見えたるは嬉しとや申すべき。尤も如何に日英提携流行なればとて吾等彌次喜多の醜男と手を携へんとする醉狂の美人もあるまじければ、寧ろ去りて教育、慈善は勿論例の社會經濟の實情を研究すると爲め好かるべしとて、日々朝疾く出て宵遅く歸るほどに努めたれば、今は大體の調査も行届きたる上に、名所見物も略々済ませつ。別して新皇帝御夫婦踐祚後初めての行幸とて、特に先づ貧民區の病院に赴かせらるゝを拜觀したるは無限の感慨あり。從來は大抵陸海軍の檢閲などを第一とせらるゝに、貧民病院の訪問とは千古未曾有の盛事なりと、各新聞は筆揃へて稱賛し奉るも實に道理あり。ターナーの名畫、ト博物館に蒐集陳列せられたるは面白く、クリッピンの女房殺し無線電信の便を藉りて摘發せられたる評判は嫌ながらも日々興味を以て讀むめり。此上は一、二の學會を尋ね更にケムブリッジ、オックスフォード兩學を觀て蘇格蘭に赴かんとす。(八月二日倫敦々)

## 第十一信

煙の都倫敦の生活には吾ながら疲倦を覺えたるもをかしく、今年は別して氣候不順にて何となう面白からざれば、命の洗濯にと彌次喜多打連れてユーストン停車場を



立ちしは過ぐる七日の朝なり。當日は日曜日なれば實は倫敦に居ても何事も致さ  
ん様なしと、汽車行に當てしものから、汽車も亦日曜とて車太だ寡く、別して驛々の飲  
食店も大抵は舊例を守りて鎖したれば、晝飯にも差支へ、兩人はや初老内外の身にて  
鶴千代、千松の兒役は誠に大情氣返りの態なり。同夜はキンダー湖畔のボウチヌと  
いへる一小驛に泊る。明月なりせばと闔らず故郷の沙汰を夜話とせる枕頭鹿の音  
遙に聞ゆるなど涙の種なり。翌日は小船にてキンダー湖を渡りアンブルサイドに  
到る。山間小瀑あり。高雄、梅尾などに似たる面目もありて、愈、故國の秋を偲べり。  
午餐の後乗合馬車に乗りて夫のワーズウオースの詩に名高き大小幾多の湖畔を驅  
けつゝ、田園趣味の捨て難きを深く身に泌めて詩中の人となり、晝中の人となりつゝ、  
約二十哩の長途をケジツク迄行くは、またと得難き風情あり。ケジツクは何處とな  
く箱根宮下に肖たり。旅館の庭園いと美しくしつらはれたるに、四望皆連山重嶺と  
て、自ら仙郷に入れるの感あり。成るべくは此處に數日の宿をと願ひは山々なれど  
も、豫定日數動かし難ければ、僅に一夕の名残を後に、明くる日は又蘇格蘭のグラスゴ  
ー市に向へり。旅宿は故ありてキンザーホテルといふに定む。曾ては李鴻章の駐  
在せしとさへありと聞けば、昔は然るべき宿なりしなるべけれど、今は痛く衰へて翠

帳空しく破れたるなど無残とや謂つべき。此グラスゴー市は夙に造船所の大なる  
もの櫛比せるを以て名高く、現に吾等の一覽せるフェアフィールドの工場は道に規  
模廣大驚かるゝものあり。又近年は都市の經營者々整頓して模範市たる譽も高け  
れば、研究調査の事項も極めて多かれども、此處も同じく煙の都にて、居心宜しからざ  
れば郊外に遠足して、クライド江の源に遡り、瀑布を尋ね、又ラナルクに萬國飛行機の  
競走を觀などして旅情を慰めたり。抑も飛行機の事は素より早く耳にもし又繪な  
ども見たれば、彌次喜多とて敢て喫驚はせざりしかども、幾個の空中船或は單式あり、  
或は複製あり、各國大小まち／＼なるが、或は高く或は低く、一時に大空を馳せ廻る有  
様は吾等臍帶切つて以來の壯觀たり。グラスゴーよりエヂンバラ迄汽車にて直行  
すれば、ただ近かるべけれど、前に英國の湖水を觀て蘇格蘭のを見すば、何だかワーズ  
ウオースにのみ厚くして、ウオター、スコットに薄く、偏頗の譏りも恐ろしければとて、  
再び小汽船と乗合馬車との便を藉りて、ロマン湖に湖上美人の跡を尋ねつゝ、朝早  
く立ち夜稍遅くエヂンバラに着せり。グラスゴーを大阪とすればエヂンバラは奈  
良、京都にも譬ふべく、先年初遊の折柄も風光の明媚と史跡の饒多なるとに兎角立去  
り兼て數月を此處に費しければ、今復此舊都の人となりては轉た無限の感あり。山



上舊城あれば山下古宮あり。ジョン、ノックスの家、アダム、スミスの墓など一々往訪に時足らず。ハイストリートやカノンゲート昔は月卿雲客の衢たりしもの、今は貧民窮民の陋巷と成果て、途行くに蒼蠅けれど、捨つる神あれば拾ふ神亦有り、此處慈善救済の施設他に勝れたるものあるは嬉し。フォース江には世界第一の大鐵橋あり長さ約二十一町、費用三千五百萬圓と聞けるは、行き觀て一同あつと感嘆すること、馬琴ならば半响ばかりとや書きもせん。斯くて十五日芽出度倫敦に歸る。今は大陸行の旅装に太だ多忙なり。(八月十七日倫敦より)

## 第十二信

斯く申候ては甚だハイカラめきて愛國心乏しき輕薄漢のやうに想はれんこと片腹痛く候へども、實際今の彌次郎兵衛は素より昔の彌次郎兵衛にあらず。先年初めて洋行してより井蛙俄に大池に浮び出でたる如く、氣も大きく心も廣く、祖先傳來の嶋國根性とやらんは西の海にさらりと打遣りて、人も物も何事に拘はらず歐米の風は好きやうに考へ做したれば、此の度の再遊は時には寧ろ故郷に歸るの思さへありて、日英博覽會開會の折柄數多日本の品物も渡來したれども餘り多く見向きもせず

一般同胞の大好物と持嚙せる二三日本料理店なども、何も倫敦三界まで來て態々食ふには及ばざる筈と、高を括りて多くは近寄りざりしが、日本人俱樂部の料理不圖氣に入りてからは、喜多八の勧めもありて四五度も續けしことさへあり。是れ併しながらコヴェンドガーデンの大市場間近く在つて原料の新鮮豊富なるに由るは勿論、番頭の日本人如才なく、給仕の英人亦中々別嬪なるにも由るなど、兎に角誰人も始めは居惡き如くにて漸く居心善く成り、終に立去り難きを覺ゆるは、誠に英國社會の特色なりとかや。初め、惡く、末、吉しとは元三大師の御籤に似たるも笑止なり。唯吾等限りある旅途は萬事思ふに任せ難く、一ヶ月半餘の英國滞在は寧ろ長きに過ぎたればと、自ら心の駒に鞭ちて、後髪引かるゝをも顧みず、倫敦を出立たるは八月二十三日なり。偕も性得瘦我慢にて未だ曾て弱音を吹きしことなき彌次郎兵衛も、船のみは船虫ならて弱虫なること早くいへり。されば英國と歐洲大陸との間は近距離ながら何れの線路を取るべきかは、前も今度も窃に頭を惱せる所にて、前回も幸に和蘭のフックより英國のハリツヂに渡るもの好都合なりければ、今度も亦豫め謀りて特に同線を取りしが、運悪く波荒くして眠穩ならず、嘔吐さへ數々催してやがては船自慢の喜多八にも傳染の憂ありし程なれば、更に變じて此次は英國のクキンスボロ



より和蘭のフリッピンゲンに渡るとせり。辛き経験は諸事巧者に成りて特別室の注文なども怠りなく行届きたればにや海上事なく明る朝疾く大陸の人と成りしは真に嬉しとも嬉し。此船に圖らず東京高等工業學校の手島氏親子と乗合せて色々面白き談あり。手島氏はエッセンに赴かるゝ由にて上陸後直に袂を別ち吾等はウエーゼル、オスナブリュックなどを経て獨逸の北海岸近く驅行き先づハンブルヒを志しゝが稍暇ありければ途中下車してブレイメンをも一見せり。ブレイメン市廳の地窖内に於ける葡萄酒の酒店酒藏は固より我國には類なきこととて喜多八の感嘆は一方ならず。港灣の設備また道に能く具りて大阪市民に見せたしとの意見なり。ハンブルヒにては有名なる獨逸購買組合中央會本部などを訪問して益すると尠からざりしが特に見て驚きたるは所謂世界第一の築港なり。しかも獨逸人の進取的氣象は猶飽かてや、今は更に數十萬圓を投じて増大の計畫さへあり。小蒸汽船を雇ひて内外遠近乗廻したるに、只管膽を挫かるゝ思なり。唯雨急に降り出だして傘を持合さざりければ鈍くも風引きて例の持病起り、爾來一週間起居思ふ儘ならざりしは残念に堪へず。病稍輕きを見て推してハンブルヒを立ち、偶汽車に乗遅れて直行の便悪しかりければ、途すがらリユーベックを見物し、ロストックに一泊して

而して翌日汽車をも聯絡船に載せたる儘、コ、丁抹の都コーペンハーゲンに落ちつけり。汽車を船に載せること喜多八には臍の緒切つての初見物と喜べり。病める身は猶不自由を啣ても、幸ひに喜多八は格別に元氣にて健かに立振舞ひ、西洋の風俗にも今は好く慣れたれば、諸事残りなく取調べなどして、勉強尋常ならざるはめてたし。當國特有のバター製造法なども習ひ覚えんとせるは中々にハイカラとや謂はん。(八月卅日コーペンハーゲンか)

### 第十三信

丁抹は小國ながら滞在意外に長引きて六晩を過ごせり。是れ全く當國農業の發達頗る觀るべきものありとて、根が百姓の喜多八深く惚込みたるに由るなり。曩に吾等和蘭を過ぎて蔬菜の輸出年々四千萬圓花卉も亦一千万圓に餘ると聞き膽玉を潰さんとせしが、今や此丁抹に來り更に驚きたるはバター一億圓を超え、鶏卵千七百萬圓、ペーコン五千萬圓に餘ることなり。此の三者こそ誠に當國々益の親玉にして而も孰れも組合組織に由りて盛んに生産販賣せるなりと聞き、喜多八は殆んど萬事忘却の體にて研究調査に従事せり



パタジヤパタジヤと馬鹿にはするな

パタでも一年一億圓

先づ最初コーベンハーゲンにて有名の高等農學校にパタ製造の大家ボウギール教授を訪ひて教を請ひ、更にコレコレと稱する小邑に酪農家ハンセン氏を尋ね、又農商務技師の案内にてハスレウてふ十五六里の所にも行きて、トリフ、オリウムの大牛乳製造組合及び屠豚場の構造經營をも巡覽し、尙中小農家の實際さては小製乳組合などを便宜立寄りて視察を怠らず。特にコーベンハーゲンなるアन्दルの鶏卵輸出組合本部は其事業固より簡略ながら整然秩序あるに深く感服せり。誠に組合業の手本は此處に在りと覺ゆ。斯くて彌次郎兵衛も病幸に早く怠りたれば牛に引かれて善光寺参りならで、牛見に引かれて郊外詣りても怠なく務めたるが唯是のみにては稍物足らぬ所ありと、幸に一夕の小閑を利用して北歐の老哲學者ヘフデング先生を訪問し、快談時の移るを忘れたるは最も嬉し。訪問記の委細は前回洋行の時もコンペーレ、キルマン兩大家の事を載せたるに因みて東京の『教育時論』に通信し置けり。唯先生の風采何となくソクラテスに肖たるはめてたしとや謂はん。申す迄もなく當國は例の物語の大家アन्दルゼンの故郷なり。アन्दルゼンも亦風采頗る

妙なりし由、今度吾等の爲め萬事周旋の勞を取りし帝國名譽領事ヘンニングセンといへる老叟の見たる儘を話し呉れたるは面白し。否それよりも彌次郎兵衛に取りては當國出身の大彫刻家トルバルセンの墳墓を弔ひ、其傑作陳列の特別博物館を観たるが最も深く感動する所なり。トルバルセン貧窶に身を起し漂泊卅餘年、晩年國王特に軍艦を遣して之を迎へ、到着の夕は親しく小舟を舩して港外に待合せ、死後此大館を建て、紀念と爲せりと謂ふは、なんと豪氣ではないか。茲に至りてはパタもペーコンもあつたものにあらずと、例の氣焰に喜多八が復始まつたと腹抱へたる態は道に悪くからず。(九月三日コーベンハーゲンカ)

## 第十四信

ハンブルヒにて引込みたる彌次郎の風邪はシャンパンの手療治も兎角効なく、丁抹は初秋ながら早や冬枯の景色さへほの見えていと寒きに閉口したれば、或は瑞典露西亞の旅行を見合として、直に埃國ウインの方に赴くべきかなど、竊に弱き心も起れる折柄、韓國併合の快報逸早く飛電に知られて俄に元氣づき、藥用ならぬ祝ひのシャンパンはいつものにまして味甘く、二週間以來の病魔も何處やら追拂はれて跡方も







塔あり。登臨すれば彼方にはストックホルムの全市一望の中にあり。此方には森林遠く擴がりて果も知れぬに、江流の透進として其の間を縫ふあり。小舟大船の上下する様眞に畫趣あり。自分も露國行には即ち此畫中の人と成る筈と想ひては、詩など作りたくなるも實は柄に無き事ぞかし。ストックホルム市長の好意に由り郊外數十里の處に感化學校を觀、又市中にて養老院さては下婢學校なども參觀せり。小學校も設備瑞西國に優るも劣るなしと聞きて其の一枚を見たり。總じて社會的事業頗る發達し社會黨の勢力強大なるも、善用して別に粗暴のことはなしとかや。露西亞とは隣國ながら萬事趣を異にせり。ストックホルム市は都市制にて獨立したれば、市長はやがて警察權をも兼有せり。右感化院、養老院等の見物に案内者として附與れたるは年若き一探偵吏なり。尤も別に深き意味ありてにはあらず、職業柄外國語を操る事巧みなれば選びたるまでなり。實に英佛獨の三語を自由に操ると心悪きまで巧なり。露西亞語、芬蘭語も自在なりとか。高等中學校を卒業し、大學を二年迄在學し、而して後ち諸國に遊學したるなりと云ふ。此の國には種々の國人入り込みて犯罪も尠からず、されば斯かる探偵吏のある事は最も必要なるべし。但し小學校の事は追に不案内にて、是れは何分勝手分らずと申されしも無理ならず。

(九月五日ストックホルムを)

## 第十五信

露國行の船は六日の夕方六時に吾宿の前より出帆せり。船の造りは夫の瑞西の湖水に浮べるものと同じく川船式にて、船舳も小に底亦淺けれども、航海に二晝夜を要することゝて、寢室の設備は略、整へり。同船は吾等一行三人の外に偶、東京高等師範學校よりの留學生齋藤氏も乗合せたれば、更に賑へり。船はスカンセンより觀たる様果して長江を下るにて、兩岸樹木鬱々と茂りたるに、大小の島多く、島には白き家、赤き家など立ちたるいとつつくし。我國松島に昔筆提げたりてふ畫人などは今此處に來らば身をも投げべきかなど評し合ふ。或は瑞西の湖水を渡るよりも寧ろ絶景なるやうにも思へり。唯風太だ寒く水頗る冷やかにて、滿目蕭條たるは吾等元來陽氣の性には面白からず。船中の料理は芬蘭式といへど、矢張り瑞典様小菜の先驅多し。翌朝はハレゴといふ港に着す。早や露領にて芬蘭の西南端に近頃開かれたるなりとか。是より船は芬蘭灣に入りて進行す。此邊島嶼太だ多けれども孰れも石塊にして樹木なし。船は其間を縫うて行くなり。別に風情あらず。但曾て露國



艦隊の此處より繰出だして遠方御苦勞にも態々日本海まで沈没の爲め出掛けたるなりと思へば今更笑止至極なり。或は曰くバルチック海は斯く島多く石多ければ艦隊の操練に頗不便なるあつて平素の修業足らずさては脆くも負けたるなりとか。石上白鳥多し。其名を問へば阿呆鳥なりと答へたるも可笑し。夕方フリッティング、ホールズといふ處に着く。芬蘭の首府なり。露領ながら幣制も別にて言語は固より同じからず。議院あり。大學あり。離宮あり。公園も立派なれども、取別け立派なるはニコライ寺院にて、又最も穢きは辻馬車の車躰低く且小にて馬瘦せ御者の乞食めけるなり。夜半再び解纜斯くて舟行頗る緩徐にて翌々日の午後三時漸くクロンスタットの軍港に影薄き老艦を眺めつゝ、テバ大河を遡ること約一時間餘にて露京ペテルスブルグに着きぬ。(九月八日ペテルスブルグより)

## 第十六信

ペテルスブルグの滞在日数は極めて短ければ先づ大使館を訪ふ。懇談の序に露西亞料理の話も出てければ露語に巧なる人を案内に頼みてマロ某とか呼べる純露國式の料理店に赴く。サクスカ、ウーハなど名の不思議なる物多し。サクスカは夫

の瑞典の小菜に肖てウーハは宛も我チリ汁の如し。又何とかいへる豚と牛との肉を油揚にして串に刺したるも旨し。いづれも分量太多く然かも實はこれは前膳にて是より佛國式の本膳を出す積りと聞きこれはこれとは一同閉口して早々逃げ出せるは物笑ひの種なるべし。酒亦きつくしてとても我等の口には適せず。乃ち腹こなしにとて盛場を一巡す。ノラドヌエドームとか謂ひて平民館とも譯すべきは今上の思召にて十年前に出来したるなるが、夫の倫敦なるビーブル、バレーズと其思想を同じくして規模は固より同日の談にあらず。道に大國なりとの嘆聲は早く一行の共に口にせし所なり。總じて露國の建築は馬鹿に大きく間の抜けたる中に東洋趣味もありて面白し。但アクアリウムの水族館ならて圖體の解らぬ魔物妖怪を凝らして婆娑として徘徊せるには彌次郎も吃驚せり。ブーフなどいへる處も亦白鬼の美婦に化けたる多し。凡そ斯る大魔境市中八九ヶ所あり、連夜三時頃まで談笑湧くが如しとは、誠に恐ろしき所なる哉。翌朝は冬宮を始めとし王宮附屬のエレミタージ美術館さては農業博物館など觀る。エレミタージには繪畫數多く集めたれども絶品に乏しきやうなり。冬宮はテバ河畔に聳ゆ。大小二千室もあるとか。同じ河畔に今尙存せるペートル大帝發祥の小殿と較べては雲泥の差なり。小殿の



玻璃窓は大帝始めて硝子を製する術を和蘭より傳へて作らしめたるなりとか。凸凹ありて平ならざるは却つて趣多し。冬宮にては正殿、神廟一々案内して聖物をさへ示して憚らず。聖母マリアの手など謂ひて皴枯れたるものあるも滑稽とや謂はん。ウォーターローの間とかいへるがあり、正面にナポレオンの大像を掲げ、兩壁に露國を始め同盟諸國の將軍の肖像多く聯ねたり。これぞ麒麟閣とや謂ふべき。又露國の東洋に於ける戦勝の畫のみ集めたる處あり。但日露の戦圖は僅に一幅あるのみ。鴨綠江邊の五月十三日頃の戦にて幸に此日は露軍の方稍旗色好かりしなりといふ。夫の畫工のマカロフと共に旅順に沈没せずして生存したりなば、露國は果して連戦連敗の戦畫をも此處に掲ぐるの雅量ありや否や。彌次郎は露國は何事も件の大國式なれば其宏量あると信ずるに餘りありと言へども、喜多八は同意せず。アレキサンドル二世の御居間は質素にして賢主の跡偲ぶに堪へたるあり。同皇后の御居間なども見たり。虚無黨の警戒厳しく國境の出入頗る嚴重にして旅行券の沙汰など蒼蠅さ程なるに拘はらず、宮殿の拜見斯く到れり盡せりとも謂つべきは、全く大使の紹介に由れるなり。農業博物館には大農式の農具多し。國大に土地廣く、人尙少ければ大農的開墾は固より急務なりとは、汽車にて茫漠たる原野を一日、二日

と走らば誰も思ひ當る所なり。當時露西亞に虎列剌流行せりと歐洲の新聞紙は喧傳せしかど左程の事にあらず。國境の檢疫も至つて手輕なれど、唯何事も頗る吞氣にて暇取れるは迷惑なり。(九月十二日維納々)

## 第十七信

露京彼得堡よりして塊地利の國境までは一晝二夜の長途なるが、廣々漠々何等の見るべきものあらず。偶、村里ありとも至極の寒村にて觀る目太だ氣の毒なるが塊地利に入りてよりは面目頓に一變して田畠も打開け、工場の数も追々増し行きつ。維納に着きては道に美麗歐洲隨一との評さへあるだけありて、彼得堡とは同日の論にあらず。唯市街の廣さに比べて人多からざれば何となく寂寥の感あるを免れざるのみ。先年初遊の折は市區改正未だ其三分の一を終へたるに過ぎず、大通りにも板圍など往々見受けたりしが、今は早や大概成就してリングの兩側に聳ゆる大厦高樓の而も美術的なるは官衙公館に止まらず。別してブリュッセル旅館グランドホテルなどは壯觀眼を驚かさばかりなれども、客は定めて乏しかるべしと高を括りて掛りたるに、豈に圖らん孰れも満員にて如何とも爲んやうなく、當夜は哀れ古ぼけたる



小宿に貧しき夢を結びかねつ。翌日漸く大使館の紹介にてクレンツといふに移りたるは意外のことなり。此クレンツは先頃ローズヴェルト氏投宿せしより特に名高く成れるが、由來日本人を歓迎する所なる由聞えたるは嬉し。同じ宿に文部省の眞野氏も在り。此人は今度己と共に當國開催の萬國商業教育會議參列の命を蒙りたるにて、官名は實業學務局長など謂へばいと厳しく聞ゆれども、其實は極く氣の置けぬ面白き人なり。喜多八の伊藤氏は例の農業調査の用事ありて匈牙利の方に赴きたれば、留守中の代役はこの眞野氏にて間に合はすことゝなれり。學會はダムバル街の音樂會堂に開く。申込人員は一千二百餘名といへど、出席實數は大抵三四百人を超えず、何處も無精者の多きは今更喋々するに及ばざるべきか。我等彌次喜多八とも政府派遣の廉にて副議長に推され、一段高き所に陣取れるは寧ろ滑稽にて、而も己はハムブルグ以來の風邪に持病の儂麻質斯添ひて歩行稍困難なればとて、朝夕の出入は喜多八と共に馬車にのみ依りしに、兵隊巡查の何と看誤りてにや一々丁寧立止り舉手注目して敬禮を盡せるは、片腹ならで片脚痛き中に得意の所なきにしもあらず。學會の演説は例に依て例の如く格別聴くべきものあらず、皆々兎角欠伸を催せるに當り、彌次郎が我流の佛蘭西語にて一場の飛入演説を試みしは、自分で

も何を言ひしや徹底せざる所多きに拘はらず、滿場非常の喝采を博し、翌日の新聞紙にまで噂せられたるは汗顔に堪へざるなり。總じて辯士は前後通じて四五十名にも及びたらんが、取分け萬綠叢中紅一點の趣ありて掉尾の大活動を見たるは、一婦人の男女同權論の立場よりして巧に女子商業教育の必要を痛論せるなりき。音聲は固より振はざれども抑揚の妙敬服に堪へず。愛嬌溢るゝばかりの艶麗は其衣裳の時好に合せると相俟ちて誠に評判に値せり。其外の演説は前にも述べたらんやういづれを見ても山家育ち、お役に立ちさうなものなけれども、會議以外連夜各所の招待にて夜會の打續きたるは必ずしも面白からずとせず。特に維納市長の大宴會は市役所の大廣間に開かれ、正式の御馳走は一々言はずもがな、赫耀の電燈、美妙の音樂眞に愉快のことなりけらし。彌次郎は片言ながら數個國の語を操れば引張り風となり、喜多八は又胸に旭日三等の勳章を懸けたれば、萬人の目を惹きて愈々光榮多し。維納より南二十里程のところシチーベルグと稱する高山あり。アルペン山脈の一端にて海拔七千尺といへば、猶我白山の如くなるが、一日會員打連れ汽車にて山麓まで行き、更に小汽車にて登山の催ありしは、道に歐羅巴なり。山上は奇巖怪石並び立てるに松樹の恰も灌木の如く縮まりて匂へるは頗る奇なり。生憎霧深く雲湧起



りて雨さへ降り出したれば眺望を縦にする能はざりしを残念とす。料理店にて宴會を開く。男藝者二三人或は太り或は瘦せたるが掌を拍ら指を鳴らしなどして俗曲面白く謡ひつゝ、興を添へたるは彌次郎も臍の緒切つて始めてなり。喜多八曰く節廻し手拍子越後藝者の樽叩き其の儘なりと。未だ是非を知らず。喜多八の詠みたる狂歌に

會議をば今日は休みて何事も

シテイベルグに遊びける哉

彌次郎は例の僕麻質斯に霧深く氣候寒きを喜ばず

きり／＼と早く切上げ折角の

景色を見せよイエスキリスト

と愚痴こぼす。大笑なり。斯くて伊藤の喜多八は又ブダベストにて某男爵家の農業經營を觀、甜菜よりする製糖の大仕掛なるに甘くなりて色々珍談もありける由、獨り北叟笑はすれどこれも天機は漏し難しといへば書かん術もあらず。(九月二十日 維納を)

## 第十八信

維納の學會了りて後ち直に急行車の便をかりて白耳義ブリュセルの學會へと急ぐ。約二十時間の長程も病の爲に晝も寢臺に臥して戸さへ鎖したれば、一切無我夢中なりしが、偶々晚餐を呼びて一酌の後ち窓を開けば、レーゲンスブルグの古刹に仲秋満月の照らせるは三笠の山さへ偲ばれて趣太だ深かりき。學會は農業團體並に地方民勢の調査に關するものにて、元來は喜多八の爲めに出席せるなるが、此處にも彌次、喜多兩人副議長の榮を荷へり。但し餘り見榮もあらざる學會にて格別面白きことはあらず。總じてコンGRESは近頃の流行物なるが、今年の如きはブリュセル博覽會を好機として學會々議の開催五十種の多きに及び、些か食傷の氣味なきにあらず。博覽會は直に萬國大博覽會だけあつて、ロンドンなる日英博覽會の見せ物めき又勸工場めけるとは同日の談にあらざると致方なし、之を先年洋行の折見たりし巴里の萬國大博覽會と相較べなば規模小なる上に、不幸祝融の災あつて白耳義並に英國の本館をも焼失したれば、何となく物足らぬ心地はすれど、獨佛兩國躍起となりて互に競争せる様あるは太だ有益の見物なり。獨逸は機械の出品多く又科學の進



歩周到なるを示して餘りあれば、佛蘭西は農業館に力を入れ且古來獨得の美術品に邊り眩ゆき迄なる、今尙無類とや謂つべき。伊太利より出品も多く、加奈陀も亦勉強せり。日本は後れ馳に加入したるなれば僅に一隅を占めて固より言ふに足らず。唯御木本の眞珠此處にも亦二個の賞牌を得て評判高きは知れる人として嬉し。ブリユセルは夙に小巴里の名ありて繁華目を驚かす程なるに、恰も獨立祭の折とて一層賑しく、滿街のイリュミナシヨンは未曾有の美觀なり。滯留中一夕、パッタイフライと題する悲劇を観たり。長崎女郎と佛國士官の戀仲を仕組みたるなるが女優カレナカに腕あつて表情頗る巧なり。やがて日本に移し改作の上喜多村にても演じさせなば亦可ならずやなど評し合ふ。此外タイフンと題する留學生の事を仕組みたるもの目下歐洲にて評判あれども未だ見ず。此のバツタフライ劇は先年流行したりし、藝者と謂へる芝居の如くには不都合の點も多からず、諸事總じて好く日本人の生活動作を寫したるは寧ろ驚くべき程なれども、然も職女郎の部屋にて片隅に阿彌陀如來の座像を安置しながら、其前にて拜む詞は祝詞めきて、伊邪奈岐。伊邪奈美。猿田彦の命など云ふは滑稽なり。タイフンの方はこれよりも一層切實なる由なれども、それも主人公の留學生を、新渡戸武麿と呼び其友人を小林家康など

名付けたるはをかし。此向きにてはやがて博士谷本彌次郎兵衛、侯爵伊藤喜多八など題せるコミック劇の仕組まるゝやも知れず、恐ろしきとなり。ウオータローはブリユセルより五里程の所なり。是れ亦一日打連れて古戰場を弔へり。夫の獅子塔の高く聳えたる上に立ちて四方を瞰望しながら、案内者の詳細なる戰爭談を聽けるも興多し。此案内者は英國民兵の士官にて、南阿の戰爭にも赴きたりし由なるが、道に説明の巧なるは誠に其人を得たりとや謂はん。馬車にて彼方此方を巡回しつ。農家の壁に彈丸の痕今尙残れる所など見ては無限の感あり。ウエリントン侯も固より悪しとはあらざれど、吾は何となくナポレオンに勝たしたく思ふなり。彌次郎は短身無髯にして夜多く眠らず、而かも記憶善き所などナポレオンに似たる所多しと喜多八常に口癖のやうに言ふ。ナポレオンも彌次郎と較べられては遺憾千萬ならんか。當日天曇りて風ただ寒かりければ彌次郎眞面目になりて一句讀む

## 秋草のさびしさまざる獅子吼哉

獅子吼は釋尊說法の譬に用ひられて此處には不相應なりとの駄評もあるべし。喜多八は秋草は獅子ぢやない猪ぢやと茶かす。偕其翌日は又港海調査など謂ひてアントウエルブに遊びリユーベンの畫を賞翫しつゝ、やがて小舟を舩して港を上下せ



り。リユールベンの耶蘇並に聖母を畫けるに自身並に妻女家僕をさへ其儘モデルに取りて畫圖に現はしたるは何となくをかし。今やブリュセルは大博覽會の折柄遠近の美人此處に輻輳して娉姿として途行くもの頗る多し。知らず之を自家の畫中ならでカメラの中に收むるものありや否や。(九月廿七日ブリュセルを)

## 第十九信

曾ては二度と入るまじと迄思ひしことさへある伯林も今は復昔しの伯林にあらず。諸事意に適ひて居心地好きは果して何故ぞ。獨逸も今は次第に醇化して生活萬端層一層文明的と成りしたためと云へば、それもさうかと思はれて、道行く婦女子の帽影衣香すべて巴里風なるに肯かるれど、固よりそのみにはあらず。或は日露戰爭後我同胞の價值漸く此の國人の認むる所となり、勢力擴張の爲めなりと云へば、それもさうかと思はれて、往來に支那人呼ばはりせらるゝこと極めて少くなりたるは嬉しけれど、是れ又唯一の理由にはあらずるべし。偕我等一行ライプツヒより此處伯林に入りたるは恰も大學百年祭の前夕にて、圖らず此の盛舉に遇ひたるは、これをしも千載一遇と申すべきか。皇帝が學術研究を獎勵し給へる御演説は吾等彌次

喜太には固より拜聴の榮を得ざりしかど。學生幾百千の炬火行列吾が宿の前を嚴めしく練り行きたるは未曾有の壯觀にて、吾等亦年を忘れて馳加りたく思ひしも、強ち無理には非ざるべし。大學百年祭に引續き陸軍大學にも亦百年祭あり。皇帝行幸の鹵簿を拜して英姿を仰ぎたるは最嬉し。斯く嬉しき事の重なる中に己れ彌次郎兵衛も亦恰も十月十七日を以て滿四十四歳の馬齡に達したればとて、舊師リース博士を始め平素親交ある人々を招きて赤の飯こそなけれ、赤き心の小宴うち開きつ、一同歡晤を盡し呉れたるは嬉しとも嬉し。菊花旭旗食卓の裝飾行届きたるなど、赤髯顔の毛唐人も早や御國振りを心得たりとや謂つべき。伊藤氏は例の西垣學士を伴ひて主として産業組合、金融機關の視察に忙しく、己れは又舊交の留學生諸君子に誘はれて社會政策、慈善救済の調査に寸暇あらず。彌次郎喜太八も圖らず分業する事是れ經濟發展の原理に協ひたりとも謂はんか。ポツダムの御苑は秋色別してめでたけれど、グロスベールの糞田は汚穢眞に鼻を掩はざる能はず。エインベルヒの舞踏館、いつとなく座敷芝居と變じて、面目一新せるに、當年有名の某嬢の今は酒樽の如く肥え太り、哀れ菊屋とか呼べる怪しげなる珈琲店の一隅に大道白据ゑたるは、そんじよそこの眠みの人々には或は桑滄の變なるめり。伊藤公と伊藤氏と姓



氏同じき爲め旅中時々プリンス呼はりせらるゝは心苦しと常に啣ちしものゝ、今の若き人は總じて品行方正にて、涎は飼牛に譲りて流るゝこと少ければ、未だ曾て税關とか云へる處に呼留めらるゝ事なきは、吾等同行の身に取りて誠に幸なりかし。伯林滞在日漸く久しくなれるまゝ、街頭の菩提樹いつしか落葉して、滿目冬枯の哀はれを示したるに、吾れは鈍くも風ひきて空しく暮裡の人となりしが、伊藤氏は勇氣日に加はり、今はアイヌバラストの氷滑りに滑稽なる態度して衆目を驚かすこと、又至極妙とや謂はん。滯歐既に數ヶ月に及びぬれば、諸事疾く心得られて、却て出藍の譽ある事吾は最も喜びとす。

匂へば立て立てば歩めの喜太八が

氷滑りに彌次は尻餅

(十月二十日伯林)

## 第二十信

伯林にての感冒案外念入にて急に治すべき様子もなければ、伊藤氏と別れて伊太利行を見合せ、獨りシヤロテンベルヒの閑靜なる家に移りて専ら靜養せしが、やがて全快して、目出度十一月は三日天長節の朝、此處第二の故郷とも謂つべき巴里の都に

着きたるは嬉しともうれし。先づ直に大使館に馳參じて聖壽無疆を祝賀し奉り、同夜は大使館の夜會に招かれて同胞の人々無慮七十餘名と盃を擧げ萬歳を三唱し歡呼したれば興趣湧くが如くなりき。大使館は未だ廣大ならずと雖も、例の三越の意匠に由り各室日本美術の精華を鐘めて裝飾したれば、綺羅ひやかなる事他に類なく、頗る人目を惹けるが如し。斯くして兩三日後れて伊藤氏亦羅馬より來着したれば、再び彌次喜太の番離るゝことなく、日夜打連れて見物に暇なきが中に、最も光榮と感ぜしは偶、オペラの時節となり、一夕大統領より大使を招かれたるに伴はれて、大統領席にて靜かに視聽せしことなり。藝題は「トリスタン、エ、イソルデ」と稱するワグナル物にて、有名なるヴァン、デック即ちトリスタンに扮したれば、歌唱の妙得も言はれず。音樂の莊嚴吾等俚耳をも動かすこと深し。其外テアトル、フランシエーを始めとし、カジノ、フォリベル、ジュエルさてはオランピアの類まで大小苟くも美を以て稱せらるゝ者は尋ねて漏さず。折柄セイヌ河畔に菊花の展覽會開かれ、並に果物野菜の品々いと見事なるも多く陳列せられたれば、目を悦ばすこと愈、樂し。赤毛布の本色とて貴衆兩院傍聽の便を得たことは、偏に大使館の周旋に由れり。之れより先きブリアン内閣社會黨の爲めに敗れたれども、新内閣組織の大命は再びブリアン氏に下



りたれば、一種の内閣改造となり、當日恰もブリアン氏新總理大臣として政綱をホルボン宮裡の衆議院に演説するに遭ひては、萬事魂消申候と謂はざる可らず。社會黨の名士バンルヴェを始めとし、反對派の攻撃頗る鋭く、初日は議論歸着する所を知らず。終に翌日に亘り夜に入りて漸く信任投票を行ひ、僅にブリアン内閣の成立を見しは、田舎には無き柄にて、道は佛蘭西丈の事はありと見受けたり。總じて近來社會黨の勢力日に加はり、別して同盟罷工屢々起りてより、諸工事兎角に撻取らず。市中到る處道路の普請長引けるを見るは、旅客に取りても甚だ不愉快千萬なれども、然かも巴里は何時までも世界の花たるに違はず、實に極樂よりも美しき様なりとは、喜多八も始めて合點行きたるらし。巴里には素より舊知の人少からず、その上に今度新に知合となりたるは萬國仲裁會長コンスタンス男爵なり。平和協會に盡力する廉を以て特にメダルを送り呉れたり。又た夫の學術獎勵のため大金を投じて惜むことなきカーン氏とも親しく會見して、從來東京帝國大學に寄附せしものとは別途に吾が京都大學にも同じく萬金を取敢へず寄贈せんことを快諾し呉れたるは望外の幸福なりとす。高きはエイフェル塔の頂上に登りて途行く人を蟻の様に視下し、低きはバンテオン廟の床下に降りて先哲の遺徳を山の如くに看上などして、爲すべき

事盡くる所を知らざれども、日數自ら限あれば名残惜しくも近々英國に渡り、それより米國經由の上歸途に就かんとす。十年前の巴里と十年後の巴里と何等變化あるやと問はるれば、風紀の取締近頃稍々厳しく成れるを認めたるなど、其の一例なりとも謂はんか。夫のモルグとて變死者の死骸を陳列して公衆の觀るにまかせ、由つて以て犯罪搜索の手がかりを得んとせしものゝ如きも、四年前より閉ざして今は容易く入るを許さずとかや。其他亦推して知るべきのみ。(十一月十二日巴里か)

## 第二十一信

數ヶ月來昵み重ねし女神ユーロッパと惜しき袂を分ちて、新世界亞米利加に渡らんとするに就いては、萬事雄々しく規模最大ならざるべからずとて、當時天下第一と聞えたるモレタニヤ號に乗込む事とせり。名にし負ふ三萬噸餘の船とて宏壯目を驚かすなど言はんは野暮なり。然も船脚の速き亦意想の外に出で、毎日六百四五十海哩を奔ると云へば、夫の太平洋航海のビューロー號などに較べてはやがて約倍ほどの速さあり。同乗の日本人十一名を數へたるは近頃珍らしき繁昌にて、中にも夫婦連れの人二組あるは太だ豪氣なり(秋山西村兩氏)。此等鴛鴦連を貴族院と呼び、



吾等一騎打の武者連中は衆議院と名づけつ。中には社會黨など綽號せるもありて、テーブルにサロンに或は相分れ或は相合して、談笑頗る面白く、餘處目にも嘸羨ましく見えたる事ならんと推測らる。斯くいふ彌次郎は衆議院議長の大任を辱うし、剩へ文武兼備の才ありとて、食堂、軍參謀、總長の榮職をも帯びたれども、何がさて例の船には大の弱虫なれば、時には船室城内に立籠りて、却て船、暈章を賜はれる滑稽もあり。紐育にては一番大氣張に氣張りて全市隨一の噂高きホテルニユーブラザに泊る。總領事を始めとし日本銀行、三井、正金、森村、荒井さては高嶺博士たちの親切なる案内にて、市内各方面の見物に日の足らぬを憾みとする許りなるが、何處に行きても進歩の跡著しきは只管感嘆の外あらず。銀行、株式取引、手形交換等、商業機關の規模大にして而も萬事整頓せるには喜多八深く心酔の態にて、成程新世界は道に新世界なりと贊辭を吝まらず。別してペンシルバニヤ鐵道會社がハドソン河底の大隧道落成し、二億圓餘を費しての大々の停車場竣工したればとて、其開業の日に參觀しては打魂消け申候と申す外には筆紙に寫すべき辭を知らず。將又文學藝術の方面にては、もコロンビヤ大學の擴張は極めて顯著なるが、カーネギー、ロツクフェラーさてはラッセル、セージ諸富豪の斯道に鉅萬の寄附を敢てして毫も吝嗇ならざるは、我國の金

滿家に爪の垢だけなりとも煎じて吞ましたしと思へり。喜多八なども兎に角日本屈指の豪農なれば定めて追々は此爪垢藥の効能も現はるべきか。唯だ米國は何分新國なれば古美術は乏しきを免れずと、頭から輕蔑してかゝりし美術館も、亦質量共に十年前とは面目を一變して、歐洲の大館舊屋に譲らず。セントラルパークの冬枯れ寂寥の詩趣漸く多きと相映じて雅客も自ら満足する所あるべし。日本問題は此處にも多少の暗流なきにしもあらざれども、夫の頭本氏等のオリエンタル、インフォメーション、エゼンシーなど必ず彼我意志疎通の効なるべし。特に當地在留有志者の寄贈に係るグラント將軍廟畔の櫻樹やがて生育滿開の時ともならば、天真爛漫の大和魂は普く米國人に知られて、親熱一層密度を加ふべきは、吾等信じて疑はざる所なり。之に付けても夫のラッド博士が終始日本の爲に盡せる親切は又深く感謝せざるべからずと、乃ち一日閑を偷みてニユーヘヴンに訪問しけるに、歓迎の情意太だ厚く、終に一夜を其家に過して色々面白き物語あり。我等日本人贈呈の紀念品は珍重措かずとて一々誇り顔に示されたるは何事も打飾らぬ真心なりけらし。今夕シカゴに向ふ筈、醉香領事の句に

毛布が來れば都も師走哉

(十二月五日紐育)



## 第二十二信

歸朝の時期漸く切迫するにつれては、我等呑氣者も道に心急かれざるに非ず。紐育より急行汽車にて大陸を横断せんには、早くば四日半許りにてサンフランシスコに出でらるべきは百も承知ながら、根が百姓の喜多八は是非テキサスの米作地をも見たく去りとてシカゴを知らて過ぎんは又殘惜し、ナイアガラも折角米國に來たからはとそが言ふ儘に廻り路のお附合も、熟路ならねばなか／＼に面白かるべく、やがてバナマ堀割出來上りての後の事など彼是れ思遣りては興味いよ／＼深き儘に、一旦シガゴに赴きて更にワシントンに引戻し、それより南太平洋線を辿りて迂回してサンフランシスコに出づるとは爲せり。紐育を十一月五日の夕刻立ちて翌朝未明にナイアガラに到る。汽車瀑布に駐る十數分、乃ち降りて彼方此方を見廻れども、何分一面の銀世界、水も氷り、土も氷らん許りて、一步々々に蹶かん懼あれば危くて十分見物する事出來ず、只だナイアガラも見たと言へば言へる迄なるは残念なり。シカゴも雪こそ降らね、風太だ寒くして天常に曇り、湖水は夙に氷詰めたれば、何となう物寂し。領事館の人々など親切に案内し呉れたる儘、喜多八は得意顔に大學始め屠殺場製

粉場など驅廻りて、頭から粉一面に被りたるは、何共言へぬ風態なり。彌次は例の風邪に兎角引籠りたれども、新築の圖書館だけは行きて見たり。市中に支那料理十數軒あり、規模の相應に大なるもありて、洋人の群集せるも一つの流行とや申すべき。街頭車馬絡繹の中にサンタクロスの粉装したる白髯紅衣の翁辻々に立ちて、クリスマススの施行に喜捨もとむるさま、年の暮の忙しさを増すめり。ピッツブルグにカーネギー氏の雄圖を尋ねんと思ひたれども、雪深きに恐れてワシントンに直行す。ワシントン亦實に積雪二尺、只だ風靜なるを以て堪へ易し。大統領官邸のホワイトハウスは雪を被りて愈、白く、コンGRESの上下兩院、さては大審院など傍聴して、ニグロの愈、黒きを汚く感ずるも是非なし。ライブラリの丘上に立ちて新月を仰けば、心も澄渡るやう覺ゆるに、一日雪を冒してモント、ヴァノンに華盛頓の墓を吊ひたる時は、一入先哲の皓潔を慕へり。シカゴ、ワシントン間の汽車は鋼鐵製の新型なり、輕くして早し。ワシントンを立ちてよりは漸く南行するまゝに氣候は次第に暖きを加ふれども、風物は頗る荒蕪にて、何等見るべきなし。沿道土人の部落、彼處此處に散在するのみ。ニューオルレアンは最も古く開けたる所にて、堀割開通後は咽喉の地たるべき場處なれば、貿易は今も繁昌の様なれども、市街の不潔は鼻を掩はんばかりなり。テキサスのハウストン



に着きたるはワシントンを立て二日目の夜半なり。例の西原氏早く出迎はれて懇切身に餘りたる程なるは嬉し。氏の家は之れより稍遠く途悪ろし、素より押しても行きて觀べき筈なりしを、汽車遅く前途の行程に一日の誤算ありて遽に其の暇なきに氣付きて止めたるは、主客共に如何ばかりか口惜しからん。乃ち西原氏終日吾等が宿に在つて其の事業を詳に説明せられたるを責めてものゝ慰とせり。要するに米作は面白からず、氏自身も最早や思切りて他業に轉せんとのことなり。ハウストンよりサンフランシスコ迄約四日を費せり。汽車はオプサーヴェーションカーとて、列車の終尾は専ら見物客の展望を肆にせせん爲め窓を頗る大にし、剩へ戶外に立出て、縁端に腰掛くるさへ自由なれども、さて見るべきは何ものもあらず。滿目平沙の中一路數千哩、漸く上りて幾千呎の高嶺を横り、復た漸く下りて終にカリフォルニアに入りて始めて樹木の綠翠を見るのみ。アリゾナは墨耳其との境なり、此邊より支那人の竊に入國するもの往々是れあり、枯草を満載せる車の中に隠すとか。近頃十二名程一時に發見されて大混雜の由車中にて讀みたる新聞にあり。ロスアンジェルズに數時間停車したれば降りて曩にビュロー號にて同船の客なりしドブキンス氏の家を訪ひなとす。日本人の往來する者多し、サンフランシスコに入りては一種の感なからずや。

## 第二十三信

(十二月十九日)

桑港よりは東洋汽船會社の地洋丸に乗る。此船は天洋丸と姉妹船にて、目下我が商船籍に在るものゝ最大なる一とし、淺野氏等の竊に誇りとする所なりとか。サロンの裝飾などすべて三越の手に成れりと聞くが、日本風の縫模様など美麗は美麗なれども、何となう船其者とそぐはざる所あるは是非なし。ビュロー號などに較べては船體大なれば食堂も喫煙室も頗る手廣なれども、食器其の外の備品決して上等ならず。別して料理献立の太だまづきは、早く船客苦情の種となれるも亦是非なし。乗客は上等七十五人程あり、就中日本人すべて十四人の多きを占めたり。船長よりは彌次喜多兩人は食卓の上席に座りて日本船客の代表者たらんとを求められたれども、喜多八の窮屈がる儘に、今は歸り途なれば別に氣張る要もあらずと、體好く辭して、意の合へる人々相集りて別に食卓をしつらへ、水入らずの差向ひは、實に面白かりし極みなり。クリスマスには朝食堂を飾りて禮拜あり、常に異りて多少の御馳走もあり。元日の朝は又夙に邦人のみ上甲板につどひ、船長の發聲にて遙に皇室の萬歲



を賀し、船客の健康を祝されたれば、我等亦音頭取りて會社の隆盛を祈り、船員の健康を祝へり。屠蘇こそなけれ、雜煮もあり、ごまめ數ノ子祝ひの品々自ら用意あつて心地よく、正宗の盃を擧げたるは、早や日本に歸りたる心持すめり。海路十七日幸に風波穩かなれども無聊に堪へず、晝は輪抛けの競走に餘念なく、夜はトランプの勝負に時の移るを覺えず、倦めば眠り、覺むれば小説など讀む。時には二三等客の催しにて俄芝居などありたれども、寧ろ片腹痛き者なり。早く立派の樂隊など乗組せたらましと思ふも算盤の合はぬ事にや。諸事田舎臭きは情なし。太平洋は到底世界の裏道なり、往き交ふ船少く僅に兩三艘と逢へりしのみ。唯だ無線電信の便よく、船中に新聞を刷出せるは嬉し。自ら印度洋とは趣異なれり。印度洋を行く者は上海、香港を出て、後にも新嘉坡に錫蘭に所々寄港多ければ遠く陸地を隔てたりとも覺えず。太平洋にては布哇のみ誠に唯一の上陸地なれば、皆競ひて上る。吾れ等一行亦夫の望、月樓の一室に陣取りて、布哇生れの日本藝妓を物珍しさうに且つ飲み且つ歌ふも旅の憂さ晴し、さては無禮講の爲し納め、今年の厄拂ひとて深く咎むる者はあらざるべし。此の處眞に膝栗毛の大團圓なり。めでたし／＼／＼。(一月四日)

## 瑞西の湖水

日本の風光明媚なる天下素より定評あり。然かも瑞西の山水亦決して多く下るものにあらず。否若し公平に批判せんか、瑞西或は日本の上に位するあるべし。此く言ふもの必ずしも愛郷の念に乏しとなすべからず。日本國土太だ廣からずと雖も然かも瑞西に數倍す。瑞西は略ぼ我が九州の如きのみ。而して高山奇峰擧列し、其の稍、低き處には則ち湖水あり、谿流あり。凡そ湖水の多く、溪流の美なるまた瑞西に如くはあらず。名所風景四方に散在せずして集めて之れを一輻の縮圖中に置くものは瑞西なり。况んや交通の便夙に開け、舟車到る處に通じて頗る觀覽に適するをや。余の曩に歐洲に游學するや、足跡殆んど中部に遍くして而して瑞西は實に僅にルユツエルン、チュリツヒの兩湖を觀たるに過ぎず。鐵路一貫所謂サンゴタールの隧道を経て、伊太利より獨逸に往來せしとき、途すがらルユツエルンを望み、チュリツヒを望みて、恍惚無何有の郷に遊ぶの想あり。爾來夢寐の際憧憬して未だ曾て懐に忘るゝ事あらず。而して他の諸湖を觀ざるを憾とす。今年圖らず再遊の俸運に會す、乃ち素懷を慰め、宿望を遂ぐるの計を爲せり。先づ伊太利ジェノアに上陸し、ア



ルベンの山脈を越えて瑞西ジエネヴァに出づ、淹留數日。更に汽船に駕してロザンに渡り、又泊ると稍長し。自働車を驅りて終に湖水の盡くる所を極むるに至る。兩岸の風光概ね之れを賞するを得たり。ロザンよりベルンに赴く、猶ほ多く鐵道に由らず。ツルン湖を貫きプリンツェ湖を通じて而して兩湖の間インテルラケンの勝區に駐るとを敢てす。ベルンよりしてチュリツヒに來る同じくサンネンの小湖を伏瞰し、ルユツェルンの舊遊を新にして、而して今實にチュリツヒのバウル旅館に宿れり。バウル旅館は自ら湖畔樓と號す。以て景勝占有の一端を覗ふに足れり。斯くの如くして始めて瑞西湖水の大半を遊覽す。ラシャテル、コンスタンスの諸湖は東西兩隅に偏在するを以て未だ訪はずと雖も、畧ぼ瑞西山水の月旦を試むに堪ゆべし。想ふに余の觀る所湖水の最大なるものはジエネヴァ湖なり、一にレマンとも曰ふ。約我が琵琶湖に匹敵せり。而して景勝亦相較ぶるに適せり。ツルン、プリンツェ兩湖とルユツェルンのフイヤワルド湖とは野趣を以てしては或はレマンの上に在り。同遊伊藤氏之を以て我が葦の湖に比し、中禪寺の湖に喩ふる、必ず當らずとせず。況んや前兩湖の瀑布に富み、後一湖の森林蒼鬱たる、遂に箱根日光に凌駕するものあるをや。然かも全面を達觀すれば終にレマンの廣大にして尙且つ明媚なるに

及ばず。チュリツヒ湖の如きは似て頗る小なるもののみ。由つて戯にレマン湖八景を撰ぶ。曰はくコツベの秋月、曰はくロザンの晚鐘、曰はくジエネヴァの歸帆、曰はくルツツー島の夜雨、曰はくキヨンの落雁、曰くトロンの晴嵐、曰はくモントロウの夕照、而して比良の暮雪は則ちモンブラン之れに當れり。余のロザンに在るや泊る所は湖畔第一のギボン樓なり。此の樓曾てギボンの久しく滯留して夫の羅馬史を著はす所なりと云ふ。又以て紫式部の源語と比すべき所あり。キヨンの古城は水中に聳ゆ。パイロン飄泊して此に居り、吟咏今猶ほ人口に膾炙す。是れ亦對較の料と爲すべき乎。ベスタロッチの遺跡各處に在り、イヴェルトンの如きは太だ遠しとなさず。或は中江藤樹の深溝と並稱するも可なり。嗚呼余は實に瑞西を去るに忍びざる也。(六月廿五日夕)

## 英國の詩郷

吾は素より是れ生れて詩人にあらず、又所謂文士なる者とは自ら其の選を異にせり。苟も俗界と懸隔し實際と背馳せんは、未だ曾て吾の望まざる所なり。然も研究と謂ひ調査と謂ふもの、必ずしも悉く而白き事にあらず。況んや倫敦煤働の空氣は



滞留既に數週に亘るの吾をして夢寐田園自然の美景に憧憬せしむるをや。之れを近くにしてはハンブステッドあり、キユウあり。リッチモンド、ハンプトンコート皆逍遙の値あり。之れを遠くにしては又キンズルに、イートンに、乃至ケンブリッヂ、オックスフォードに、共に風光の頗る雅なる少しとせず。而して吾が自然憧憬の情は未だ此等に由りて以て十分の安慰を享くる能はず。乃ち去りて北方蘇格蘭の景色を尋ねんと思立てると同時に、途すがら英國の湖水地方をも探りて、更に興趣を縦にせんと企てたり。曩に吾れ英國に留學するや、早く北遊を試みしことなきにあらず。然かも時の吾と相背くあり、毎に諸事の意に満たざるを憾みとせり。今茲に再遊の好機を得る、固より素懷を遂げずして已むべきにあらざるなり。抑も所謂英國湖水地方は其規模に於て復た決して瑞西諸湖の敵にあらず。否、萊因河畔の山水景物亦た此れに勝るあるも劣るなかるべし。唯だ其の詩趣に富み理想に深きものあるに至りては、必ずしも瑞萊の兩者に多く譲るべきにあらず。之れを前にしてはウオーズワースあり。コルリッヅあり。ソーセイに、ラスキンに、英國近世の詩伯此地を以て栖處とする者相踵ぐを見ては、眞に無可有の僥境と謂つべき乎。昨七日朝倫敦を發して北西の鐵路を取り、夕にウインダ湖畔のボウネスに宿る。長程三百哩、處々名

勝の録すべきもの多し。リッチフィールドはジョンソンの生地と聞きて、感興鮮からず。車愈、北して境愈、雅に、ケンデルの一邑早くウオーズワースを懷はしむ。もし夫れ今朝夙に舟を僦うてウインダ湖を廻るに及んでは、吾れはすでに悉くウオーズワース詩中の人たり。スカプフェルの高巒は稍、遠くして雲霧の遮蔽する所となれりと雖、ベルアイルの小嶼は近く吾を相迎へて美婦の嬌笑を呈するに似たり。山に、野に、木に、水に、而して牛あり、馬あり、羊あり、放牧の恢々として敢て束縛を須むざるは、蓋し太古の遺風を存する者か。舟はフイターヘッドの埠頭に泊す。便ち馬車に乗じてアンブルサイトに向ひ、且つ試にワインフェル山下にストックギルの瀑布を訪へり。水必ず高からず又必ず太しとせず。然かも雄雌兩瀑左右に懸り、巨巖みな流れを圍て終に一つとなるは、他に其匹乏しと思はる。况んや細徑を辿り小棧を涉りて深樹密林をくぐるが如きは、頗る洛西高雄、梅尾に肖て、更に境趣の幽なるあるをや。若夫れ彼に紅於二月の花あり、此れには全く缺けたりと雖も、然れども時、盛夏避暑の季に當り、遠近都鄙の淑女參伍相携へて徘徊するを觀ては、解語の花他の紅葉と孰か艶なるぞと問はざる能はず。午餐を了へて再び大馬車を賃し、屋蓋に踞して行く。同席十有二名。吾が同行伊藤、奥井二子を除かば、概ね女性なり。前後兩三車亦之に同じ



うす。ライダル湖を始めとし、グラス湖を中とし、サール湖を終とし、三湖大小未だ一ならずと雖、約一里を隔て、相聯絡するは、好貫珠と稱せざるべからず。クラズ湖畔の一古刹にウォズワースの遺墳を吊す。田園詩人たり湖畔雅客たる英靈は果して泉下に吾が行を何と観るか。同行伊藤子は實業を旨とし、未だ詩を讀む多からず、然かも播南農村に人となり、夙に野趣を解する深く、又禪味饒し。頃日各處の田園都市を探究してなほ意に満たざる所あり、今月今日此の詩境に遊び則ち屢、掌を拍ちて快哉を呼ぶは宜なる哉。タンノールの岡は傾斜太だ急なるを以て、乗車を降りて歩む。山腹石壁の累々として、牧場を別つあり、苔蘚青くして、秋草の朱黄と相映する太だ古雅なるに、阜頭カンブリア王の陵墓荒廢を極めたるは、轉た詩腸を絞るべし。況んやキスバインの村寺構造奇古にして、簡朴なるをや。サール湖は近頃マンチエスタ市の購ふ所となりて、水道の源泉に充てらる。然かも毫も俗惡の設計を施さざるは、吾が意を得たり。詩靈亦多く咎めざるべきか。斯くてデレントの谿淵を直下して、グレタ河畔のケジック邑に著す。途次逢ふ所時に、輕井澤を偲ばしむるものあり。詩人シェレイ亦此に飄泊せしとありと云ふ。回想して、愈、詩郷の名ひなしからずと信ず。而して、車行日暮れんとして、ウォズワースの舊樓を尋ぬるに及ばざり

しを憾とするのみ。彼れ曾て暴風雨の後谿淵に徜徉して歌を詠じて曰く

Loud is the vale! the voice is up

With which she speaks when storms are gone;

A mighty unison of streams!

Of all her voices, One!

溪聲は高く喧し

風雨に吼けりし時

水流は大にして和せり

衆音の中一致を得

吾今倫敦の喧騒を辭して詩境に一夕を樂む。又趣味の之と相似る太だ深き者あり。

(八月八日)

### ウオタロー古戰場を弔ふ

明治四十三年九月梨庵子漂泊して西歐白耳義のブリュセルに在り、一日急に行いて東南五里の所にウオタローの古戰場を弔す。梨庵子素より兵家にあらず、特に近頃萬國平和を唱るに由つて名あり。而も今や行いて古戰場を弔する所以は梨庵子



も亦實に一個の人間なればなり。

ブリュセルよりウォタローに行く汽車の便あり、然りと雖も往くに馬車を以てし還るに汽車を以てす、之れを最便とす。梨庵子往還汽車に由るものは晏起癖をなして時間に乏しきを以てなり。汽車はウォタロー驛に駐らずして、次驛のブレインヌラローに到る。蓋し古戦場常に冒してウイタローと稱するは實は過てり。ウォタローは固是れ英將ウエリントン假に宿泊し且つ病院を置くの所、戦場はモンサンジヤン附近に在り。乃ちブレインヌラローに由りて行くを順路とす。

驛前馬車あり迎て極めて懇懃なり。曰く是はホテルの豫め遣す所なり、ホテル名はブラウン、夫の獅子塔下に在り、特に一小博物館を設けて大戦の遺物を蒐集陳列す、即ち一に博物館、旅亭と稱す、大官若し是れに由らば諸事毫も不便なからん、戦場を馳驅し遺跡を歴訪する、亦一に客の欲する所に任かすと。又可ならずや。

馬車田徑の間を走る約十分許。平々凡々別に他奇なし。唯だ此の廣野所謂一望千里、山岳丘陵の眸中に入るものなし。僅に土地高低あり、岡陵徐に起伏するのみ。夫の關ヶ原の如きは固より同日の談にあらず。眞に天下の大戦を決するに適せり。遺物博物館は誠に名詮自稱なり。彼我兩軍の軍装武器其の數太だ多し。然も遊

子落涙を禁ぜざるものは幾多、髑髏の玻璃窓中に並べるなり。曰はく戦後數年此の家を作らんとして土地を穿つ數尺、骸骨累々として肉なほ枯れざるものありきと。嗚呼悲哉。

乃ち家を辭して門前數十歩の處に聳ゆる獅子塔に登る。塔は固是埃及塔のピラミッドに擬せるもの。石階二百六十餘級。上に鑄鐵の大獅あり、東南に面して將に虚吼せんとする者の如し。此の塔は英蘭聯合軍戦勝の記念として築造する所なり。而して蘭將オランダ公傷を負ふの地點とす。若夫れ大獅子は佛軍より奪ふ所の砲身を以て鑄製すと云ふ如きは虚傳なり。按ずるに獅子は素英蘭西兩國の旗章なり、唯だ其の尾を卷くに上下あるを以て分つ。此の獅子は下尾なり、即ち和蘭の獅子にして由來する所公爵の戦功を銘するに外ならず。

塔上三四の男女あり、一老漢の士官服を装ふ者、輕鞭を手にして將さに鬪戦の概況を指斥して説明せんとす。蓋し塔は最高點に在り。東西南北伏瞰し遙望するに頗る便なりとす。梨庵子地圖を懐にして行く。乃ち披いて又之れを聽けり。

君看ずや塔下大道の坦々たるあるは羅馬の舊道にしてシャルロアよりしてブリュセルに通ず、是れ正さに英佛兩軍を貫絡するものなり。英軍は西北ウォタロー



を假營とし、佛軍は東南カトルブラーを其の據る所とす。而して塔下又此の大道を横ざりて南北に走るの一路あり、即ち是れ兩軍戦線の相面する所なり。英將ウエリントン初め交叉點に在り。後ち此の塔下に旗を樹てたりと。

英佛兩軍兵數に於ては大差なし。佛軍稍優勢とす。英軍總員九萬五千、砲門は百八十六あり。佛軍は人拾貳萬八千にして砲は三百四十四門を備ふ。但し英軍には別に普魯西軍の同盟あり。ブリュヘル公これを率ゐ、拾貳萬四千の大軍を擁してナミールに本營を置く。將さに大舉して北より南に席捲する所あらんとす。ナポレオンの方畧は實に英普兩戦線の間に入してその聯合を中斷せんとするにあり。

決戦は實に千八百十五年六月十八日に在り。午前十時よりして午後四時に及ぶ。兩軍肉薄して劍戟相磨す、日露戦争に於て見る所の如し。塔南ブクモンの一區特に激烈を極む。而して佛軍終に利あらず、萬事則ち休すと。説明者は素と英人にして義勇兵の士官たり。南阿に戦ふことあり、夙に日本軍隊の勇武を慕ふ。數々日露戦争を引いて談話極めて適切なり。只だ語調輕薄にして媚ぶるが如くなるは取らず。晝餐の後馬車を馳せてかの大道を行く。英將ゴルドンの碑あり。ハノーヴェル軍の追弔碑あり。アイサントと謂ひ、ベルアライヤンスと謂ふ。凡そ途の兩側莊家

旗亭の戰に因縁あるもの少からず。特に佛軍の記念塔を看ては落涙數行なり。大驚其の翼を破りて落つるの形を鑄る。何等の慘狀ぞ。

乃ち轉じてブクモンに向ふ。一大莊家の小城堡に似たるもの。門壁今なほ銃砲の痕を存するあり。枯泉あり。兩軍の死屍を投じて葬る算なしと。廣庭には草茫茫として鬼哭啾々たり。蓋し此の日天色暗憺、秋風蕭條。梨庵子深く面を掩ふて行く。而して戰慄栗膚するものは必ずしも風の寒きためのみにあらず。

梨庵子夙にナポレオンの英姿を懷ふ。ウエリントンの如きは畢竟凡庸のみ、固より其の敵にあらず。勝敗常なしと云へども、佛軍の大敗吾終に其の故を解せず。佛國編將グルシー兵法を辨へず進退機宜を失するあり。蘭將コンスタン、ルベック鋭敏にしてウエリントンの失を補ふ。一勝一敗分るゝ、所以此に在りと。史家の評判を待たんのみ。

或は曰はくナポレオンの敗北は天命なり。若しナポレオンにして勝たしめば人文自由の進歩或は沮碍せられしならんと。梨庵子未だ之れを信ぜず。蓋し自由の進歩は自然の數なり。豪傑又之れを奈何とも做し難し。梨庵子は唯だ勝つべき者をして勝たしめたかりしのみ。復た何をか謂はん。



想ふに今や世界列強互に同盟して提携す。日露既に和し、英佛又和し、終に最近獨英の交歡に及ぶ。平和の攪擾は力めて之れを避けざるべからずと雖も、然かも偉人を景慕するとは敢て變らず。

梨庵子往年佛國に學ぶ、ナポレオンの事を聞く多し。獨逸に轉ずるに及んでイェナ、ライプツヒ兩地共に留學して勝敗の跡を訪ふこと少からず。而して此の最終の大戦場を過ぎず、竊に遺憾とす。今や多年の襟懷を慰す亦多幸なる哉。此の日同行は伊藤、奥井二子なり。訪弔の記を作る。(十月三日夕)

### 歐洲漫遊史談

諸君。本日常史學研究會例會を開かるゝに方り、余亦會員の席末を汚すの故を以て、特に此の茶話會に於て一場の漫遊談を試むる事を許されたるは光榮と謂はざるべからず。但し余が今度の旅行は再遊とは云ひながらも、日子太だ短かく、而して足跡は比較的に廣きに亘りたれば、緩々滯留して研究調査するの暇なく、剩へ旅行の目的元來他の教育事業と社會政策との關係を究むるに在りて、史跡の探索などは敢て

望む所にあらざりしかば、別に茲に事々しく報導すべき程の材料は持たず。唯だ到處所謂名所古跡と稱する所は曾て一度見たるとあるに拘らず、同行者の爲めに再び立寄りて觀たるも少からず。又今度實に新に訪尋ねたる所さへ無きにしもあらざるなり。

例之船ネーブルスに碇泊してはボンベイの故墟發掘の近況を參觀するに怠らず。ジェノアに上陸してはコロンブスの生れたる家など云ふもいち早く行きて見たり。ロザンの旅館はギボンの史筆を揮ひし所にて今も其の名を冒せるを想へば、轉々懷慕に堪へざるものあり。和蘭に入るやヘーグにては夫の萬國平和會議の始めて開かれたる林中の離宮を拜觀し、アムステルダムに遊びては東洋貿易に關する諸般の陳列を國立博物館に通覽せり。舟に汽車にライン河を上下するに際しては、古城を望見し新碑を仰視するなど、史的趣味は固より乏しからず。北獨逸に於てはフレメン、リュベック共に今猶ほハンサ同盟の遺物を觀ると多し。丁抹、瑞典並に露西亞は全く初遊なれば興味最も深く、チャーレス十二世並にペートル大帝の事跡は固より決して輕々看過するを許されず。尙且つストックホルムに於けるスカンセン公園内の露天博物館が卓拔なる新工夫を以て同國古代の建物を其の儘寫して彼處此處に排



置したるなど、一々仔細に述べれば容易に盡くすべくもあらず。唯だ今回は是非共埃及、パレスティン、希臘、土耳其にも一遊すべく企てたりしに、途中障る事ありて復た果たす能はざりしは太だ遺憾とす。

斯くて割合に長く滞在したりしは英京倫敦と獨逸首府の柏林となるが、倫敦滞在中は時々夫のブリッチェン、ミュージアムに出入し、別して埃及の考古學的研究を試むるを樂としたれば、多少の得る所もありたる様に思はるゝが、今日は諸君の御參考の爲め同博物館埃及部の陳列品目録圖書閱覽室の雛形規則並に同館出版のミルトンの自筆の證文等を持参したり。而して小生が研究成績として他日若し熟案とならば廣く内外諸家の意見を聞質したしと考へたるは、夫の耶穌基督の負へる十字架は、或は古埃及人が死屍を葬るに方り一種の護符として、屍首に懸けたる十字架の、小片より轉じたるものには、非ずやと想像し始めたる事なり。此の護符は長さ一寸以内あるが、形狀は必ずしも一ならず。然かも『死人書』の記する所に據れば此の首飾の目的は死人に勇氣と奮力とを與へ、青春の妙齡に回歸して復活の命脈を永く維持せしむる効ありとするものゝ如し。又別に稍異なりたる形したる護符を懸くることもあり。是れは素と樹木の幹と枝とを表出せるものにして、之れに由りて死人に身體を

回復すべき耐久性と勢力とを賦與すべしといふ。此の事は『死人書』にイシスがオシリスの遺骸を樹上に藏めたりとあるに基づくとの説あり。而して愚考にては、前の十字形の護符も亦實は此の樹狀符より一轉したるものにあらずやとするなり。余は今度埃及の古物を調査するに方り、我が國神道の傳ふる所と相似たるもの頗る多きに氣付けり。先般木村鷹太郎氏が『讀賣』紙上に公にしたりし新説の如きは或は稍奇に過ぎたりとせんも、幸に我が史學研究會員中には濱田君の如き熱心眞摯の埃及研究家もあることなれば、何卒此の方面に於ても追々新發見あらんとを切望するなり。頃日幸徳秋水の遺稿として『基督抹殺論』なる一小冊子出たり、其中に十字架は生殖器の表象に外ならずとの説あり。此の説は西洋人中にも早くより往々耳にする所なるが、然かも余は別考として此の埃及護符説を試に提出せんとするなり。

又余は倫敦滞在中小閑を偷みて蘇格蘭旅行を試み、特に前年初遊以來夢寐忘るゝ能はざるエデンバラを再び見るとを得たるは最も喜ぶ所なりとす。抑々エデンバラは實に北歐の小アゼンス府と唱へられ、誠に趣味の饒き所なるが、就中其古城並に城東のホリロッド宮は歴史を讀む者には非常に面白き所なりと謂はざるべからず。



ホリロッド宮は其後大修繕を加へられ、例のリッチオが恨みの血痕は最早や剝落したれば、今では床上眞鍮板を嵌して其の所を示すととなりたるは、些か感興を殺ぎたれども、然かも亦後庭とやらに一個の匕首を發見したりとて、新に陳列したるは何となく當時を偲ぶの料となりて、佇立良久しくせりき。ハイストリートの本通りにてはアダムスミスの舊居を訪ひ、墳墓をも弔らひたるが、ジョンノックスの故宅は幾度觀ても趣多き所なり。其の下に古本屋あり、主人は大のノックス崇拜家にして又エデンバラの史談に精しき人なるが、客の需に應じて一々説明して倦むを知らず。店頭偶一古圖の近刊したるを販きたれば購ひ歸りて本日此所に持參せり。原圖はデグイドの作る所にして、千六百四十七年のものなりと云ふ。

將た又此の玻璃製の圓き文鎮は中に寫眞を入れたり。何卒此れにお目を留められんとを願ふ次第なるが、是は何ぞと問へば蘇格蘭のレガリアとて國王の神器なり。是れは同國獨立の昔國王々位の飾りとせしものなるが、今は益しくエデンバラ城内の王冠室に保存せられて公衆の縦覽に供せり。然かも蘇格蘭人の愛國心は實に今日も猶ほ是等の神器に繋れりと謂ふべく、一同之れを仰いて竊に故國の誇りとせるものから、誰しも伏仰無限の感慨あるものゝ如し。所謂レガリアは寶冠、寶劍、寶笏の

三つを主とし、外に蘇格蘭大藏尙書の杖もあり。此等の寶品はそれ々々來歴あり、又之れに關して面白き事跡も傳はれり。

聞くが如くんば當國々王の位には早くより王冠の有るあり、第十一世紀の半頃夫のマクベス廢され、マルコム、シンモア即位するに際しても、戴冠式をスコインの寺院に舉行したりしが如し。但し此の古寶冠は千二百九十六年ジョーン、ベリオルの廢位と共に英吉利王エドワード一世の奪ふ所となつて倫敦に持歸へられ、今は其の所在詳ならず。斯くて現存の寶冠は其の後ロバート、ザブリユイスの再び蘇國獨立を回復し王位に即きてより新に作らしめたるものにして、然かもロバートが千三百六年に即位の際は寶冠なく、黄金環を戴きて間に合はせたりと云へば、現存の寶冠は千三百十四年にロバートがバンノックバインの戰勝に由り王權を鞏固にしたる頃に作られたるものと看らる。而して其の製作の方法亦明に第十四世紀初期の物たるを示せるが如し。即ち此の寶冠を始めて戴きたる人はロバートの子ダウイド二世なりと推定して可ならん。後ちジェームス五世更に頂上に弓を添へて愈、莊嚴と成れり。直徑約九寸、周圍二十七寸、高さ六寸半、重量五十六オンスあり。金剛石、ルビイ、眞珠等無數に嵌入したり。また寶劍は羅馬法王ジュリアス二世がジェームス五



世に贈りたるものにして、全長五尺あり。鞘は赤色の天鵝絨を以て作り、金線銀線を以て細工したる網にて覆へり。笏は銀臺にして金滅金したるが、細く華奢にて、長さ三尺九寸程あり。聖母マリイ并に聖アンドリアス聖ジェームス等の像を刻めり。而して其の頭首は一大球を爲し、東洋産の眞珠を嵌入せり。是れ亦ジェームス五世時代の作にして、千五百三十六年に成りたるなるべしといふ。

倍此等神器の履歴に就いては頗る面白き譚あり、それはチャールズ二世が兼ねて蘇格蘭王たりし間に夫の大叛亂起り、民黨の攻勢當り難く、神器も奪掠の危険に瀕したりしを、妙に免かれたるとなり。當時神器はダンノッター城中に安置せり。城を守りし者はジョージ、オギルヴィといふ人なるが、叛徒愈々切迫するを見て、千六百五十年十一月二十日に國王チャールズに密書を送りて輕舟をダンノッターに遣はし、神器を載せて安全の地に移さんことを求めたり。然かも國王は其の請に應ずる能はず。叛徒は愈々迫りて翌年一月三日には、遂に名譽の開城を強ふるに至れり。此の危急存亡の秋に方り巧に神器を擁護して之れを隱藏し得たるは、全く一女性の功なり。即ち一妙計を案出せし人はメヤスカル伯爵の未亡人なるが、又之れが直接實施の重任を帯びたる人はキンネップの牧師ジェームス、グランジャーの妻なるクリスチ

アン、フレッチャーなり。キンネップといふはダンノッター城より四五哩を隔てたる一寒村に過ぎざるが、此僧は夙に城主の奥向に伺候するの許可を得たり。乃ちメヤスカル夫人は此の僧妻に託して神器を件の寒村小寺に深く埋藏せしめんとせしにて、登城の歸途王冠はグランジャーの妻親く前垂の中に匿して乗馬し、又其の婢は徒歩の儘其の携へたる縋帯切の束の中に寶劍と寶笏とを收めて辛く虎口を逃出てたり。是れ實に三月中の事なり。未幾城を開く。而して叛徒等神器あらざるを以て城主夫婦を責問すると太だ酷なりしが終に實を白さず。メヤスカル夫人は辭を設けて城の危急に際するや、豫め其の末子サー、ジョン、ケートに委ねて遠く海外に持去らしめたりと云へり。ケート亦捕はれて糾明せらるゝや、同じく詐りて神器は曾て親ら携へて佛蘭西に渡り、チャールズ二世に奉れりと云ふ。斯くして神器は寒村の小寺に無事に埋藏せられたりしが、亂平き王位恢復せられて後神器亦速に國王の手に還れり。ケートの伯爵を授けられ、オギルヴィに男爵を賜へるは皆其の偉勳を賞してなり。牧師夫妻亦厚祿を與へられたりと云ふ。爾來神器は蘇格蘭議會々期中は公衆に示して、以て國家獨立の證としたりしが、千七百七年三月英蘇兩國併合に及び、蘇國舊來の神器は封じて櫃中に收め、錠前を堅くして開くを得せしめず、エデンバラ城中



の王冠室と稱する一室に安置して、門扉を嚴重にし、壁窓を堅固にして、人の奪ふ所とならざるを防ぎ、尙且詳密の記載を作り、一本を櫃中に入れ以て他日の證左となせり。千七百十七年に及び攝政親王は今や既に蘇格蘭臣民の叛意なきを認め、斯の貴重の神器を空しく暗黒裡に埋藏するの必要なしとし、委員を任じ、翌十八年二月四日一同立合の上王冠室に入り、大櫃を打壞りて再び青天白日の下に衆目に映ずるとは成せり。蘇格蘭臣民從來或は神器の存在を疑ひし者もあり、今や其の無事安全なるを見て欣喜雀躍頻に歡呼せりと云ふ。今猶ほ城頭國王旗を翻すは此の神器あるが爲めなり。我が國刻下南北兩朝正閏の論太だ喧し、偶々此の蘇國神器の事を述ぶるにも多少の興味あるべしと思ひて、燕辭を陳ぬ。其餘は暫く他日に譲るべし。而して余は蘇國史の研究亦忽にすべからざるものあるを示し得たれば望外の幸福なりと信ずる也。(京都文科大學史學研究會にて朗讀)

## 第 貳 篇

教育宗教談



第貳篇 見聞雜纂 (上) 教育宗教

歐米教育所見

今度歸朝に際し京都市教育會より斯の如き盛大なる歓迎を受くるは望外の光榮にして、予の素より當らざる所なりと雖も、二十世紀に於ける歐米教育界の一特長とも見るべきタウンとガウンとの結合、即ち市民と大學との親密提携を摸すべき一助として此の會を開かれたるものなりとせば、予の茲に出席して諸君の歓迎を受くるの意義亦自から空しからざるを覺ゆ。予は昨年五月九日當地を出發して歐米再遊の途に上り、本年一月九日歸朝したる者にて、此の間僅かに八箇月。然も其の歴遊せる範圍は大小十五箇國の多きに上れるを以て、長きも一ヶ月、短かきは一週間滯留したるのみにて、ホンの素通りの旅行に過ぎず。予は此の短期漫遊中主として社會制度と教育との關係、各國の社會政策につき調査せんと志し、時恰も日英博覽會及び白耳義萬國大博覽會の開設中なりしを以て、先づ此の兩博覽會に於ける教育部を視察する所ありき。

日英博覽會は一言にして評すれば規模の大なる見世物に過ぎず。華美輕浮を主



とする見世物に就きて、地味にして真面目なる教育を發見せんとするは、頗る無理なる注文と謂ふべし。之れと異なり萬國大博覽會は世界文明の時機を劃する世界的の大施設なるに、當初我政府が彼に賛同して之れに賛同せざりしは種々政治、經濟上の事情の存するとは云へ、頗る遺憾の事と云はざるべからず。日英博に於ける日本の教育出品は上は大學より下は低度の初等教育、實業補習教育等に至る迄、頗る精細を極め、一々觀來れば東洋戰勝國の教育の進歩を誇るに足るべき資材ならざるはなかりしと雖、奈何せん其の陳列に與へられたる區域は甚だ狭くして、眼の届かざる程の高き所に細字の統計書類を掲げ、或は横に重なり合ふが如き窮窟の場所に大切の書類を押し込むなど、其の陳列品としての待遇は極めて疎略に扱はれ、單に女學校生徒の製作に成る華麗なる衣服が婦人の注目を惹くの外、毎日平均二萬の入場者中此處に足を向くる者少く、寂々寥々毎に二三の人影を認むるに過ぎざりしは予の第一に失望を禁ずる能はざる所なりし。讎つて英國側の教育部を觀るに日本部に比して其の出品物は極めて寡なく、出品區域中多くの空地を存し、日本人の觀覽者極めて稀なりしは、是れ亦予の失望に堪へざる所なりしも、然も再三再四精細の觀覽を試むるに及んで、此の寡少の出品物中現代に於ける英國教育の特徴を知得すべきものあり。

即ち予は左の三點を發見したりき。

一、獨り高等教育と云はず低度の小學教育に於て非常に體育を獎勵するに至れる事

二、手工教育、家事教育の進歩せし事

三、校外教育即ち林間學校等の盛んになりし事

十年前予の初めて漫遊したりし當時は、右三點の如きは所謂教育論者の聲として耳にするに過ぎざりしが、今日は既に之が實行期に入れるものにて、到る所に於て是等の施設を見るを得たり。歐米新教育の趨勢は蓋し此の三要點に歸着せる者の如くなり。

白耳義ブリュセル市に開かれたる萬國大博覽會には、教育部の特別館以外別に市の教育館の設けもありて、視察の效果少なからず。元來白國は大國の間に介在せる小國にして、列強勢力均衡の楔子となり居れる者なれば、其の獨立上殆んど軍備の必要を認めず、國力を擧げて教育産業等の方面に傾注し、大學教育、實業教育の隆盛なる佛獨諸強國に劣らざるものあり。市の教育特別館を設けたる又故なきにあらざるなり。其の陳列品の多くは實業教育に關するものにして、男女生徒に手工を獎勵せ



るの風潮を知るに足るべく、殊に浮浪少年の感化教育につき詳細なる方法及び成績の示されたるは社會教育の参考上資益する所尠なからざるものあり。

若し其れ一方の教育特別館内に於ける佛獨兩國の競争出品に至つては實に大博覽會中の一偉觀にして、獨逸が天下に誇るに足るべく學術教育の眞髓は、一目の下に蒐められ、幼稚園、小學校、女子教育、簡易實業學校、中學校、高等專門學校、大學教育等の各部門に分ちて整然たる陳列を行ひ、中には大規模なる教場を設けて實際的設備を紹介するに努むるなど、有繋は學問の隆昌を以て鳴る一等文明國の出品なりと肯づかしむるものあり。此處にても英國教育の特長として擧げたる初等教育の手工や、女子の家事教育、割烹、裁縫等、林間學校即ち露天教育等盛んに獎勵されつゝある事を觀取し得たり。

更に獨逸の内地に遊びて教育の實地視察を試みたるに、林間學校の特長は至る所に發見され、柏林市の一區劃シャロットベルヒのみにも十二箇所の多きに達せるを見たり。中には療養學校として夏季休業を利用して林間に露天教育を行ふ者も亦少なからず。一個所に七八十人を容るゝの設備となし、二時間の復習を了へたる後は勝手に遊び戯るゝに任せ、清涼なる自然の大氣と愉快なる心身の運動とに由

りて、心育及體育上の効果を擧げんとするものにして、虛弱憂鬱性の人々は之れに依りて健全活潑の人たるを得べく、別に休暇、殖民と稱へ夏休に際し多くの子供を一團として、清澄快潤なる海邊に旅行せしむるが如き方法も頻々として行はる。然かも是等の費用が多く、篤志家の寄附に出づるものなるは、我が國の採つて以て範とすべき處なるべく、京都の如き地勢に在る小學校、兒童に對しては、今後益、此の海濱旅行を行はん事を薦むるものなり。

十年前の初遊には瑞西のヘルセングラープの小學校を以て理想的のものとな観たりしが、今回は他國の進歩したる爲めか爾かく感ぜず。脚、瑞典に入るに及んで初等教育の最も發達したる國は此處なんめりと感じ入りたり。其のストックホルムに於て參觀したる一小學校の如き建築費八十萬と稱され、外觀の宏壯と相俟つて内部の設備の完整せる實に驚くべきものあり。瑞典式體操の本家丈けありて體操室の廣く且多きは其の特長とも云ふべく、校の内外に亘りて澤山の設けあり。手工教育は又時間外に盛んに行ひ居るを見受けたりき。

米國教育の隆盛なるは歐洲諸國に譲らざるのみならず、或部分に於ては之れを凌駕せんとするものあり。殊に初等教育、女子教育に於て然りとす。米國女子の體操



の勇ましく有髯男子と角逐して盛んに飛び廻はるの有様は、我が國の柔順なるお嬢様式の想像だも及ばざる所、お轉婆との譏りもあるならんが、其の體育に重きを置くの風潮は大に我の學ぶべき所なるべし。女子教育に於ては家事經濟に關するもの重きを占め、紐育市に在る大學中米國第一とも謂ふべきはコロンビヤ大學に附屬として家事大學の設けあり。家事の一科を専門の大學として設けること既に驚くべき現象なるに、其の堂々たる大建築の内部にある一切の設備の整頓せるは更に驚くべく、割烹用の化學實驗室を始め教室、裁縫室、刺繡室等の設備實に至れり盡せるものあり。其の教ゆる所が架空的ならずして實際的なる、書物的ならずして實驗的なる、大に學ぶべきものあり。十年前までは斯く有れかし斯く爲さざるべからずと唱へたりし體育、手工、家事經濟及び露天學校等の施設が、今日は既に歐米の教育界を通じて着々事實の上に現はれつゝあるは、以上二三の事例につきても明かなるべく、實に我が國教育家諸君の一考を煩はさざるべからざる也。

歐米教育界の現状前述の如し、予は更に最新思想につきて一言せん。今や獨逸に於てはアルバイト、シュローレー即ち仕事學校と云へる新熟語起り、教育界の警語として激動を與へつゝあり。是れ從來のレルン、シュローレー(習ふ學校)に對して起り

たるものにして、今日までの教育の遣方は無暗に記憶に訴へ、抽象的の詰込主義に偏して腦力を濫費するの弊あり。依つて今後は之れを改善して兒童の心理を考へ、其の個人性を尊重して心身兩面の健全なる發達を期せざるべからず。アルバイト、シュローレーの意義又茲に存するなり。此の意味より云ふ時は小學校の如き初めの一二年間は、別段時間的に教授を施す事を爲さず、從來殆んど必須的のものとしてせられし讀書、算術なども餘り重くするとなく、兒童自身に於て自ら考へ自ら働かしむる様に仕向け、統一的に學科を授くるが如き事を避け、記憶、推理等の抽象的方面以外に感情意思を養成する具體的教育を施さざるべからず。即ち仕事學校は觀察、提示、自修の三要素より成り、兒童自ら物を作るの謂にして、今後の教育は學者や本讀を養成するに非ず、實行家、働き手を養ふを本義とせざるべからずと云ふなり。

此の思想は勿論今日遽かに生れたりと云ふにはあらず、ルソー、ベスタロジ、フレイベル等の諸先輩によりて既に唱道され居るものなるも、將來殆んど實行の端緒を見る能はず。今日は最早書物や口の上にて彼れ是れ議論すべき時代にあらず、只其れ是等先輩の言を實行するにありとし、米國教育の進歩に動かされたる獨人は、茲に奮然として實行運動に着手するに至りたるなり。一九〇四年ミューンヘン市の學



事參事官ケルシエンスタイン氏の唱道したるを手始めとし、一時ミュンヘンは此の運動の中心點となりしが、漸次北進してハンブルグ市に移れり。此の市は一區劃をなし、獨立せる所なれば、社會制度の上に於て萬事意の如くに行はれ、アルバイト、ジュレの實行も亦中々盛んなるものあり。現時又ライプツヒの教育部長フォール博士は熱心に之を唱道して卒先實行の任に當り、市の中央に宏大なる手工學校を設立して新思想に基づく教育を施し、着々良果を收めつゝあり。否此の運動は獨り初等教育に止まらず、更に進んで中等教育にも應用されんとする有様にて、パーゼンの高等實科中學校長の如きも、中學校に於ける初一二年間はアルバイト主義によりて教育せざるべからずと唱へ居れり。

斯の如き有様にて、兎に角現代的教育としては、學科の如きも空理を避けて實際を主とし、書物のみに依らず自然に親しみ物質に基きて教育を施す事肝要にして、教育實驗所を設くるが如き、最も機宜に適したるものなりとせり。

日本の教員先生達は生徒に本を読むことを教ふるに止まらずして、教員自らも本を読む事のみ熱中し、無暗と新知識を獵るに努むるは、チト考へ違ひに非ずや。泰西の新知識が續々と輸入せられたる今日に當りては、日本の新知識も左程に不足を告げず、唯其れ新知識を實行する事が不足を告げつゝあるなり。世の教員諸氏に望む、徒らに書物を読み新思想を聞くに止まらず、進んで其の一部にてもアルバイトするに努め、實行の先鞭を付くるに心掛けられん事を。(日出新聞)

### 教育事業と社會改良

余曩に歐米に留學すること短しとせず。仔細に教育事業を観察するに及んで、凡て教育なるものは、又決して區々學校教授管理の事にあらざるを悟るあり、乃ち復た五段四段の教授法を云々せず、新に新教育の大幢を樹て、教育は實は是れ社會改良の一方面なる事を唱道せり。爾來研究と主張と、愈年を累ぬるに従ひて、躬ら知識經驗の乏しきを自覺し、慚愧に堪へず、好機會あらば海外に再遊せんと志せしや久し。今度圖らず、渡歐したること、必ずしも博覽會見物のみに非ず。沿道は上海に日本人の小學校も見たるに始り、香港に外人の中學校と、孤兒院、貧民院など巡覽し、伊太利に上陸しては、早く有名なるジェノアにアルベルゴ、デイ、ポベルチの大救貧院を訪へり。又瑞西にては、専ら社會經濟的方面を視察し、釀酒製酪を始めとし、農民副業の時計業をも歴觀して、實業教育の必要を明にし、模範農村、田園生活など實地目撃すること頗



る多し。今日も自動車を驅りて、當チユリツヒ市より三四里を隔てたるブルツグに瑞西農民組合本部を訪ひ、ドクトル、ラワー氏と種々懇談する所あり。偶、ブルツグはベスタロツチ終焉の地なるを想ひ、其の家さへありと聞き、更に車を廻らせて、近村ピルの小庵に其の墓を弔せり。夫のアルガウ村民の建てたる碑銘は、此の處に在り。並に上には『醉人の妻』の一節をも壁畫として掲げたり。尙且つベスタロツチのノイホツプも、近き由言ふ者あれど、雨降り日將さに暮れんとしたれば、問ふに暇なし。唯だ途行く牧童さへ、皆ベスタロツチの遺跡を知りて、丁寧に教へ呉るゝこと、嘗に近江聖人のみの事にあらざるを感ぜり。乃ち畢竟ベスタロツチの教育事業も、亦全く社會改良に外ならざるを想ひ、吾輩今度の外遊も、自ら淵源する所あり、ベスタロツチも定めて地下に首肯すべしと考へて、愉快禁じ難し。過日ジエネツを過ぎて、ルツツの『エミル』を回想せしと共に頗る感想あり。終に此一書を認めて、君の机下に遙寄す。併に添ふるに墓碑の寫眞を以てせり。願はくは『教育時論』の餘白に載せて、全國同志に告ぐる所あれ。茲に君の健康を祝し、斯道の發展を祈ると云爾。明治四十三年六月二十四日夜チユリツヒ湖畔のバウル旅館にて。(湯本君へ……教育時論)

### 歐米に於ける社會政策と教育との關係

諸君。今回の洋行は余に取りて第二回目にして、日數往復を合して僅に入ヶ月に過ぎず。特に歐米を通じて十五六箇國を歴遊したれば、十分精密なる視察をなす能はざりき。今度再遊を企てたる目的は恰も白耳義國の萬國大博覽會并に英國の日英博覽會開催を好機として、歐米諸國に於ける社會的施設の近狀を調査し、尙且つ其の教育との關係を見んとするに在りき。故に純粹なる教育問題の如きは十分に視察するに至らざりしを憾とす。本日此處に述べんとする所も亦社會政策と教育との關係に外ならず。

諸君。余は曾てこの演壇に立ちて、大阪市は煙の都にして而かも獨逸のハンブルグ市と頗ぶる相似たりと論ぜしとありき。尤もハンブルグは獨逸北方に於ける第一の世界的商港にして、其の大阪市と根本的に異なる所は、港たると同時に自由市として一國を成せることなり。今日其の道路及衛生上の設備完全なることは全獨逸に冠たりと稱せらる。余は滞在僅に二日、加ふるに病の爲に視察を肆にすることは能はざりしが、聞く所に據れば、近來は小學校の改築も亦盛んに行はれ、兒童の水飲椀類



に至るまで注意行届けりと云ふ。又新設の植民學院あり、宛然一個の商科大學にして、前東京帝國大學教授ラトゲン氏も教鞭を執れり。蓋し同市は獨逸帝國民が外國に發展する門戸として大に期待する所あるなるべし。同市の諸法令を編輯せる大冊子四冊あり、一百マルクを値す。余は購ひ歸りて徐に研究せんと志せり。又以てその盛況の一斑を知る可し。

斯くは言ふものから社會的施設としては或はハンブルグよりも伯林の方優るとあるべし。伯林には最も長く滞在して三週間に亘りしも、同じく病に惱まされて十分の視察を遂ぐる能はざりしが、然かも大體に於て其の社會的施設は見聞するを得たり。余が第一次の遊學の際には、ワルドシュユール即ち林間學校の必要を論ずるものは往々之れを耳にせしも、未だその實現を見るに至らざりしが、今日にては伯林の郊外即ち大伯林の一部シャロットテンベルヒ(人口約三十萬)には早や十二箇の林間學校設けられたり。その最大なるものは曾て市民の散策場たりし綠林の中に在り。廣潤なる校地を有し極めて簡易なる建築なり。砂上にて日光浴をなすの設備などあり。目下二百人を收容せり。又エルホルングスシュユール即ち療養學校なるものあり。伯林より汽車三十分程なる美泉村セーデルヘンにあり。夏季男女の養生地たり。

其の中に質素なる校舎ありて虛弱なる兒童八十名程を收容し、二ヶ月間毎日二時間學課の復習をなし、其の他晝間は遊歩を專一とし、夜は樹下に就眠せしむることあり。皆大阪市の参考とす可き施設なり。

由來佛蘭西は人口の増殖微々たるも、獨逸にては人口の増殖を以て國運發展の基礎となし、従つて産兒の保護獎勵を怠らず。即ち伯林にては墮胎を防ぐがために姦通して妊める者などの分婉所分婉所を設けたり。警察署に就て入所を出願するものあれば、警察官はその身分及既往の事に就ては深く問ふことなく、よく秘密を保てり。故に妊婦は安んじて分娩すべく、産兒は適當の方法を以て養育せらる。余現に其の一ヶ所を參觀して學校の附設あるを見たり。而して之が爲めに一般風紀の壞類を馴致するの事實は無く却て戒飭の効ありと云ふ。此の外乳兒預り所あり、孤兒院あり、半孤兒院とも云ふ可き兩親の一を失へるものを收容する所もあり、中流以上の社會に適するためには多數の幼稚園あり、下流社會に對しては又兒童預り所あり。後者は晝間勞働に従事するものに作業の時間を與ふると同時に、兒童を保護教育して預け主をして後顧の憂なからしむ。

次に獨逸の教育界一般の狀況を述べんに、或る學校にては父兄の願に依り兒童に



教科書、筆墨、紙手工の材料等をも無料にて給與せり。斯かる學校全市に數多し。低能兒の爲には特殊學級を設けたる所も多く、全市にて三十六級あり、二千二百二十人を收容せり。但し其の教授の實際は未だ言ふに足るものなく、只普通學級擔任教師に多少の特別なる手當を給して時間外に之れを受持たしむるに過ぎず。又總じて大都會に於ては音響の爲めに耳の障害を被れる兒童少からず、是等の者の爲に特に五個の學級も設けられたり。又學校にては貧兒に朝食を與ふ、即ち虛弱なるものには牛乳を與へ、強きものにはスープを給するなり。其の費用は市より年々の支出一千五百圓と、之にルドルフ氏寄附の基本金一萬五千圓の利子二千圓を加へたるものなり。晝食も亦必要に應じて之れを給す。シヤロットンベルヒの林間學校にて現に之を見たり、外に伯林にては兒童の料理店あり、學校兒童にして貧民たるの證明あるものには又無料にて食物を給するなり。すべて西洋に在りては日本に比し一般に沐浴の度數少し。和蘭の貧民の如きは皮垢積んで寸餘に及び、往々疥癬蟲の脚痕を印すとさへ曰はる。今や獨逸にては此に顧み、十年來多數の市營浴舎を作り、追追盛況を呈せり。伯林にては尋常は一回の入浴料は大抵五十錢にして物價の低廉なる日本にても十二三錢相當なるが市營の浴舎にては太だ廉價にして、なほ學校兒

童には無料入浴せしむ。又獨逸は寒國にて氷滑り盛に、大道の上にてさへ之を行ふものすらあり。従つて體育に功驗ありとて大に獎勵せられ、一大設備を施こせるもの少からず。而して學校兒童には大抵無料出入を許せり。又年々シルレル座にて教育品展覽會を開設し、是れ亦無料入場を許すなるが、手工の教授は一般に盛なり。學校の放課後職業教育として手工を教授するもの多し。尤も女子には手工を學ぶもの少く、大抵制烹學校に通へり。孰れも學校放課後茲に學ぶものにて其の數少からず。各所の運動場には運動器械の設備整ひ十錢を投ずれば隨意使用するを得。我國にては二錢位に當る。若し之を辨ずる能はざるものあるときは又無料入場を許す。

獨逸及瑞典に於て著しく感ぜしは、齒牙の治療普及せしことなり。凡そ齶齒を有するものは胃腑弱く痲痺強く身體不健全なり。唯だ其の治療費低廉ならざるがために困むものおほし。然るに瑞典ストックホルム市の設備の完全なる學校にては大抵齒科醫室を有せるものあるを見たるが、獨逸はいまだ此の點に達せざれども、學校兒童は無料にて療治を受くることを得る仕組と成れり。而して又暑中休暇には兒童を率ゐて山間或は海濱に避暑すること流行す。伯林にては貧兒のためにブラ



イヒレルデル基本金なるものありて、之れより生ずる利子と一般の寄附金とを以て其の費に充てたり。補習學校の數は甚だ多く、みな無月謝制を採れり。其の他保母、女教員の養成機關もあり。一般學校生徒に對し、學資補助の方法も講ぜられたり。以上は主として伯林に於ける教育施設の實況なるが、眼を轉じて教育學上より見れば、今日獨逸にては教育の目的觀少しく變動しつゝあり。從來はレルンシュユレ即ち習ふ學校なりしが、今後はアルバイトシュユレ働く學校ならざる可からずと言はる。文字ありて働かざる者よりは、寧ろ働きて文字なき者を取らんとするなり。米國に於ても同一の傾向あり。蓋し今日は學問尊重の結果學者は既に社會に溢れたり。然かも文字有る者必ずしも好く生活すると能はず、若し技能を有する者ならば到處可ならざるはなく、決して糊口に窮すると無かるべし。實に生活は萬事の根源にして衣食足りて後ち禮節を知ると謂ふは至言なり。此のアルバイトシュユレの主張はミュンヘン市の市視學ケルセンスタイナー氏より出づ。同氏は數年來其の著書に於て盛んに獨逸の教育政策改良を論じたり。氏の學説は始めハンブルグに傳はり、次てライプチヒに及び。普魯西にても此に鑑みる所ありて近々小學校令改正の議あり。即ち一二學年に於ては文字を教ふるよりは専ら觀察提示勞働

の順序にて實物實事を教授せんとするなり。中學校にても之と同一の思想あり。バーデン市の中學校長フラット氏の如きは中學校の教授も露天に於て行ふ可しと論ぜり。

英國倫敦にては公園の經營盛なり。官設、府設、市設、區設等すべて百六十の公園あり。官設公園の面積は千五百町、其の一箇年の經費八十萬圓、市設公園の面積は二千町、其の一箇年の經費百十萬圓なりといふ。各公園には男女兒童別の遊歩場ありて溢りに大人の立入るを許さず。また英國にはオーブンエヤースクール即ち露天學校あり。目下倫敦市内に三個ありて近頃試驗的に設立せられたるなり。經費は稍嵩めども効驗十分ありと云ふ。郊外教授は一般に能く行はれ、總て精密なる立案の下に實施せらる。暑中休暇には貧民の兒童を拉して海濱に行くと盛なり。其の費用はみな富豪慈善家の寄附に係り、休暇前には寄附金募集の廣告頻々として新聞誌上に現はれ、日ならず容易く其の定額に達すと云ふ。倫敦病院一年の經費百萬圓程なるが、悉皆寄附に依りて充され、而かも別に強請せず、他に其の類多く、一々言ふに暇なきなり。

英國に於には又ガーデンシティー即ち田園都市の經營漸く盛なり。畢竟倫敦市の



膨脹が人間の健康に障害を與ふるより之を救済せんがために起れる一新計畫にして、郊外清淨の地を相して部落を形造るなり。此の計畫は初ハワード氏によりて主張せられ、先づレッチャースに於て實現し、最近に於ては倫敦の町續きなるハムプステッドに經營せらる。余は兩所共親しく參觀せり。是れは大阪市などにも追々場末の借屋新築の參考と成るべし。或る獨逸人の調査に據るに、人間の死亡率はその住宅の室數に反比例す。室數四室なるときは百分の十二、三室は百分の十七、二室は百分の十八、一室は百分の二十三に上るとぞ、都會生活の不健康なる推察するに難からず。英國リバプール市に於ては近頃家屋改正のために犯罪人の數を從來の五分の一に減ずるを得たりと聞けり。是れ又一面より田園都市の必要を證明せるものと謂ふ可きか。

佛蘭西に於ても同じく田園都市の運動盛なり。將た又巴里には六十の孤兒院あり、三十餘個の平民大學あり、所謂社會教育を施せり。元來學校は英國にては私立多く、佛蘭西にてはカソリック教會の設立に係るもの多きを占めしが、英佛共に教育政策今や漸く一變せんとし、從來學校の經營も個人或は教會に一任せしが、今は之れを國家又は公共の力によりて施設し、以て個人の發展を十分完成せしめんとするに至れるが如し。

米國は西歐諸國に比し寧ろ大に進歩せり、ニューヨーク市のフィラデルフィヤ停車場の建築費二億圓なるが如き、以て其の盛なるを知る可し。米國の教育に就ては余の『新教育講義』及サーチ氏の『理想の學校』にあるファームスクール即ち田園學校の近況に就て一言す可し。ニューヨーク州フリピン市なるジョージ氏のユニオル、レバブリックは今より二十年前の創立なるが、働かざれば得ることなしなる格言を以て唯一の校訓とし、萬事自治的教育を施せり。即ち生徒間には市長、市會議員、判事、檢事、辯護士等種々の役目ありて、全く生徒の自治自營に一任せり。

之を要するに歐米教育界の最近の傾向は體育最も盛にして、教育即ち體育なるの觀あること、及び男子には手工科、女子には家事、割烹科の重視せらるゝこと、是れなり。尙概言すれば將來の教育に就て注意す可き點は確に四あり。

- 一、兒童をして一層自然界と親ましむること
- 二、勤勞の習慣を養成すること
- 三、自治の習慣を養成すること
- 四、共同の習慣を養成すること



是れ今後教育の根本思想となりつゝあるものなり。

昨秋余の滯英中ケンブリッジ大學にては労働者に對して夏季講習會を開催し、労働者に健全なる經濟學の思想を與へ、由つて以て彼等の間に危険なる思想の傳播するを防がんとせり。蓋し社會は資本家と労働者、治者と被治者との共同一致によりて圓滿なる進歩發展を見ることを得べき筈なり。又マンチエスター市には産業組合盛にして教育の力を籍つて之れを普及する事に深く注意し、年長者には歴史文學及び經濟學の思想を授け、年少者に向ても尙ほ便宜經濟學の一斑を教ふる組織を立てたり。米國にてはコロンビヤ大學の教授にして社會學の大家なるギッチング氏近頃社會黨の立てたる夜學校に出席し、社會學を講ぜり。其の意は全く下流社會に共同の必要を理解せしめ、正當の學說を以て非理の暴戾を防がんとするに外ならず。右は余が今回見聞する所の一斑なり。余は諸君が此の如き斬新なる教育上の施設と我國固有の教育精神とを調和融合し、由て以て斯道の刷新を圖り、延ひて國運の大發展に貢獻する所あらんとを切望す。然り而して余が數年前頻に囑々せる新教育の豫言は、今日着々内外教育界の實際上に驗あるを見ては、余は衷心欣喜に堪へず。余は此の大阪市が卒先進歩して、萬事天下に好模範を示されんことを特に囑望する

者なり。(大阪公會堂に於て……大阪市公報)

### 第九回萬國商業教育會議

第九回萬國商業教育會議は素と萬國商業獎勵會の塊國代表者と實業教育萬國會議常置委員と相提携し開催せるものにして、塊國維納市を會地と定め、明治四十三年九月十一日より同十六日迄繼續することゝしたり。從て當會議には塊國レオポルド、サルフトル大公殿下を推戴して名譽總裁に仰ぎ、尙且つ塊國文部大臣、商務大臣等より特別の保庇を蒙りたる上に、東西各國政府大概二三の委員を派遣したれば、開會前より既に多大の希望を囑せられたる由に聞及べり。會員名簿に登録せる者男女合して約壹千貳百名あり。毎日出席の者も三四百名を下らず。我が同胞國民にて出席せし者は文部省實業學務局長眞野文二氏と自分と兩委員の外、文部省留學生京都帝國大學法科大學助教授小川郷太郎氏一人なり。而して吾等一同終始懇篤なる待遇を被りたるは竊に光榮とする所にして、又以て帝國々威發揚の餘澤と深く感銘に堪へず。即ち連日議事々項竝に其の他施行せし所を左に略述せんとす。

第一日 本日は開會式を舉行せんが爲め特にダンパー街音樂協會大演奏場を選



びて式場に充て、午前十一時盛大の儀式を以て之れを行へり。乃ち大公殿下を始め文部、商務兩大臣、維納市長等、朝野の紳士淑女臨場する者太だ多く、當市駐劄の各國全權大使、公使、外交官等亦參列する者少からず。帝國全權大使秋月左都夫氏も其中に在り。儀式は大公殿下、前記兩大臣、市長等の演說式辭に由りて頗る莊嚴を極め、尙且つ會員一同の議決を以て謹んで埃甸國皇帝陛下に奏電するに至りて愈、丁重を極めたり。演說式辭の要旨は、孰れも商業教育は最近事項なるに拘らず、將來各國々運の發展上、決して忽諸に附すべからざるものにして、幸に續々商業學校の興隆を見れば、自今以後一層獎勵を加ふるの必要あり、商業教育關係の問題は甚だ多數なれども、特に其の必要なるものを選択して、茲に各國會員一堂に集會し、討論研究を盡くすは最も欣ぶべき事なりとするものゝ如し。當日議長、書記等役員の選任あり。投票を用ひずして當會議組織委員長ゲルチヒ氏をして議長とし、チーグレル、グラウセル兩氏を書記に囑託せり。ゲルチヒ氏は商業教育中央視學官にして宮中顧問たり。又兩書記は共に教授職に居り、孰れも相當の名望を荷へる者の由聞えたり。而して各國政府派遣の委員は之れと同時に悉く副議長に推選せられ、眞野氏と自分と亦之に當れり。斯くて臨席の外交官等特に大公殿下の拜謁を賜ふあり。午後は更に當市新

設の高等商業學校を參觀し、市長ノイマン氏丁寧に迎接せり。

第二日 本日は會場を小演奏室に移す。會議の初日なるを以て午前は大公殿下更に臨場を忝うし、各國派遣委員には特に握手の禮を施さるゝあり。劈頭第一に議長は皇帝陛下より返電を賜はりたりとて恭しく電報を朗讀し、一同深厚なる敬意を表せり。當日の會議は午前は第一問題に就きて之を行ひ、如何なる方便に由りて外國に關する知識を一層深からしめ、得べきかといふ事を議せり。報告者は獨逸人ドクトル、ステゲマン氏なり。要旨は外國旅行を補助獎勵するを始めとし、講習會を催し、また必要書籍の目錄を編製し、別して各國經濟狀態の通告を取次すべき一局の設立を望むなどいふにあり。獨逸人ステルン氏も亦同題に就いて報告する所ありたり。第二題、商業學校、外國語、教員の商業的養成法に移りて午前の會議を結了し、午後には又第三題、高等商業學校に於ける實業的科目の事に始まり、第四題、商業學校生徒の德育、第五題、同じく體育に就いて討論あり。就中德育問題は論駁相應じ、詳細に涉り、會員立ちて辯舌を試むる者多く、自分も亦本邦現時の德育問題に就いて、簡短の演說をなし、特に教育勅語の柄焉として萬民一同の奉戴するあり、基礎堅牢動搖するとなく、商業道德の問題の如きも亦固より此の基礎の上に確立すべきものにして、而して



衆人相識り相犯さるるを特に肝要とすべき旨を言へり。蓋し當日の議論は多く徳育と宗教々育との關係如何に傾き別して大阪市立高等商業學校長加藤彰廉氏の報告も朗讀せられたるを以て特に一言するとの必要を感じたるに由る。當夜商業會議所より會員一同を招けり。

第三日 午前は第六議題の商業學校に於ける經濟學の位置を始めとし、第七議題の同學校に於ける商業學科の位置に就て論ぜり。特に第七議題は圖らず商業家養成と高等教育との關係に及び議論頗る激烈に涉り聽いて參考とすべき所亦鮮からず。但し固より議決すべきにあらざれば其の儘に打置けり。午後は會場を高等商業學校講堂に轉じ、議事日程を變更し、第九題の商品學に於ける教材の蒐集交換及び第十三題の商業教育に於ける幻燈の應用に就いて器械を供觀しつゝ、丁寧に演説するあり。各學校には書籍館の設あると同時に、標本寫真類の蒐集をも最も必要とし、當局者の之れを獎勵補助せられんとを望むと共に、可成は物品交換の媒介所を設立すべきとをも望めり。演説了りて後同所樓上に於て商業教育教具類の展覽あり。又夜に入りて文部商務兩大臣の招宴ありたり。

第四日 本日は會議を休み、會員一同打連れて當市南方約十五六里の地に聳ゆる

ホーハ、シネーベルグの高嶺に登り、山上宴會を開きて親睦の情を厚くせり。

第五日 本日は議事日程を變更し、第十五題を先きとし、瑞西國ベルン市萬國商業教育獎勵會々長ジュー、氏より同會に於て從來開催の經濟學講習會成績に就いて報告するあり。次きて第十題商業學校卒業生の實務從事の問題に移り、有益の報告演説少からず。但し當日出席の筈なる佛國巴里市高等商業學校卒業生會名譽會長ルノル氏自動車にて負傷したる故來場し難き旨急報あり、一同之れを遺憾とせり。午後は會議を休み、更に同場に於て前述萬國商業教育獎勵會の總會を催し、次回の萬國會議開設地等に就いて種々評議するあり。抑、該獎勵會は設立日なほ淺しと雖も既に二千名に垂々たる會員を有し、相應の資本をも備へ、尙且つ歐洲各國の政府之れを給助する所少からず、頗る有力の機關なりとす。即ち眞野氏并に自分等兩名亦其の勸獎に由り個人の資格を以て入會したり。當夜維納市長の夜會あり、太だ盛大なり。

第六日 本日は第十二題商業徒弟の養成を先きとし、第十四題女子の商業教育に就いて討論せり。兩題共に緊要の問題なるを以て、論辯頗る花々しく、別して女子商業教育に對し、當市有數の大商人スピッチェル氏が、實際的方面よりして統計に基づき仔細に論述せる意見は、長時に亘りて而かも會員一同の注意を失はず。佛國女子ド



ミノ嫌事故あり缺席したるに由りて、一埃國婦人の之に代り、男女同等の立場より此の問題に關し演説したる者も大喝采を博せり。萬國商業教育獎勵會長ジューノ氏立ちて瑞西國に於ける女子教育現況を述べ。略ぼ前掲の婦人と同論を抱くが如くに聞えたり。斯くて時刻漸く移り午後一時を過ぎたるを以て、議論未だ盡さずと雖、茲に當第九回會議を閉づるとし、佛國委員ルー氏外國政府派遣者一同を代表し挨拶する處あり、會長よりしてはいよ／＼第十回萬國會議は匈牙利國ブタベスト市の招請に由りて、來る明治四十六年同地に於て開催の事に決定せる旨報告あり。會員互に握手を交換し、再會を約して袂を別てり、食後商品陳列所を參觀し、又カーレンベルグに遠足を試むる者あり。(報告書抄略)

### 第一回萬國農業團體及地方民勢會議概況

此の會議は題名の示す如く、全く今回始めて開設する所に係り、其の趣旨とする所は、歐洲は勿論世界各国農業團體の狀況並に農民生活の現狀に就いて、可成廣く報告を集め、研究討議の上、自他共に採長舍短の資に供せんとするものなり。會長は白耳義國農務大臣にして、現に高等農業會議の議長たるモロイ男爵之に任じ、同國代議士

テボー井に同國ガン市王立農會々長カリエールの二氏之れを助けたり。就中テボー氏は實に今回會議開催の主唱者として、終始幹旋に力めたるは深く感ずべし。各國政府亦た之に賛同し、代表者を派遣したれば、豫想外の好結果を呈したり。我が日本政府は、別に代表者を參列せしめずと雖も、幸に同行の伊藤長次郎氏並に農商務省留學生農學士西垣恒矩氏、産業組合中央會を代表して出席し、尙且つ前農商務次官前田正名氏並に自分も參加したれば、大に歓迎する所となれり。

會員總數は約六百名、毎日出席者は其の半數なり。又賛同外國政府代表者の數は、二十五名に及べり。會場は當時白耳義ブリュセル市に開催中の萬國大博覽會場裡に別には等萬國會議用の爲めに建築したる一棟を用ひ、大會議室部會々場等略、備はれり。而して其の開期は九月十八日より同廿三日に至る四日間とし、最初の十八日は外國會員のみ打ち寄つて互に面識するに止りしが、本會は十九日より開き、毎日午前十時に開會して午後一時に閉會したり。

十九日には先づ總集會を催し、衆多來賓列席の前に於て議長テボー氏の演説あり、其の要旨は今や各國不幸にして農村凋衰の嘆聲を耳にすること往々にして之れあり、想ふに之れが救済の途を講ずるは刻下焦眉の急務と謂はざるべからず、其の方法



は先づ各國農民の現状を調査し、之れが改良の策を工夫するにあるは勿論別して團體的精神を發揮し、組合を奨勵し、以て相互に補助し鞭撻するにありと信ず、是れ特に此の會議を催したる所以なり云々と述べ、各國代表者も亦之れに續いて演説を爲し、我が國會員中よりは前田正名氏起つて簡單の挨拶を爲したり。是等演説了つて後、各國代表者を副議長に推舉する旨報告あり。我が會員中より伊藤氏と自分と各、此の榮を荷ひ、引續いて部會の手順に就いて相談あり。伊藤氏は第一部會に自分は第四部會所屬と定められたり。次ぎの三日間は各部會のみにて總會はなし。部會は總べて十部に分かつ。第一部は農民利益催進の爲めにせる諸國團體を研究の題目とし、第二は農業に於ける婦人の團體に關し、第三部は牧畜の團體、第四部は製造購買輸出並に販賣の團體、第五部は貯蓄資金並に保險の團體等にして、第六部以下は地方民勢の事に屬せり。即ち第六部は民勢と衛生、第七部は農業勞力、第八部は農業に於ける交通の方便、第九部は農民生活改良の諸計畫、第十部は文書、通信、展覽會等を研究する者にして、各部會とも報告の數甚だ多く、大概二十種を下らず。就中有益なるもの亦尠しとせず。然かも討論は然迄熱烈ならず、孰れも速に決議を見たり。會議用語は概ね佛蘭西語に限られたるが如し。

次いで最終日は午前十一時より總集會を開き、兼て閉會式を舉行するとせり。先づ各部會の擔任書記は、夫れ／＼決議案を朗讀し、別に討議を用ひずして可否を問ひ、大概滿場一致を以て可決したり。就中主要と認められたるものは、第一部にては今後愈々農業團體の組織を奨勵し、各國内聯合會あり又萬國同盟の催あるを望むの議、第二部は女子に對し師範學校に於ても農學の知識を授け、且つ適宜講習會などを開きて其の普及を圖ると共に、小學教育に於ても、早く此の方面に留意せしめんとを望むの議、第四部は各地方農業者は販賣組合を組織すべきの議、第五部は萬國農業保險組合設立を緊要とし、之れが調査委員を選任するの議、第十部は農業文書類はブリュセル市に在る所の萬國文書館に附帶せしむることを便利とする議等なり。而して右の調査委員には、白耳義は勿論、獨逸佛蘭西、伊太利、奧太利、露西亞、和蘭、アルゼリア等の代表者一名宛選ばれたり。

なほ閉會式場に於ては、男爵夫人ロチエル氏先づ演説を試み、女子の農業に於ける位置を論じ、本會の特に之れを尊重して、別に一部をさへ設けたるとを謝し、引續いて各國代表者謝辭を述べ、最後に議長チポ、I氏の演説を以て之れを結び。其の大意は今や各國農民漸く田園を捨て、都會に移住するもの多くなれり、是れ實に一大問



題にして、當會議は農業團體の力に依つて此の時弊を救済せんとす、而して農業團體の精神とする所は個人主義と集合主義との中庸を執り、一面には農民各自の自覺を促すと共に、一面には一致團結の氣風を培養するを旨とせざるべからず、即ち實に物質上の事のみを目的とせず、精神的道徳的改良にも注意せんとを要す、世人は往々今日の世は機械の時代と成り了せりと言ふも、其の實農業に於ては人の力を要するのと決して昔日に譲らず、別して婦人の補助を待つこと多しと信ずれば、農民教育は一日も忽諾に附すべからず、而して地方民勢調査の必要亦此に存す云々と、此のチボイ氏の演説は大に喝采を博せしが、次いで公爵カサノ氏起つて更に議長の誠意を多とする旨の挨拶を爲して、同會は全く終りを告げたり。(談話)

### 第三回家庭教育萬國會議概況

昨年白耳義ブリュセルの萬國大博覽會を機會として開催せられたる學會、大小五十餘種あり。就中最大なるは彼の家庭、教育、會議など確に其の一たるべし。此の會議に同國リエージと伊太利のミランと相踵ぎて開かれたるとあれば、今度は第三回なり。畏くも白耳義皇后總裁し給ひ、三四大臣も名譽會長の任を帯びたれば、盛況自

ら他と異なるものあり。世界各國より參同多く、會員四千名に垂々たりとか。就中英國人格別に興味を以て賛成せるが如し。自分も夙に案内を受けたれば、出席の積なりしが、宛も塊國の商業教育會議と衝突したれば行けず。幸に其の後未だ幾ならず詳細の會報、議事筆記を配付せられたれば、之れに由りて仔細を知るとを得たり。即ち此の會は別ちて八部とし、第一部は兒童研究、第二部は家庭教育通論、第三部は就學前の家庭教育、第四部は就學中の家庭教育、第五部は卒業後の家庭教育、第六部は異常兒の教育、第七部は兒童の爲にせる各種の施設及び第八部は文書とせり。問題の數六十九報告の提出英、佛、獨、米、伊、蘭等併せて二百五十通あり。従つて議事録千頁を超えたり。有益の論文も少からず。由つて以て歐米の近情を窺ふに餘あり。余は乃ち之を通讀し、組織して以て本年熊本縣鹿兒島縣并に大阪府に於ける夏季講習會講演の材料となせり。其の速記録は本書第四篇に收めたり。(談話)

### 伯林大學と巴里大學

諸君、余が今度の歐米再遊中獨逸佛蘭西等に滞在したりし折は、恰も夏季休暇後に未だ開講するに至らざりしかば、伯林に於ても又巴里に於ても教室に出入し、親し



く大家の講筵に陪し、學界近時の傾向を窺ふ能はざりしを遺憾とす。然かも種々の方便に由りて是等兩大學々風の現狀を探究すれば、之れを前回初めて留學せし時に較べて、轉變遷の著きものあるに感慨を禁ずる能はざりしなり。

余が伯林到着は幸に同大學創立百年祭の前夕なりしかば、翌日も翌々日も數度大學校門をくぐりて其の盛裝せる建物を觀、幾多の印刷物を貰ひ、二三の舊知を訪ひ、又皇帝行幸の鹵簿を拜し、學生行列の炬火をも覽て、頗る愉快に感ぜしが、然かも其の中尙無限の感懷ありき。

諸君も知らるゝ如く伯林大學の正面にはフンボルト兄弟の大像早くより建てられたるが、又ヘルムホルツの像を中央にしてモムゼン、ドライチケ兩歴史家の石像新に立てるを觀るべし。余は是等諸像を仰視て實に非常の感懐に撃れたりき。言ふ迄もなく伯林大學の開校は一百年前即ち千八百十年に在り。普魯西王フリードリッヒ、キルヘルム三世の御代にてウイルヘルム、フォン、フンボルトが文部大臣として専ら之を經營したりしなり。之より先き早く普魯西には實に九個所の大學有き。就中四校は西部に五校は東部に存せしが、孰れも經費乏しく、窮困の狀を免れず。而して一旦ナポレオンの侵寇するや、是等九大學の多數は忽ち閉校の餘儀なくせらるゝ

ものあり、普魯西の學問界は目も當てられぬ有様となれりと謂はざるべからず。時に國王フリードリッヒ、キルヘルム三世は蒙塵してケニヒスベルグに坐はしながら、夙夕國運挽回の計を怠り給はず。宰相スタイン、ハルテンベルグ等頻に意を用ひて財政兵制並に自治制を改善刷新して、富國強兵の策を講ずると共に、一面には更に根本的に審察工夫する所あり、教育の力を籍りて、以て民心を鼓舞し、自助自營の精神を提擲して、國家の基礎を堅牢ならしめんと企てたりき。是れ遠く西の方瑞西のイッゼルドンに侍臣を派遣しベスタロッチを訪はしめて普通教育の制度を肇められたる所以にして、而して伯林大學創立の盛舉亦之れに淵源するなり。

聞くが如くんば普魯西の王都伯林に一大學を開設せんとするの議は千七百八十四年頃より夙に存せし所にして、最初の方案は教授エンゲルなる人之れを作りたりと云ふ。而して大哲學者フヒテ亦同じく其の哲學意見に隨ひて一大學問所を起さんとを望めり。エンゲルの案は今傳はらざれば知るに由なし。即ち今日の伯林大學は概ねフヒテの唱道に由つて成れりと謂ふも可なり。然かも大學管理の方法等は寧ろ大哲學家シライエル、マツヘルの主張に負ふと多く、而して實務上の施設はシマルツの献替に待つ所多かりしとも云ふ。兎に角此一大學の開設は哲學者の主唱



に由れりと言ふも決して不當にあらず。別してフヒテが敵軍環堵の重圍中に在りながら『獨逸國民に告ぐ』てふ大講演を試みて、毫も怯慙する所なかりしは、實に壯絶快絶と謂はざるべからず。

然るに今日の伯林大學は果して如何。十年前初度留學の時、業に已に哲學萎靡の聲を耳にせしが、今回再遊に際して余は其の層一層落寞たるを憫まざるばあるべからず。伯林に於て文科大学……暫く斯く言ふを許さば……の學風は、一般に早く歴史のたり、文献學的たるに傾きしは復々争ふべからず。然り而して、今はそれさへ漸く競はず。概言すれば文科一般に不振に陥り、他の自然科学、工藝學の日に隆昌に赴くを觀るは、轉、感慨に堪へざる所なり。

否是れ管に伯林大學に於て然るのみならず。佛國巴里のソルボン大學々風も、亦最近十年間に於て頓に一變したりとは、内外國人の共に認む所なるが如し。同大學大講堂の壁畫、神聖の森影は、今なほシャヴァンヌの妙手を渴仰せしむるに足れども、哲學も社會學も乃至文學、文學史の研究も皆徒に穿鑿に醒醒して、當年の雅懷自由なるものなく、専ら材料を蒐集し、異同を比較し、區々の事實を排列し、些細の字句を吟味し、則ち以て得たりとなす。煩瑣眞に厭ふべく、復天空海濶の妙趣を缺けり。個人の

思想を後にして、全體の沿革を先にし、精神を措いて形骸を重んず。學者の意氣、地を掃へりとは決して一二論者の妄評に止らず。一言以て之れを掩へば、此處にも亦哲學漸く廢れて、史學、文學行はると謂はざるべからず。而して其の次ぎは、固より文學科全體の衰微にあるべし。是れ果して眞に喜ぶべきの顯象なりや否や。退いて我が國近時學風の傾向と思合はさば、決して等閑に附するを許し難き一大問題なりと信ず。余は固より自然科学、工藝學の必要を認め、其の勢力を信じ、其の發達を冀ふことに於て、敢て人後に落ちざる積なり。然かも之と相並びて、文學的諸科も亦愈々振起せざるべからず。文學的諸學科の研究に於て、史學的、文學的學風漸く行はれ、尙且つ實驗を施す者さへ日に多きを加ふるは余太だ之れを喜ぶ。然かも之れと同時に自由にして偉大なる思想出づるあらん事をも渴望せざるを得ず。聞くならく當初伯林大學の設けられんとするや、之に反對する者あり、伯林は費用嵩み誘惑多し、而して碩學大家亦空しく人烟繁華の裡に没頭して他に感化を及ぼす能はず、特に中央政府の近きに在るは、動もすれば干渉を招きて學問の自由を保し難き憂ありと。然かも伯林大學は文部大臣フォンボルトの議に従ひ、教授の自由を擔保し、會計の充足を約束して、何等の拘制なく、不便なく、各學問に専心從事せしむることを得しむべきを承



認し、終に起れるなり。而して近頃は或は伯林大學を郊外閑靜の區に移し、活社會と交渉を斷つ可なりと言ふ者ありと聞けり。同大學某教授は之を駁して、伯林大學は依然帝國の中心に屹立して、社會衆目の景仰する所となるべく、而して之れと同時に各教授擔當する所苟くも人間社會と關係ある者は、競うて活動して、世道人心の上に影響する所なかるべからずと憤慨せるを見たり。是れ亦我等頂門の一鍼たるべしと反省して茲に公言すと云爾。(朗讀)

### 實驗心理學と教育學

教育學は學問としてと技術としてとの二方面あり。世間に謂ふところの教育學なるものは往々之れを混同し居れり。而して技術としての教育學には技術としての研究法あり、學問としての教育學には科學としての研究法あるは自然の勢なり。然らば教育學の研究は如何にす可きか、之を論ずるには先づ須らく教育學の性質を明にせざるべからず。抑、教育學は社會學的學科たり、蓋し既に教育學といふ上は、そが人生社會の現象たるは云ふまでもあらず、從ひて教育學の研究法は又社會的科學の研究法に據るべきものたるや論なき也。

凡そ人生社會の現象を研究するには第一に觀察を要す、而して社會的觀察に必須なるは歴史あり、土俗あり、文藝ありて之れが材料に乏しからず。又統計に訴へて觀察することを得べく、畧誌法、探問法等種々あり。然り而して近頃は實驗をも行ひ得べしとす。幸に教育學の實驗は諸學の社會的學科の實驗よりも容易なり、實驗容易なるがゆゑに、常に實驗を主として教育上の資助たらしむべきは必要の事なり。切に言へば、實驗心理學は、教育學を目的とせざるも、然れども、教育學は、實驗心理學の實驗に須つこと甚だ多し。此の如く實驗心理學によりて材料を受け入れたる教育學が成立することあらんか、之れを名づけて實驗教育學と謂ふを得べし。

然れども實驗教育學といふ名稱は、稍、誇大に失する誚あるを免れず、從來行はれたる社會人文的觀察を材料としたる教育學を、全然棄て去りて、而して新規に教育學を窺ひるは困難の事なり。又從來或る一派の唱ふる教育學は、應用したる心理學なりとの説の如きは言ひ過ぎたる言に過ぎず。實驗心理學を應用したるもの即ち是實驗教育學なりと速斷す可き譯のものにはあらざる也。

以上は吾輩が從來懷抱しつゝありし教育學につきての意見たりし也、而して今回歐洲再遊に方り昨年十一月の初、伯林よりして巴里に入りたる時、端なくも一の書



籍を手に入るゝことを得たり、題して『實驗心理學の危機』といふ。著者はコスチレツプと云ふ人なり。定めて教育學についての最新の一著述なるべく、其の學說の斬新なるあるを信じて之を讀み、又彼の地の大家先生の議論をも聽き相互參酌して、大に自家の意見を確むることに専心努力したり。

實驗心理學は孰れの國に於いて盛行するかを證議するに、先づ指を獨逸に届せざるべからざるが如し。獨逸ライプツィッフ大學のウンドといふ學者の心理實驗室は殆ど世界に於る實驗心理學の源泉と謂ひつ可し。其の外に伯林に於いてスツンプ氏は聽官の知覺について實驗を試み、モイマン氏は時間について、ミュルレル氏は記憶並に觀念聯合について、グレッツペリン氏は疲勞、休息、練習、痲醉について研究するところあり。尙進みて醫家チーヘン氏は兒童の觀念聯合について精細なる實驗を試みつゝあり。尤この實驗心理學は昔に獨逸においてのみならず、伊太利その他においても亦盛行はるゝ様なり。先づ伊太利に於ては如何なる實驗が行はれつゝあるかといふに、所謂生理的、心理學に基づきたる實驗、太だ盛大なるを見る可し。即ち心理作用が脈搏に及ぼす影響如何、又そが腦髓の溫度に及ぼす影響如何等につき調査し居れり。其の他にも二三の學者ありて呼吸器計、脈搏計、充血計等の機械を使用

して生理學、解剖學の見地より、心理現象を研究する方法を行ひつゝあり。

伊太利に次いで實驗心理學の盛なるは佛蘭西なりとす。伊太利が生理學的研究を爲すに對して佛蘭西に於ては數學的に探度する方法を取る傾向あり。其結果として精神物理學、精神生理學の目を以て呼ぶべき者あり。ピチー氏その魁たり。シヤールアンソリー氏、ドクトル、ツールズ氏等の如き亦精神生理の常態について研究者の録々たるを失はず。而して之れを變態即ち病的生理の見地より研究する學者はドクトル、ヂュイマジヤネー氏等あり、氏は病院を有する人なり。

佛蘭西に次いで亞米利加あり、亞米利加の實驗心理學者はコロンビア大學に在りシカゴ大學に在り、ハーバード大學に在り、コルネル大學、クラーク大學皆有名なる學者先生あり、其の研究方法も見るべきもの尠しとせず。

實驗心理學の世界に於ける形勢は右の如し。而して是等多くの實驗心理學につきて曩に述べたる『實驗心理學の危機』の著者コスチレツプは斷言すらく實驗心理學の研究は區々にして統一を缺くと、其の言蓋し中らずと雖も遠からざる可し。

乃ち實驗心理學の研究につき世界の傾向を案ずるに、獨逸は深くして狭く、佛蘭西は廣くして淺し、伊太利、亞米利加各特殊の缺點と短所とあるを免れず。兎に角其の



研究方法區々にして統一せず、四分五裂の状態に在るは實驗心理學のために大いに取らずとす。單位についての異説など、實驗心理の研究に珍らしからぬ話柄たるにあらずや。彼のモツソーといふ人が、腦天を破壊したる職工を檢診して、心理作用が腦髓に及ぼす影響を研究したりとのことなるも、其の的確かすべからざる眞理なるや然らざるや、再び他人について之れを實驗すること能はざりしを以て、聊か疑團の渙然氷釋すること能はざるを免れざるは、誠に已むを得ざるとどもなり。米國一流の觀念聯合の研究、たとへば觀念連繫の上に境遇が如何に影響するかと云ふことを説明し居るが、其の説の正、不正はサテ措き、其の説の區々にして統一を缺き居れることは争ふべからざる也。

而して稍、秩序立ちて統一あるに近き研究法としては、ピチーの爲したるものあり。氏は其の研究によりて有名の書『叡智の實驗的研究』といふを一九〇三年に著したり。書中にある研究法の一、二例を挙げんに、十三歳と九歳との女子について、其の觀念の働き及び觀念と言語との働き、並に觀念と意志との關係を、九箇の題目に分ちて研究したるが、其の結果に徴して此の二女子の個性が判明したり。例へば此の二女子が記憶するものは如何やうなるものなるかといふに、十三歳の女兒は印象、記憶の

事柄を克く覺え、九歳の女子は想像や抽象的事柄に能く通じたり。又言葉を與へて記憶せしめたるに、十三歳の女兒は近く見ゆる人、場所等を記憶し、九歳の女兒は書籍の名、文章等と呼び起したりき。又文章を作らせたるに十三歳の女兒は遅筆にして人生々活に關係する事柄を記し、九歳の女兒は達筆にして想像的文句を草したり。又一定の試験標準を立てて三歳より十三歳までの兒童に對し、發達心理學の實驗を施したり。三歳の兒童には鼻、耳、口を指示して之れを即答せしめ、或は二の數字を反復せしめ、或は六綴りの一句を作らしめ、最後に家族の名を呼ばしめたり。此の如くにして試験するときは、兒童個性の發達は歴々として現はるるなり。但し是とも決して實驗心理學が實驗教育學の唯一の根本となり基礎となるといふことを得ざるは言を待たざる也。

以上諸大家先生學說皆區々にして統一を缺き共同の基礎を遺却しつつあるを見る、共同的基礎とは何ぞ即ち腦髓の反射運動を研究することはなりと。

吾輩は思ふ、斯くコスチレップは、實驗心理學の危機に瀕するを絶叫すと雖も、實驗心理學の立場は、現在の儘にして何等不都合あるなく、是にて十分なりと信ずるもの也、教育學の立場より論ずれば、單に實驗心理學によりて研究せられたる材料を借り



得れば事足る所にして、是れ以上何等希望する所なかるべき也。換言すれば實驗心理學は教育學を研究する一方法なりとするに於いては今日の狀態にても十分ならん。

吾輩又最も新しき雜誌を讀みもてゆくうちに、第一に目に着きたるはモイマン氏の實驗的教育學並に學校改良論といふ論題なり。其の中に實驗教育學の努む可き二の方法を數へあり、曰く兒童心身の一般的に關して也、曰く各學科についての實驗的教授に關して也。

此の事についてはモイマンは慥にピチーに被れたり。モイマン曰く、獨逸國に於いては教育思想既に已に一變したり、昔時は練習を主として近時は活用を要とすと。讀書算術、習字、圖畫、手工について兒童の心理的作用は如何なる状態に在る可きか、言語には元來天稟の相違あるを免れざるが、之が吾々生活に對してそも如何なる影響を及ぼすか、これ頗る重要な問題ならずばあるべからず。而して實驗教育學は實際的教育者より貢獻せられざるべからざる也。此の實際的教育者の見地よりしてモイマンは實驗教育研究學校若くは實驗教育研究學級を設置す可しと論じ居れり。今我が日本にも此の論を適用して研究學校又は研究學級を設立しては如何。

想ふに特別の學校もしくは特別の學級を設立し兒童を研究するが如きは、我が國情に適實ならざるの嫌なきこと能はず、乃ち先づ個人的特性を研究する必要上、二箇の實際的方法を取らんことを望む。

- 一、簡易なる試験方法の案、内記、やうのものを製し而して各學校の教師をして簡易なる心理實驗の方法を知得せしむべき事
- 二、各學校の教師は協同して實驗心理學者が提出したる問題に對し、答案を出さるゝ事

以上二箇の實際的方面の事柄が能く實行せられ得るに於いては、教育は實驗的に行はれて疎陋迂僻なる空論を教育界より一掃することを得べし。

實驗心理學の研究法は實に區々にして、統一を缺くは世界の現勢たり。然れども唯是に材料を仰ぐのみにして、決して之れを根本的基礎とせざる實驗教育學に於いては實驗心理學の區々にして統一なきは毫も關するところにあらず、從ひて其の弊を受くると多からずと云ふ可し。故に曰く實驗心理學の危機は毫も實驗教育學の危機にあらざるなりと。實際教育に従事する人々は簡易なる心理實驗の方法を知悉し、以て兒童の個性を鑑識する資となさんこと、蓋し目下の急務なる可し。(京都府



教育會雜誌

## ヘフヂング先生を訪ふの記

余が今度の再遊は先便にも述べたる如く、寧ろ社會經濟の研究調査を盡くし、以て余の所謂新教育學上に、更に一新見地を開拓せんとするにあり、然かも之れと同時に、苟くも暇あらば、一般思想界に關係ある人物、事物に接觸して、平素の渴望を醫し、また聊か前回留學の見殘しを補はんとするの微志もありとす。今現に北歐丁抹のコーペンハーゲンに來り、而して現代哲學界の一老偉人たる、ヘフヂング先生を訪問するに及びたるも之れが爲めなり。ヘフヂング先生の心理學、英文は、余實に率先して我が國に購入したる者なる事を確信す、即ち事は明治二十四年、山口高等學校哲學教授たりし時に在り、特に近頃は先生の倫理學說、宗教意見等に就いて云々する機會多ければ、眞個懷慕に堪へざりしなり。此頃當コーペンハーゲンに滯留すれども、或は病の故を以てし、或は俗務の妨げもありて、今日まで終に先生訪問の時を得ざりしが、既に出立明朝に迫りたれば、或は失禮かも知れずと遠慮しながら、午後五時近郊十五六里のハスレウといふ所より歸宿するや、直に電話を假りて先生の都合を問へり、而して

其の答は今夕幸に在宅、正六時枉駕を賜はゞ、歡喜に堪へずとの丁寧の挨拶なり、由りて更に自働車を驅りて、定刻先生を訪へり。

先生の家は市内ながら閑靜のカーン、ベルンハルト街十五番に在り、其の第一階を獻せるなり。普請中にて左官兩三輩出入の模様なりしが、呼鈴に應じて老婢出來り、直に導きて先生の書齋に入る。先生立ちて、闕近くにあり、手を延べて握手し、來訪を謝する旨英語にて述べらる。由つて余は、老先生は英語を便とし、賜ふや、將た又獨佛孰れが可なるや、余は幸に不充分ながら三國の語を操るを得ば、其の何れを以てするも苦しからず、一に先生の便利に由るべき由言ひしに、余は寧ろ英語を好むとのとゆゑ、さればとて請ぜらるゝ、儘椅子に靠り、間近く對座して、快談時の移るを覺えざりき。先生自ら曰はく、七十僅に二を缺くも、衰耄せりと、然かも見る所太だ簡朴且快活にして、毫も老人らしからず、風采は豫ねて世評に聞きし通り、或は揚らざれども、前類廣大にして、表相に智慧の深きとは顯れて、掩ひ難し、何處となくソクラテスに肖たりと謂ふも過言にあらざるべき乎。其の動もすれば沈着の態度なく、重味乏しきも、畢竟快活の性格に由るのみ。

談話は、日本の學問界は振へりや、智的生活は今や盛況を呈せりやとの間に始まり、



余は之に答へて、日本は東海に邊在し交通往來不便なるを以て、未だ多く歐洲思想界に知られずと雖も、世界的思潮は固より日本にも波及して、哲學の研究亦漸く盛なり、現に先生の高著は余等夙に之れを講讀、研究し論議して怠らずと云ひければ、そは最も喜ばし、曾て石田氏なる若き學者が拙著「心理學を和譯し、一本を寄せられたることありし」と云はる。余亦石田氏を識れり、同氏は太だ篤學にして、當時最も熱心に先生の高著を讀みし一人なる事を言へり。夫より日本語の不便にして、然かも羅馬字の猶ほ行はれ難き事に始まり、日本宗教界の現況、特に神道の實際如何、佛教の傾向其の改良の方針如何など問はれければ、余は神道と國體との關係を述べ、又佛教に大小兩乘あるとより、シヨベンハウエルの研究は小乘的なる事を謂ひ、然かも涅槃の終に寂靜なることを説明しけるに、先生は思想は愈々自由なるべく、佛教も亦追々ボシチーヴに傾かざるべからざる等ならずやなど言はる。乃ち余は拙著「弘法大師」(英文)一冊を呈して、佛教者の活動の模範茲に在りと云へば、先生首肯して喜ばる。それより先生は、新學期に於て丁抹の第拾八世紀に於ける哲學思想史を講じ、又ジエームス博士の心理學を講評し、更にスピノサの「エチカ」を會讀すべしと言はれ、且つ余はスピノサ派なり、特に此の「エチカ」は、哲學者に根本概念を養成するものなるべき由

附言せられたれば、我が京都大學に於ても曩に哲學教授は「エチカ」を講じ、心理學教授はジエームスを讀みつゝありし旨挨拶したるに、先生吾が意を得たりと満足の體なり。

話頭一轉して西洋近世哲學思想に及び、先生は獨逸の哲學は體系整然たれども稍、面白からず、余は英國的にして而かも又佛國を尊敬すとのとなりしかば、此の點にて、亦余は幸に先生と同意見にて、余は日本學風の獨逸的なる中に立ちて、寧ろ佛國思想を代表し、京都大學に於て、余輩同志は現に之れを獎むる由答へたるに、先生亦大に喜ばる。先生今現に一著述に従事せらる、蓋し丁抹を中心とし、英佛哲學者の思潮を概括的に論評せるものにて、大冊子ならずと雖も、以て最後の片身(テストメント)とせんとする由話されければ、余は先生が老後愈々勵みて、未だ曾て怠らざるを贊嘆すると同時に、先生鏗鏘少しも老衰の色もなし、願くは一度日本に遊びて、日本學生の爲めに數回の講演を試み賜はずや、ラッド氏の先例もあれば、先生萬一希望し賜はゞ、余輩不肖ながら取計ふべし、尤も是れは固より一場の座談にて別に何等の公的官的意味なき事なり、余は先生始めヴント、ジエームス等諸大家の續々日本に來遊せられんとを望む。外交界既に大使、公使あり、學問界亦交通なかるべからず、先生老たりと云はる



も、重野博士は曾て八十にして遠く世界を漫遊せり、何等不便なかるべしなど、逐一説明せしに、先生好意は多謝すれども自國の爲めになほ盡くさんとす、遠遊の志は到底無き旨斷はられたり。最後に、丁抹の哲學思想は第十九世紀に於ては太だ活躍せり、就中個人主義、人格主義、發展すとの説ありければ、余も我が新教育學は個人を基とす、個人強ければ社會も亦強しとの意見を主張するものなりと述べしに、是吾が意を得たりと手を拍ちて喜ばる。斯くて暇を告げんとするに臨み、猶一問を提出したしとて、無意識、下層意識の事を尋ね、臟識、一般感情などとの關係に及びしに、是れは今後充分生理學的實驗を重ねたる上にあらざれば何とも謂い難し、余は現に哲學教授として寧ろエビステモロジカルに研究し、分析的に講究す、實驗はドクトル、レマン之に任ずる由言はる。それよりレマン氏の勉強に就いて一二談話あり、余亦群衆心理の事を謂ひて、余は將來は社會學的研究を肝腎とする旨述べたるに、太だ可なりとて來訪を深く感謝する挨拶あり、寫真一葉と雜誌の別刊二部を惠まる。

先生久しく寡居す、二子あり、長子は現にギムナシウムの教師にして既に妻帯せられ居る由、廊下にて色々の家族の事をも問はれ、門口まで丁寧を送り出で、惜しき袂を別てり。(教育時論)

### 紐育の博愛學校

凡そ社會事物の變遷に伴ひ、經濟狀態に動搖を來たし、幾多蒼生の疾苦を醸すことは、蓋し已むを得ざるの勢なるべけれども、然かも仁人義士より觀れば、窃に憐憫に堪へざる所であらう。今や我が國亦此の數に漏れず、社會問題動もすれば喧しからんとする様なれば、所謂綱繆の戒は此の際識者の最急務と做す所なるべしと思はるゝが、幸に上に聖主あり、洪恩四海を被ひ給ひ、下に賢相あり、輔弼寢食を忘るゝ程なるより、やがて濟生會の組織あり、之れに由りて以て、貧民の救療を博施せんとせらるゝは、眞に對應の美學と謂はざるべからざる次第である。想ふに之れより以後は、國家忠良の臣民たるもの、相踵いて奮發するあり、或は公に或は私に、續々慈善を計るものが出やう。斯くしてぞ大日本帝國も、始めて文明第一等國の班に列すると謂つべきである。但し既に法制あり又財源ありとも、人物乏しければ充分之れを運用すること出來ず。そこで賢明なる當局者は、又早く此に觀る所ありて、感化救濟の講習を開き又地方改良の會をも催されて居るが、自分亦太だ不敏ながら夙に此の事に興味を感じずる者で、豫ねて諸工場に慰安支配人を置き、尙且つ適宜之れを養成するの途を講ぜ



んことなども主張して怠らなんだが、昨年歐米再遊に方りては特に意を用ひて見學と考察を勉め、紐育滞在中の如きも、商業道德調査の必要上、株式取引所を始め、切手清算所とか銀行や保險會社など、色々經濟機關の視察に力めたが、併し萬障を排しても參觀を怠らなかつたのは、ゼ・ニユト・ヨーク・スタイル・オブ・フヒラン・スロヒーといふ一種特別の學校であつた。

抑、此の學校のことは豫ねて聞及んで居たのであるが、尙紐育在留の一二邦人の直話もあり、非常に興味を感じたから行つたのである。學校の名は直譯すれば紐育博愛學校となるが、博愛學校と謂へばとて、固より慈善主義の無料學校などといふ意味ではなく、慈善事業、博愛事業に従事すべき所謂社會書記(ソシヤル・セクレタリー)慰安支配人(ウエルフェヤ・マネージャ)などを養成するを以て目的とするもので、今後は我國などにも、亦追々其の必要を感じることであらうと想つて居る。此の學校は紐育市、東二十二番街の角屋敷の大きな建物の階上にあるが、此の建物は聯合慈善館(ユナイテッド・チャリティーズ・ビルディング)とて、其の中には種々の慈善事業の事務所や會合所などあり、之れに關する書肆などもあるが、學校は比較的大部分を占めて居る。

此の學校の經營者は紐育市の慈善組織協會(ゼ・チャリティ・オルガニゼーション、ソ

サイテリ)で、而してコロンビヤ大學に聯絡を採つて居る。其の沿革を調べて見ると、今を距る三十三年前、即ち一八九八年の夏、同協會の圖書館中に夏季講習會を開いたのが濫觴である。此の夏季講習會は今日も猶學校事業の一部として行はれて居る。それから千九百三年から四年に亘りて、同種類の講習會を、冬季兩三箇月間の午後並に夜分にも開き、尙翌年には一層之れを擴張して、十月より五月に至る八箇月間、整然秩序ある教授を施す事としたのが、次第に發展して今日の盛況を呈するに及んだのである。而して是れは又一にケンネッデーとかラッセルセイジとか曰ふ富豪が、相踵いて巨大の寄附を爲したのに由ると謂はなければならぬ。ケンネッデー氏は生前早く幾十萬弗を出したが、近頃死去に際し遺言して又追加する所があつて、其の寄附額都合百萬弗に超えて居るといふ。何んと豪氣な事ではないか。其の外色々寄附者の續々あるは寧ろ驚くべきである。

偕此の學校の教課は、大別して必須と隨意の兩科に分つ事は、米國諸學校と同様であるが、必須科としては左の如き者がある。

社會事業の經濟的基礎

社會進步論

二時

二時



非違適應と改良進取 (二組)

慈善組織の原理と實際

論文の演習會讀

二時  
二時  
一時

第一部

工業事項

第二部

統計及び一般經濟事情

第三部

立法及び社會的調査

研究調査の方法

二時

社會改良問題六講 (ケンネッデー講)

時事問題講讀

一時

參觀、報告、演習等

三時又四時

教授はマックレア氏、リンドセー氏などにて外に二三の男女講師がある。又隨意科の方には兒童扶助機關論、低能兒取扱法、病院看護並に救急手當、家屋問題、犯罪論など面白さうな題目が多い。尙且つコロンビヤ大學は勿論、市内の割烹學校や雄辯練習の學校に行つて適宜聽講する事が出来る。蓋し割烹問題は米國にては、今や確に一個の社會改良事業である事を思はなければなるまい。是等諸事業の外に夜學校あ

り、夏季講習あり、又大學擴張的講演も色々ある。特に夏季は運動の練習を主とする別組の講習も開かるゝさうである。

そこで此の學校の正科生たらんとする者は、大學に於て社會學科を修めたる卒業生か、又は之れと同等以上の學力が有つて、實地の經驗ある者といふ事に定められて居る。勿論其の外に員外生もある聽講生もある。修業年限は一箇年にして、十月より五月に至るのだが、幸に紐育市の中心に在る事として、可成理論と實地との聯絡を圖りて各方面の社會的奉公に従事すべき、有爲の人物を養成することに力めて居る。而して試験及第の者には卒業證書を授け、尙希望に由りては夫れ々奉職口を周旋して遣る事にしてある。然かも尙留りて研究學生たる者も少くない。學費は一箇年一百弗の修業料を收むる事としてあるが、併し一方には又給費生あり、一箇年一百弗と二百弗との二種がある。而して研究學生となれば一箇年五百弗を支給さるゝものもある。是は主としてラッセルセージの寄附金を基本とするのじやさうなが、本學卒業生以外にも、大學の教員などで、一二年の休暇を乞ひ、此處に入つて勉強して居る者もあり、又實地家が、骨休め旁ら色々調査を行はん爲めに來て居るものもある。勿論研究と謂はゞとて、強ち高遠の學理に没頭せしめんとするにあらず、徹頭徹尾實際



上の應用を旨とし、社會改良の工夫に盡瘁せしめんとするのである。而して此の學校の卒業證書を有する者はコロンビヤ大學に於てマスターやドクトルの學位などを受くるの途さへ便利に付けられてある。誠に都合が好い。

學校には交換局とても謂はんか、口入周旋の係が設けられてあるが、實に近年は各方面に於ける卒業生の需要、非常に増加し、紐育市附近のみにて千以上の口あり。俸給は人に依り場處に由りて一様ならず、一箇月四五十弗より上は大學教授、大教會牧師と略ぼ匹敵するものも有る。勿論斯く俸給を目當とせず、隨意に博愛慈善事業を行はんとて準備の爲め修業する者の多いは最も喜ばしいとである。校長はデ・フォレスト氏とて、斯界の知名の紳士だと聞いて居る。而して自分は又書肆を獵りて、色々有益の社會改良に關する新版をも購入する事の出來たのを喜ぶのである。「ゼ・サーヴェー」と題する週刊雜誌は、一箇年二弗で餘り高くない、慈善博愛のことを専門とする人には、是非座右に備ふべきものであらう。昨年自分の渡米前、華盛頓市に開かれたる萬國監獄學會の詳細なる模様なども、之れに由つて直に知る事が出來た。即ち第二十五卷第六號を参考すれば可なりと思ふ。兎に角自分は我が國に於ても一日も早く斯かる學校が、大學と聯絡して開設せられんことを切望して止まざる者である。

ある。空論の時代は既に去つて何事も着々實行すべき時となつた。(新日本)

### 大學植民の事

歐米各國、到處大學々生並に卒業の士が、社會改良の事業に盡力して居る有様は、目ざましきものであつて、而して之れを先年初遊の時に較べると層一層盛大に赴けるを見るは、誠に羨仰に堪へざる次第である。就中英國は實に其の先導者と謂つてもよいが、ケンブリッヂ、オックスフォード兩大學が、所謂大學擴張を爲しつゝある事は誰人も皆能く知る所であらう。而して余は之れと共に又大學植民なるものあつて漸く盛に行はるゝ事を告げたいと思ふ。大學擴張は言ふ迄もなくユニヴァーシティー、エキステンションで、大學教育を普及するとを務とするなるが、之れに對して大學植民と謂ふのはユニヴァーシティー、セトルメントと呼び、大學關係者が社會改良に従事する機關である。

倫敦に於ける大學植民の數は追々増加して、十指を屈して尙餘りありとのことが、就中最も著はれたるものは、夫のトキンビー、ホールであつて、實に創立二十七年を閱し、此の種の設営中元祖と見て善いのである。先年初遊の時も一訪したが、今度も



亦閑を偷んで立寄つて見た。固より相變らず苦蒸したむさくろしき古屋で、別段是れといふ事は無い様だが、然し其の事業は着々と進歩して居るといふは嬉しい。幹事長は前回はバーネットといふ人であつたが、今はハーヴェーといふ人に成つて居る。折悪しく一寸前に外出したのとて、掛違つて逢はなかつたが、一書記の人が色色親切に案内し説明して呉れたて、好く解かつた。

抑、此の大學植民は其の名の如くトインビーといふ人の起こしたもので、前掲の如く今より二十七年前の創立に係り、其の場所は東倫敦の貧民窟近くにあるのである。此處に大學關係者の合宿するのが、常に大抵五十人程あつて、各自業務の餘暇専ら社會改良事業の研究並に實施に従つて居る。其の事業と謂ふは色々あるが、第一は教育事業であつて、是れは又種々の部分に岐かれて居る。就中重なるものは夜學、生徒は大抵三百人近くある。年齢は頗る區々で、十六歳より五十歳といふほど相違であるが、總じて丁年以上の者が多い。孰れも大抵小學教育だけは濟せて居るが、種々の業務に従事せるうちにも、書記とか教員とかが多い。否指物職とか仕立屋とか機械職とかもある。學科目は簿記、速記、算術、佛語、作文、文法、歴史、博物、經濟、英文學並に體操等であるが、各自隨意選擇するものであつて、速記、簿記、算術、並に佛語が出席者多

數を占めて居る。教師は有給十一人、無給五人程で之れを擔當して居る。簿記と作文は上中下三級に分ち、速記、算術、佛語などは各々上下二級に分けてあつて、隨分行届いて居る。

此の夜學の外には又大學擴張の講義もあり、地理、歴史、博物等に就いて知名の學者が各二十回内外の講義を繼續して擔當して居る。出席者は大抵五六十名宛に過ぎないが、其の幾分は試験を経て證明書を貰つて居る。否是等の夜學講義以外に又色の會合がある。遠足會は遠く伊太利まで旅行して居り、又巴里などへ見物に行つた組もある。シエーキスピヤ會は二回程もハムレットを演じて非常に喝采を博したさうな。考古會とか博物研究會とか、エリサベス會とか謂ふのもあるが、尙ほ又毎木曜日の夕方は討論會あり、土曜日には通俗講演あり、日曜日には宗教談あり、各種の質問を提出して討究して居るのは最も有益である。

是等教育事業に亞ぎては又兒童救護の仕事もして居る。是れは小學兒童の幸福を圖るものであるが、其の主なる事は貧兒に晝食を供給するので、東倫敦の貧民區なるステフネーには學校數四十六、學校兒童六萬人ほどある、中にも近頃冬季間に給食したるは三十二校五千七百人に及んだ。是れは勿論市會の任じて行ふべき所なる



が、トインビル、ホールは實に曾て卒先之れが模範を示せしもので、今も猶中心と成つて居る。また貧民辯護士と稱し、毎火曜日無料で種々の法律問題に對して相談相手となり、場合に由つては法廷に出訴する事を擔當するあり、一箇年大問題數は大抵三四十件に過ぎざるが、種々の小事件に就き質問を受くるとは太だ多い。所謂大問題とは地所家屋の貸借に係るものを主とするが、それは次第に減少して、今は寧ろ職工と雇主との間に於ける賃銀とか辨償とかの問題多しと聞けり。尙夏季には露天大演、奏會などを催して高尚の娛樂を享けしむる事もある。所て此の大學植民一箇年の經費は何程かと云へば、約二萬五千圓程ぢやと云ふが、それは主としてロンドン、オックスフォード、ケンブリッジの三大學よりする贈金、寄附金並に豫ねて備付の資金の利子を以て之れを辨じ、尙別に文部省並に倫敦市會よりの補助も多少有る。寄宿者の費用は固より自辨なるが、幹事長には年二千五百圓の手當を給し、尙會計掛書書記役等、多少有給の人もある。また大學擴張講義擔當講師にも總計して年千三百圓程の手當を支拂へりと云ふ。

余はトインビルホールを訪ひし日を始めとし、東倫敦貧民窟の事に頻に興味を感じ、夫の平民宮並にホワイトチャペル博物館なども一々參觀したが、平民宮は現に平民娛樂場として時々音樂會などの催ある外に、今はロンドン大學の分校として工藝學校の開かるゝあり、又簡易の圖書館もあり、浴場もあり、一種の社交俱樂部をも設けられてある。是等は人も知る如く、始め富家の出資に由り、今は一個の會社として經營して居るのであつて、七十萬圓程の資本を有して居るとの事であつた。ホワイトチャペルの博物館は、固より名のみで敢て言ふに足らぬが、小學兒童に對する圖書の貸附は相應盛に行はれて居る。小兒用書籍は約三千五百部を藏して居るさうな。而して此の外に大人用の書籍は小説六千部、一般文學二萬二千五百部、參考書四千八百部程ある。總じて是等小圖書館にて貸付くるものは小説を主とし、統計表上にも常に之れを別にして第一に標榜してあるは注意すべき事と思ふ。文藝と教育との關係は、之れに由りても決して輕視すべきものでないことが分らう。書籍借用者の數は年々大人小兒相合して五千五六百人といふ事である。東倫敦の貧民窟なるステッナーには此の外に尙路ほ同様なる圖書館が四箇所ある。都合五圖書館に對して毎年費す所は六萬圓程で、是は各區にて圖書館税を徴して支辨する。然かも税率は納稅者一人に四錢を越さぬ事に成つて居るから、勢、公債に由る外はない。博物館も同様であり、同區には都合二個の小博物館があつて、兩者合して一ヶ年の參觀者は約



拾萬人給費は四千五百圓位なりと云ふ。更に一步を進めて曰はゞ、倫敦全市に於ける公立圖書館は八十三箇所にて、外に私立無料のもの六箇所あり、公立は固より皆無料なるは贅するを須ひない。(講演)

### 漢堡植民學院

植民教育の事は從來漸く盛になりつゝありしが、近頃は各國競ひて之に盡力する様にて、ブリュセル萬國博覽會の教育館中にも、特に一部を設けたりし程なるが、佛國巴里のソルボン大學の如きは着々進歩して怠らざる模様なり。然かも之に關して近時の大計畫はと云はゞ、誰人も獨逸ハンブルグのコロニアアル、インスチチュート(植民學院)を第一に推さざるはなからん。抑、ハンブルグは固是れ北海濱の一港市に過ぎざるなるが、然かも中世以來常に所謂自由市として獨立の面目を損せず、今猶ほ獨逸聯邦中の一大有力者なりと見らる。乃ち夙に各種の教育機關を施設し、別して千九百二年の法令を以て、高等教育の完備を計畫したるは頗る敬服に堪へたり。化學、物理學、衛生學、植物學、礦物、地質學、それ／＼研究所あり。又別にウイセンシャフトリッヘ、スチフツングといふもの、千九百七年に組織せられて、寄附に由りて二百餘萬圓

の基本金を備へ、其の利息を以て學術獎勵の資とし、研究を助け成功を賞せり。天文臺、人類學博物館、美術工藝館、歴史博物館等、亦早くより存し、愈改良して孰も前回とは見違へる程の進歩なり。然り而して特に録すべきは、此の地夙に公開講演の設あり、碩學大家を網羅したるが、近年別に右のコロニアアル、インスチチュートを起し、是等碩學大家を併せ用ひて教授とし、官吏、商人、工業家、農家等、諸方面に於て苟も海外貿易の發展を助くるに足る者を養成し補習せしむる事とせり。其學科には獨逸語學、獨逸人類學、史學、地理學、人類學、土俗學、動物學、植物學、礦物學、物理學、化學、星學、經濟學、公用計算學等の外に、羅馬的語學並に文學、英語學並に英文學、イスラム學を置き、尙更に最近に及びて亞弗利加語學、支那語學等を加へたり。就中經濟學は前東京帝國大學御雇教師たりしラートゲン氏新に任命せられたり。時恰も暑中休暇なりしを以て訪問せずして止めり。學生並に聽講生の數千九百九年の夏季には百五十七人にして、就中六十四人は商人なり。又次ぎの冬季には二百七人にして、就中七十六人は商人なり。但し商人の聽講生意外に尠きは當局者の竊に遺憾とする所にして、何となく獎勵の方法を設けたく、年少の商人にして海外に赴かんとする者は豫め此の學院に出入して相應の素養を作るを肝要とすと言へり。畢竟授業時間割などに不便な



る個處もあるなるべく、追て聽講者の都合を斟酌して改正せらるべし。何はともあれ一年志願兵を濟ませ又は高等學校卒業したる程の者、更に適宜植民に關する知識を修得して、而して海外に赴く様になれば、漸く他邦同業者に凌駕するを得べしと確信して、頻に植民教育を擴張せんとせり。尙此の學院に附屬してツェントラルステルレ即ち中央局とも稱すべきがあり。是れは名の如く海外植民に關する經濟的科學的すべての運動の頭腦となり、參謀本部とならんとするものにて、諸般の調査に従事し、質問に應じて回答を怠らず。有益の報告を發表するに努むべしとせり。從つて廣く材料を蒐集するを急務とし、獨逸植民事業に關する國內國外の出版物を悉く網羅し備付けんと企て居れり。之れを要するに、當學院はハンブルグ市が自家繁昌の爲め、鉅費を投じて經營に力むる所にして、尙且つ同市商業會議所が最も熱心に之れを援助して止まざるは、刮目して見るべき値あり。想ふに此の學院の如きは實に事宜に適せるものと謂はざるべからず。大學と冒稱せずして却つて大學以上の効用あるべし。我が大阪市なども、亦實際は此の種の施設あるべき筈にて、萬事劃一變通なきは太だ非なり。若夫れ是非共大阪大學を起さんとならば區々一醫學校の單科制などにて満足せず、更に堂々たる大規模を立つべし。豫ねて噂ありたる通り

獨逸フランクフルトには純然市立の、新大學成り、而かも諸事具備せりと聞きて伎癢に堪へず。速に奮發せんとを望むや太だ切なり。(談話)

### 獨逸書籍商學校

ライプチツヒ市は獨逸書籍商の中樞たるのみならず、實に全世界印刷業の本源にして、現に遠近都鄙各處の繪葉書は、大概此の市にて製出すと謂はれて居る。從つて書籍組合の組織は頗る整頓して居り、其の活動も亦甚だ目醒しきものがある。自分は先きに初遊の時は、一學期間此の市に留學したりしかば、マイヤーの印刷所や新刊書類陳列場などは早く參觀したが、今度もまた一巡して益々進歩の大なるに驚き、特に書籍商學校々長ドクトル、フレンツェルなる人と相識り、組合設立の學校の事を聞知るを得て深く感動した。

抑、此の學校は原名をドイツチエス、ブッフヘンドラーハウスと呼び、千八百五十二年の創立と聞えたるか、近頃新築落成して太だ立派な様である。學校の目的は書籍業に従事せんとする青年に、先づ其の普通教育を完成し、並に一定の職業的修練を試むるの便を與へんとするものであつて、道德的宗教的品性を陶冶し、愛國心を培養す







## 外に音楽史一週一時間

生徒数は正科生三百三十四人、其他二十一人、合計三百五十五人ある。此の學校は全く書籍商組合の設立維持する所なれば、組合正員の徒弟ならば授業料一ヶ年五十マルク、員外員の徒弟ならば六十マルクと定め、獨逸人并に獨逸語國傲之、奧斯利、匈牙利や瑞西の人は二百マルク、而して其の他の外國人には更に二倍を取る。傍聽生は一週一時間毎に年十マルクとするが、書籍、商學に限りて二十マルクじやさうな。(談話)

## 宗教の將來

宗教は迷信なり、自今以後漸次衰退して終には存在せざるに至るべしと考ふる者あり。余は爾かく信ぜざるなり。宗教は超自然的なり、現今自然科学の日新と相容れず、終に敗亡すべしと考ふる者あり。余は爾かく信ぜざるなり。宗教は來世的なり、今日人心漸く現實を旨とするに傾けるとは相反せり、宗教は終に自滅せざるべからずと考ふるものなり。余は爾かく信ぜざるなり。

一言すれば余は宗教の今後も猶ほ永く存立して、寧ろ益々隆盛に赴くべきことを確信す。然かも斯く言ふことは、宗教は從來の儘にして依然繁榮すべしと唱ふるには

あらず。天地人三才の事何物か變轉を免れん、變轉はやがて進化なり、宗教も亦進化せざるべからず。一宗一派其の甲たり乙たるを問はず、能く時勢と共に推移し、宗教進化の根本道理に悖戻せざるものは永存すること必然なり。

所謂宗教の進化とは何ぞ。余曾て試に宗教進化の階段を分ちて四齣とせり、第一は宗教を以て禍を轉じて福と爲さんとするもの、夫の所謂祈禱、祓禊の類即ち是れなり。畢竟息災延命に外ならず。純客觀的なり。是れに今世と來世とあり。其の次は稍進んで主觀的宗教を生ず。轉迷開悟にして而して期する所は安心立命にあり。右兩段は未だ孰れも自修自益を免れず。言はゞ個人的あり。更に一步を進めては漸く化他と成る。或は社會的とも謂つべし。説法、布教を事とす。然かも未だ直に社會其者と同化し世間出世間合一不二たるに至らず、想ふに斯る社會即宗教、宗教即社會こそ今後の新潮ならん乎。

宗教は大抵殿堂、廟宇乃至寺院教會を以て其の據所とせり。従つて是等の宗教的設營にも、亦前掲同様數段の進化あるべし。初は祈禱所たり。次ぎは修道院たり。更に進んで説法場たり。終には社會的設營たらんとせり。

余の今度歐米に再遊するや、研究調査の主とする所は所謂社會問題、社會政策と教



育事業との關係如何に在り。然かも之れと關聯して、自ら宗教々界の狀況如何を注目觀察するを怠らず。想ふに西洋今日は猶ほ羅馬加特力教とプロテスタント教と新舊二教相對峙して天下を兩分するの趣あり。然かも是等大概當該社會の守舊的惰性に由りて存立するもの、新進向上の氣概に至つては、頗る缺乏するを認めずんばあるべからず。加持力教は由來太だ富裕と稱せらる。其勢力を維持するもの、主として此の財力に由らずんばあるべからず。佛國政府がワルデック、ルツソー以來、之れが驅逐に盡瘁して猶ほ効乏く、其の實牢乎として抜くべからざるものあるは深く察せずんばあるべからず。加持力教寺院財産の沒收は、曩に三十年戰役に之れあり。近頃佛國政府又之れを企つ。然かも無盡藏にして容易に動かし難きを如何せん。プロテスタント教は必ずしも之れと同じからず、而して爾く繁昌するは、國教として組織の整然たる所に在り。但し斯く言ふものから、兩大宗教の中に於て毫も改進の跡なしとするにはあらず。否、兩大宗教共に實際に於て幾多革新の計畫行はれ、宗教社會化の事跡、着々として効果を奏せざるにあらず。然かも忌憚なく之れを評すれば、彼等は既に已に精神なく氣力なし。余は到處大小寺院教會に入らせり。其の祭儀や其の布教や、寧ろ滑稽笑ふべきにあらずんば、愚魯憫むべきもの少からず。唯だ

彼此相競ひて慈善救濟の事に盡力せるは太だ多とすべし。

暫く英京倫敦に就いて言はんか。夫の巍々として半空に聳峙せるセントポールの大寺は、大は頗る大なりと雖も、生鮮の氣殆んど缺如せり。ウエストミンスターの名刹亦奇は甚だ奇なりと雖も、終に骨董道場たるを免れず。人若し英京倫敦に於て活氣ある説教を聽聞せんとせば、去つてハイドパークの一隅に於ける露天説法を立聞するに如かず。此の事余前遊の時既に之れを認めしが、今回は其の層一層盛大に赴けるを見たり。是等露天説法者の多數は、固より大學者にあらず、衣服貧窮にして起居粗朴に風采亦卑野なる者多し。然かも其の言動頗る平民的にして、之れを聽く者は大概勞働者なり。問々奇抜の質問を試みて議論口角泡を飛ばす者あり。之れを要するに勞働者の胸中には早く宗教上の疑問湧起る少からずとす。而して之れを解決する者は是等露天説法者にあざれば、夫の所謂大學植民の一種なり。余未だ其の孰が優れるかを知らず。然かも現在大寺院の到底此れに適せざるは明なり。プース大將の救世軍は英米兩國に於ては實に聞きしに勝る大々の運動をなせり。余の英京倫敦に着するや、先づ社會政策實行の現況を調査せんとして、慈善救濟事業を觀んことを求む。而して人の切に勸むる所は多くは救世軍の事に係れり。



特に貧兒に飲食を施與するが如き頗る大規模なりと稱せらる。米國に入りしは偶、クリスマス祭の前にあり。街頭幾多白髯赤服のサンタクロース佇立するあり。路人の義捐を受けて大祭の日幾萬の貧民に盛餐を供せんとするは、又美譽ならずとせず。

將又更に余の再遊に由りて、一層注意を惹きたる者は、米國に於ける基督教青年會の發展なり。眞に是れ近世社會の中堅と稱すべきか。婦人會の事業亦一顧に値するものあり。

將來の宗教はソシヤル、サーヴィス即ち社會的奉公を以て事業となさざるべからずと謂ふは、余の夙に唱道して今も猶愈々確信する所なり。神佛に給仕する代に、社會に給仕せよと言ふなり。人は常に何者にか給仕せざるべからず。又給仕するを喜ぶ。父母に給仕せよ、妻子に給仕せよ、國家に給仕せよ、忠孝も畢竟一種の給仕に外ならず。然かも之れと同時に人は社會同胞に給仕するの義務あるとを忘るべからず。社會給仕は實に近世的警語なり。

社會政策は賢明なる爲政者の執りて政治の骨子とする所なり。是れ亦實に一個の社會的給仕のみ。蓋し今日は交通頻繁なるや萬事開放的に、従つて競争劇甚にし

て、優勝劣敗顯著なるものあり。農牧漸く退いて商工益昌なり。資本と勞力との關係復た到底一概に律し難し。富者愈々富み、貧者愈々貧し。此に於て不平あり、同盟罷工あり、乃至叛逆革命を企つる者出づ。其の根治の爲めに立論建築するものあれども、多くは架空にあらざれば無謀、行ふに沮む所あり。其の採用に堪ふるものは此の社會政策あるのみ。政府社會政策を企つ。宗教家亦必ずや其の進化の大道を歩みて社會的給仕に努めずんばあるべからず。

公爵ビスマルクは、不世出の英雄なり。高手擅制或は人の竊に謳歌せざるものあるべしと雖も、慧眼夙に社會政策の必要を看破し、着々實行して今や略ぼ備れるあるは彼の偉勳と謂つべきか。余今度伯林に留る數週、略ぼ社會的給仕事業の一斑を窺ふことを得たり。凡そ伯林市に於ける社會的給仕事業の主なるものは公營の社會政策的施設なり。然かも寺院教會の別に之れを行ふ亦少からず。新教は教區を分ちて之れを行ひ、舊教は諸大寺院中心と成りて之れを掌る。猶太教亦相應の設備あり。尙ほ此の外に仁人義士私設のもの少からず。三者相待つて絢爛羨むに堪へたり。

今試に所謂社會的給仕事業を列舉すれば左の如し(第一は飲食の事に關す。日々



給食するあり。祭日に給食するあり。乃至飲食物の吟味と廉價の供給を企つるあり(第二)は住居の事に關す。一夜の宿泊を爲すあり。連日の滯留を許すあり。終生養老の所となすもあり。(第三)は温室の事なり。貧民に薪炭を無料に供給す。(第四)は衣服を頒つ。(第五)は兒童の教養を旨とす。乳兒の哺育に始まり、幼稚園、兒童預所あり。不具者、低能者を特に教育する所あり。孤兒、半孤兒の爲めにするも多し。墮落兒を匡正するを目的とするもあり。(第六)は教授補習を旨とす。幾多實業學校を施設し、又給費、貸費の制頗る備はる。(第六)病者の爲めにす。盲啞は言ふに及ばず、肺癆、癩腫乃至アルコール中毒、癲狂等悉く庇補して漏さず。或は自宅に於てし、或は病院に於てし、或は特に療養所を設く。(第七)衛生の爲めにす。學校浴、公衆浴乃至種痘の如し。(第八)金融の爲めにす。信用組合を設け、低利の金を貸し、又質入を便と爲すが如し。(第九)位置職業を周旋し、無職失職者の憂を減ずる等なり。凡そ此等に關する大小の設備、柏林本市内のみにて約一千二百餘箇所あり。若し近郊數區を加算すれば約一千六百餘と成る。就中シャローテンベルヒを最盛なりとす。

借問す我が國佛教如何。今猶祈禱たるに止るもの多し。修道院は寧ろ振はず。説教場は或は繁昌すれども其効少し。一種の祈禱場にあらざれば、老翁老嫗の居眠

所たるに過ぎず。社會的設備を企る者は、寥々として而かも孰れも貧なり。余は此に、各宗各派に向つて、若し將來に於て雄飛せんとせば、此の覺悟、あらん事を、勸告す。

嗚呼是れ獨り余の勸告にあらざり、佛陀の遺制亦之にあり。大乘佛教の骨子六波羅密にあるは必ずしも經論を繙くを要せず。六密の中最初は布施即ち檀波羅密なり。今の所謂社會的給仕亦之れに肖たり。但し布施を以て功德とするは給仕の本義にあらず、仍ほ祈禱方便の一たるを脱せざる幼稚の見あり。尙ほ又布施の事は經文之れを説く太だ詳に、先賢之れを行ふ必ずしも少からず。然れども今日の完備にして實際的なるに比すれば及ばざると遠しとす。余は我國將來の宗教家が社會的給仕を第一義とし、社會政策を研究調査し、如實に之れを實施せんとを望むや太だ切なり。乃ち之れを實行せんとせば、寺制の改正等太だ多し。先づ寺院を減じ、僧尼を少くし、財産を合せ有爲の人物を網羅し、而して一大新組織を作立するの要あり。是れ實に我が國將來の宗教革命なり。此の革命は早晚之れあるべし。唯だ問題は時と人とを待つに過ぎざらん乎。眞言宗は宗規寺制由來自由に富むと聞く、囑望に堪へず。一言すると此の如し。妄言多罪々々。(眞言宗聯合大學にて演説)



## 布哇に於ける教育問題

歸途桑港解纜の地、洋丸は例の通り布哇の首府ホノル、に一泊したので、余は久振に此の綠鬱蒼たる樂園を彼處此處と馬車を驅けて巡覽し、之れを十年前に較べては、同胞在留者の數こそ増しはずとも、勢力は次第に進歩しつゝある事は確に認められて喜びに堪へなうだが、領事上野氏の色々懇切に談話された所に據れば、近時は本邦よりの移民は固より禁制を被りたれども、然かも既に在る者の妻女を呼迎ふるは毫も妨なく、毎便多少の新婦渡來するあり、而して小兒の生るゝ者は次第に多く、昨今は毎月四百名に垂んたる届出もある程にて、就中年長の男兒は既に徵兵適齡に達せるもあり、又女子は藝妓稼業に従ふ者も數名近く出來たり。是等の男女は布哇島上に呱呱の聲を掲げたる者なれば、素より生れながらにして米國臣民の籍に入れども、然かも一面には同時に日本臣民たるに違はず。彼等は風土の影響にもあらん、總じて身心共に本邦内地の者に較べては稍、菲弱の識りを免れずと雖も、既に日本臣民たれば教育の方法如何に由りては随分日本の御爲になるべく、果して米國風に教育するに任かすべきか、又特別に日本流の教育を施すべきか、實際重要の問題たりとの事

なり。それより去つて本願寺別院を訪ふ。是れは今村惠猛といふ僧侶が十餘年盡力の結果、着々進歩して來たもので、二階建ての佛殿の外に、小學校あり、中學校あり、寄宿舎あり、青年會あり、貯蓄獎勵會あり、婦人會あり、雜誌の發行あり、なか／＼奮つて居る。尙且つヒロとがエワとかワイパンとかマキ、とか二十餘箇所の支部あり、孰れも相當の敷地を有し、大抵は既に殿堂を建築して、入佛式を営み、更に進んで小學校を附設するも少からず。是等支部にては獨り布教法務のみならず、又移住民の諸屆類とか送金とかをも懇切に手傳へる故、眞宗門徒のみならず、餘宗の者も追々依頼し歸依するあり。即ち耶蘇教徒との間柄も決して不和にはあらず。雇主などは却て布教使の周旋を喜ぶ傾もありとか。然り而して所謂小學校にては布哇の義務的小學教育の餘暇、適宜日本的物事を教授するを目的とし、毎日午後三時間位、布哇小學校を退ひて後、其處に集りて讀み書き唱歌より歴史地理などを授け、道徳と宗教とを骨髄とす。前總督の時分には斯くの如きは日本臣民を養成するにて、布哇人としては不忠と謂はざるべからずなど、兎角に苦情ありしが、今日は復た格別の異議も聽かず。唱歌なども餘り差障りなき分を選出して翻譯して示したれば、却つて滿悦の態なりとか。教育上眞に興味ある問題なり。因にカリフォルニア州に於ては早く文學士



蘭田宗惠氏等の盡力にて、本派本願寺の開教相應に盛行し、現に文學士内田氏主任として着々進趨を企てつゝあるが、サクラメントには立派の殿堂あり、桑港にても目下土地購入の手續中にて、同じく立派の普請を營む積なりといふ。但し青年の漸く耶蘇教會に投ずる者多きは又争ふべからざる事實にして、而して内田氏等の布教も、眞宗法門を廣むるよりは、寧ろ通佛敎の方に傾ける由聞けり。是れは事情已むを得ざる事なれども、一考を要すべき問題なり。余は本派本願寺は勿論、各宗共に海外布教に於て、一層熱心に注意するの必要あるべしと信ず。但し萬事彼の國俗に同化するを可とせば、佛敎僧侶の布教などは難有迷惑かも知れず、移民排斥問題などあれば輕々速斷すべきにあらず。

因に布哇全島就學兒童の數を調べたるに、日本人第一にて約七千人、葡萄牙人之れに亞ぎて四千六百人、土人は四千四百人、半土人は三千八百人、支那人は二千八百人あり、而して米人は僅に一千餘人なり。但し纏つて日本、支那并に葡萄牙人の徵税法定財産表を見れば、支那人第一にして、納稅者二千二百五十二人、此の財産額六百六十五萬圓。葡萄牙人は一千七百九十四人にして、四百九十萬圓なるに、日本人は人數は二千五百十五人と云へば最も多きも、金額は三百四十九萬圓にして最少し。是れ大に

注意せざるべからざるとなり。(談話)

### 歐米諸國の議會

自分は昨年五月九日に神戸港を出帆して、昨夜一月七日横濱に着いた。屈指すれば滿八ヶ月間海外に在つたので、歐米兩大陸を跨に掛けて足跡實に十四箇國に及んだのである。尤も此の僅少な日數の間に斯く多數の國を巡廻したのであるから、勢ひ一箇所に長く滞在することも出来なかつたし、又今度は再遊のことでもあるから、自然彼の國の事物に對する興味も前回程ではなくつて、餘り多く貪つて見聞に努めもしなかつたから、大したことは述べられないが、併し聊か感じたこともあるので、各地に於て議會の幸に開會中なりしものは、可成傍聽しやうと努めたのである。

先づ第一に、六月の下旬に瑞西のベルン府に着き、同國文部大臣の紹介で大國會の議事を傍聽した。當日の問題は陸軍附屬の諸工場にも他の會社同様に工場法を適用し職工の労働時間を減少すべきか否かといふことであつた。問題の性質上社會黨側から色々熱烈の議論も出て、随つて卓勵風發の雄辯も聞くことが出来たが、其實別段面白い事はなかつた。唯だ國語の區々なるは驚いた。



それから英國に渡つて、七月の下旬に我が國大使館の紹介で、同國の國會を傍聴することに成つた。併し此の日は生憎、最早議會閉會に差し迫つて居たので、出席議員も少ければ格別の問題もなく、唯だ徒らに多數の報告を聞かされたに過ぎぬ。但し其の際感じたことは、議員の質問に對する政府員の答辯は、簡短ながら親切にしてよく要領を得、問ふ者も答ふる者も、共に和氣霽々の裡に、意見の疏通を期して居た事である。當日農商務大臣の代理として出席した某議員とは、其の以前訪問して懇意の仲となつたが、其の風采と云ひ態度と云ひ頗る敬服に堪えぬ所があつて、流石に立憲國の議員たり政府員たるものは、斯くあるべき筈のものであると思つた。

歸り途米國のワシントンに於ても、同じく大使館の紹介を以て、上下兩院とも傍聴することが出来たが、此の日大雪を冒して出掛けたに係はず、議場に於ては格別の議論はなかつた。後で聞くと其の翌日には夫の國防問題の大議論があつたさうである。その時は自分は既に南部の方に向つて出立して居たので、僅かに新聞紙によつて議論の一端を窺ふことを得たに過ぎなかつたのは、今猶ほ非常に残念に思ふ所である。

右述ぶる様な始末で英米兩大國とも折角議會を傍聴しながら、格別の議論を聴く

ことを得ず又獨逸に滯在中は議會開會せられずして、僅かに建物を一覽するに過ぎなかつた。唯だ茲に喜ばしいことは、幸に、佛國に於ては新内閣組織後、總理大臣が始めて議場に於てなす所の政綱に關する大演説を傍聴し、並に之れに對する反對黨の猛烈なる攻撃演説をも聞くことが出来たことである。

佛國の總理大臣と云ふは、言ふまでもなく彼の有名なブリアン氏である、而して之れに對する反對側の辯士は同國社會黨中にて屈指の一名士である。此の兩者の大演説を傍聴しながら、彼れ是れ思ひ合せて感動したことは、當に一に止まらぬ。ブリアン氏は半ば朗讀的に、其の政綱とする所の大要を演説したに過ぎないが、態度頗る沈重で自ら一種の威嚴を備へて居た。之に反して反對黨の辯士は、手を振り足を動かし壇上に立つて、約一時間程も種々の方面よりブ氏を揶揄し、甚だしきは面前に於て人身攻撃を試むるに至つたのであるが、社會黨並びに右黨なる加特力教側などよりは、時々盛に拍手喝采があつたに拘はらず、何となく重味に乏しきの感じがあつた。佛國の議會に於ては別に大臣席の設けはなく、大臣は恰度辯士の演壇の直ぐ下なる最前列に着席するに過ぎないのだが、ブリアン氏は件の人身攻撃を目のあたり聞きつゝ、笑を含んで少しも動する色なく、唯だ僅かに一二「ノー」の、此の場所は公堂



也私事に涉る勿れ」と叫びしに過ぎざる如くなるは、非常に重味があつた様に思はれる。一體ブリアン氏は年僅かに初老を超えたるに過ぎず、身は素と僻陬の貧家に生れ、而かも名聲隆々、上下の輿望を擔うて前途測るべからざるものがある。同國の人々は或はナポレオンの二の舞を生ずるにあらずやと云つて、竊かに懸念するものもある程である。聞く所によれば同氏は曾て新聞の主筆たりしこともあるが、文筆は決して上手と云へぬ、寧ろ頗る遅筆であつて、筆路澁滞し、本人自らも筆を執ることを嫌ふたそうだつた。併し道に文理は透徹して居り、常に讀む者をして一種の尊敬心を以て之れを讀了せしめたそうである。殊に其後辯護士として法廷に立つ様に成つてからは、論鋒峻鋭、弱者の爲めに俠氣自から任じて之れを扶け、敵人を説服せしめて遂に非常の人望を博したといふことである。

今や我が國に於ても辯論追々隆運に赴くは喜ぶべきことであるが、併し唯だ徒に口舌の末に趨るのは眞の雄辯ではない。此のブリアン氏の態度意氣などこそ深く思を致すべきことであらうと思はれる。乃ち貴問に任して勿々の際一言する次第である。(雄辯)



## 雄飛と奉公

滿天下學生諸君！諸君は常に學校講堂に在つて、先生方より色々親切なる教訓を蒙むり、又校外に在つても、幾多の雜誌印刷物に由つて、種々有益の指導を受け居らるゝと信ずるが、然も是等世の所謂教訓指導なるものは、果して皆諸君が今後新舞臺に立つに適當せる活教訓、活指導なりや否やは、諸君自から省みて再思するの必要があらう。凡そ今日に限らず、教訓とか指導とか云ふものは、誠に結構なものだが、動もすれば因循固陋の舊寶に陥り易く、可惜青春有爲の人々をして、萎靡不振たらしむるの弊もある様に想はれる。是れは諸君の充分注意を要する所で、別して教育界現時の風潮、兎角に保守に傾き、復舊に流るゝ如くなるに際しては、一層取捨に用心せねばならぬ。自分は十數年前、始めて海外留學を命ぜられ、歐天米地に遊ぶと、良久しく、深く彼の國青年教育の根柢とする所を穿鑿して、發明する所少なからず、終ひに所謂新教育なるものをば唱道して、青年有爲の人の爲めに、舊來存在の桎梏教訓を撤去し、自由活動の濶天地を興へんと盡力したが、今度復た彼の國に遊び、南船北馬種々の國々を視察するに當つては、盛衰興亡の由る所全く青年活動の多寡に係り、教育教訓の



新舊死活こそ、眞にその原因を爲すものであることを看破した次第である。

これに附けて先づ諸君に問ひ度きは、諸君は大功を望まらるか、それとも小成に安んぜらるかといふ事である。斯く言はば諸君は「それは知れ切つた事なり、誰人が大功を欲せず、小成に満足する者あらんや」と言はるゝかも知らぬ。然かも實際自分の日頃見聞する所では、今日の青年諸君は何となく大功を嫌うて、小成を欣ばるゝ風のあるのは困つた事である。學校を選擇し、職業を選擇するに方つても、陰に陽に諸君の考慮せらるゝ所は、何となく此の小成病に罹られたる様に見ゆるのを惜むのである。斯くの如くんば、諸君が如何程忠君愛國の心に富み居らるゝとも、戦時はいざ知らず、平素國家の發展擴張に貢献せらるゝ事は少なからうと思はれる。國家構成の各個人が小成に安んじて、而して其の國家が大々の發展を爲さん事を望むのは、恰かも木に縁つて魚を求むるが如きであらう。

將た又諸君に問ひ度きことは、諸君は困難に打ち克たんことを愉快とせらるゝか、それとも安逸を貪つて苟且を能事とせらるゝかの一事である。諸君にして若し苟且儉安を欲せらるゝならば、それは何事も保守を旨とし、強いて新奇を企てざるが好からう。すべて人の踏みならした熟路は、行くに別に困難はないが、新に荆榛を拓い







いふも、固より強ち青年諸君の救世軍に投ぜんことを勸むるのではない。要するに社會階級間に於ける軋轢を緩和し、衝突を調和し、強者弱者双方に都合好き様取扱ふことで、若しこれを一種の業務とするならば、夫の大工場に於ける**安慰支配人**(Welfare manager) 或は**社會書記役**(Social secretary) など謂ふものに成るだらう。

又**開拓植民**の事は別に喋々するに及ばずとも明々瞭々のこととて、畢竟狭くるしき處に屈託せず、天空海濶の境に優遊せよと云ふのである。歐羅巴に於いても此の植民教育の事は夙に必要視せられ、英獨兩國にては色々準備も行き届いて居るやうだが、兎角引込み思案の佛國にても、先年留學の時より早く植民學校の事計畫せられたのは、自分の看取して竊に嚆望した所だが、今度白耳義の萬國大博覽會に於いて、又明かに其の發展の事跡を見ることの出来たのは喜びに堪へぬ。米國人の海外雄飛は尙更の事で、米國では大學なり専門學校なりを卒業したときは、可成は先づ一應海外を遊歴して實際を見聞し、其の上徐々に着手起業の點を定むる様で、今度自分が桑港から歸來の地洋丸にも、此の種の青年が多少乗つて居たのを見た。特に社會的奉公についても、歐羅巴の大學には追々其の教育法を設ける様であり、又英國の教育は早くから最も高尚なる意義の社會的奉公者を養成するを旨とする様であつたが、米國

ては前述の**安慰支配人**、**社會書記役**の養成の爲めに、一種の學校が出来、某慈善家の巨額の寄附に由つて、愈々隆盛に赴く様である。これは此度自分が、紐育市に滞在してゐる中、最も感じたことであるが、一度び歸つて内地の事情を視ると、衷心實に忸怩たるものがある。

わが日本の社會は、まだ西洋の様な複雑に成らぬから、此の社會的奉公の必要も少ないと思ふか知らぬが、先んずれば人を制すといふ事は、青年立志者の一刻も忘れてはならぬ事である。將た又今日は、日米兩政府の申合せに由り、米國への渡航は甚だ面倒な様だが、それも追々は何とか寛大に成らうし、任他さなくとも朝鮮に滿洲に支那内地に、さては樺太を北にし、臺灣を南にして諸君が横行濶歩すべき天地は頗ぶる廣からう。我が政府に於いても、近頃は此の拓殖といふ事に、追々意を注がれる様なのは嬉しい。勿論自分とても諸君に悉皆社會的奉公を業とせよ、海外植民に従事せよとは言はず、十人十色なれば各々その好む處に隨ふべきは言ふ迄もないが、徒らに陳腐の教訓に囚はれ、迂濶の指導に誤まられて、青年有爲の元氣を沮喪し、彼れも此れも尋常の一路に馳驅して、共斃れとなつては拙らぬ。青年諸君は深く此の點に留意して、活潑々地の元氣を鼓舞し、眼を世界の全局に注いで、共斃れとならぬ様御用心肝



要と言ふのみ。精しい事は又追々話すことゝしやう。(學生)

### 修身教育上一考すべき實話

小生の今回の再遊は、固より教育學術の調査を目的としたものではあるが、併し學校教育を直接に觀察すると云ふやうなどは餘り多くしなかつた。従つて小學教育の實際的施設上に於ける改良等に就ては、餘り多く語るべき事實も持たず、又日常教室裡に於ける授業法の新工夫等に關しても、餘り多く見聞したことはないが、併しそれらのことは諸君に於ても實は既に歐洲諸國の先進者に劣らず熱心に勉強研究せられて居ることであると信ずるから、自分は此の際敢て喋々することはせぬ。それよりも唯、爰に極卑近なる一個の實話を掲げて、諸君の猛省を仰がうと思ふのぢやが、是は實は先刻某會の席上に於て需めに應じて述べたのであつて、記憶のみであるから、精しくお話することは出来ぬ。

偕此度の旅行は成るべく山水の風景等をも探りたいと思つたので、先づ瑞西の湖水は東西南北と涉つて探見した。又英國に於ては有名なるワーズワースの詩境たる湖水地方をも探勝した。而して更に進んで蘇格蘭に於ても亦有名なるスコットの

の湖水地方をも一遊したことである。今お話すると云ふのは、其蘇格蘭の湖水地方に於てのことであつて、此の蘇格蘭の湖水地方を回るのには、いろ／＼の道順はあるが、自分の取つたのは、グラスゴーを發して幾多の湖水を通觀して、而してエデンバラに出ると云ふ順序にしたのであつて、此の兩大都市の間に大小數箇の湖水があつて、旅客は先づ汽車に由り、更に船を浮べ、更に馬車に乗り、又船に乗り、又馬車、又船、而して終に再び汽車に搭乗すると云ふやうな有様になるので、斯の如くして右申す大小數箇の湖水を珠數繋にする譯であるが、これ等の湖水地方には幾多の史蹟がある、それは有名なるヲター、スコットと云ふ詩人が幾篇の詩に謳つてあるので、諸君も定めてお承知になつて居るであらうと思ふ。自分の今お話をする事柄が起つたのは最後の湖水である。其湖水の名はカトリンヌと云つた様に思ふが、其の湖水を渡る船は圖らずサー、ヲター、スコットと云ふ名であつた。自分はサー、ヲター、スコットの故郷に遊び、ヲター、スコットの詩篇を手にし、而して詩人の名を冒せる船に乗つて此閑靜なる湖水を過ぎつたことであるから、實に興味沸くが如くであつた。時偶、午後一時頃であつたが、陸上晝餐を喫するに違がなかつたから、船中で何か食べようと思つた所が、小船のことであるから格段な物はない。僅にサンドウキッチ・パン類を得るに過ぎ



ない。而してビール店があつて、そこに於て粗末なる英國ビールを鬻いで居つた。此客室には自分と自分の同行者二人とて、僅に三人しか居らなんだが、自分は長途の舟車に非常の渴を覺えたからビール一盞を呼んで忽ち飲み下すと、件の興趣は更に沸くが如くなつて來て、ツイ面白さの餘り其酒賣の娘に就て種々話掛けた。自分は日本人であることは言ふに及ばず、而かも日本の文學者である、又日本の詩人である、今日此地方に來つて此の天然の美景を見、又此多趣の史蹟を探つて興味津々として盡くすることを知らぬが、是非此事を一篇の詩に作らうと思ふに就て、其詩の中には女主人公なからざるべからずと思ふから、お前の名を借りたいが、一體そなたは何處の者であるか、名は何と云ふのであるかと聞いたたら、名はマリーと言つて矢張り此地方の者である。私には一人の妹一人の弟がある。其妹と云ふのは、先刻此船室に菓子賣りに來た小娘であります。弟と申しまするのは、甲板の上に於て帆綱の世話をして居る者であります。兄弟三人打揃うて此船に居りますと云ふことであつた。然らばそなたの父はどうかと言つて聞いたたら、船長が即ち私の父親です。母上は陸上に住つて居りますと云ふことを答へた。然らばお前達の家族こそ實に詩的家族と云ふべきものであつて、寔に羨ましさ堪へぬ。お前の兄弟姉妹は既に見たから、

一つお父さんの船長にも挨拶しよう。寔に楽しい生活であると言つて、頻に自分は感じて、扱て其地を過ぎ去つたのであるが、聽て其タエデンバラ市に着いて、旅館に投じてから汽車の時間表を開き見ようとした所が、豈計らん最も大切な道具を失うたのである。大切なる道具と云ふのは外ではない眼鏡で、眼鏡と云ふても老眼鏡である。自分は未だ敢て年老いたりとも思はぬが、こゝ數年前より軽度の老眼鏡を用ひて、而して始めて樂に書籍新聞雜誌等を読むことが出來ると云ふことであつて、此眼鏡なくしては甚だ迷惑を感ずるのである。尤も眼鏡の袋は洋服のカクシの中に入れてあつたが、肝腎の眼鏡を失うた。所て今日は前述の如く、汽車に、馬車に、小船に、さては旅館に、茶店に、又山岳丘陵に種々なる場處に立寄つたことであるから、何處で紛失したことやら思出さぬが、併しどうも最後のヨタイ、スコット號の酒保で忘れたやうな氣がする。就ては念の爲め件の娘に書面を送つて、船中に遺失してあつたならば、倫敦の宿に送り呉れるやうにしやうとした。乃ち早速手紙を書き、並に眼鏡の袋を其中に封入して之に入れて送り返へすと求めた。其時同行の人々が言ふのに、其眼鏡と云ふのは例の金縁の眼鏡であるか。然り。然らば相應の價貴き品でもあるから、是は恐らく送り返さるゝことはなからうと云ふとてあつた。併し自分は何



となく其詩的家族の無邪氣なことを確信して疑ひない心持がするので、否、必ず送り來るべしと斷言しつゝ、後數日を経て倫敦の旅館に立歸へれば、果然眼鏡は袋に入つて我手許に戻つて居たのである。自分は非常に嬉しく思つたので、日英博覽會入口の日本の美しき春色を寫し出せる大繪葉書に感謝の意を書して送つたことである。扱て諸君は之を何と聽かれるであらうか。彼の國に於ては斯の如き事は尋常の事であつて別に美談でもなけりや、敢て珍しがる程のことでもなからう。併し之を我國の社會にしたならば果して尋常茶飯の事として誰人も注意を拂はず閑却するに過ぎぬのであらうか、どうであらうか。學校用の修身書等を繙いて見ると、或は中江藤樹の居た處は、聖人の徳風に依つて、道落ちたるを拾はなんだとか、某賢者の住むだ處は、夜戸を鎖さなんだと云ふやうなことを麗々しく書き立て、如何にも稀有の美談のやうにしてあるが、彼の國では件の娘の事の如きは、敢て自ら以て道德ともせず、人も亦之を認めて美談ともせず、右の如く全く所謂尋常茶飯のとである。然らば何によりて此美風を得來たであらうか。サー、ヲター、スコットの遺徳がかくあらしめたのでありとすれば、我輩は文學の効果大なることを認めなければならぬが、それとも思はれず。山水閑雅の風景が自ら人心を化したのぢやと言へば、或はさうも思は

れるけれども、兎に角にも彼國に於ては、斯の如きことは人敢て美談とせず、人散て、稀有の出來事とせぬと云ふことが事實であつて見れば、或は我國社會の道德の程度と云ふものは、彼國に及ばぬことが尙ほ遠いのはあるまいか。幸に忠孝の美風に於ては世界萬國に卓絶して居ることは、我輩が今更喋々するを須たぬことであるけれども、其外日常一般の倫理道德に於て、斯の如き程度に未だ達せぬと云ふことは、非常に残念に思ふことである。畢竟修身書に載する所の例話などが稀有の美談でないやうになつてこそ、初めて教育の實効が擧がつたのであるまいか。それは殊に小學教育、普通教育に須たなければならぬと思ふのである。

右様な話を先刻多數教育者が集合されて居る處で、ツイ思浮べる儘話した所が、何れも之に多大の注意を拂つて呉れたやうである。此話は決して教授法ぢやの、設備ぢやの、乃至は訓練ぢやの、管理ぢやのと云ふやうな區々たる事の話ではないのであつて、小學教育の根本に入つて自分は述べたのである。先づ此根本的教育に着眼せずして區々の末端を責めたとすれば、恐く眞の教育は望まれ難いとであらうと思ふ。歸朝早々格別お話すべきこともないが、此話は卑近ながら取敢へず、恰く天下の教育者に一考を煩はしたいことである。該詩的家族の名はマツキヌーとか云ふ純蘇格



蘭流の姓氏であつた。(小學校)

### 正直斧の記

正直の首に神宿るとは、先哲も夙に教へ給へるところなり。北米合衆國建業の偉人華盛頓が公私兩徳兼備の事は世舉りて知れるが中にも、特に正直を以て萬行の本と爲し、は、偏に敬慕に堪へず。されば去年十二月上旬歐米再遊の歸途、華盛頓府に留りし間、一日小閑を偷みてモント、ヅアルノンにそが隱栖の跡を訪ひ、墳墓をさへ弔ふことを得たるは、嬉しともうれし。モント、ヅアルノンは府を距る十五哩、ボトマツク河に臨める小丘なり。老樹枝を交えて自ら神寂ひたるに、此の朝白雪の積ると數尺に及びたるは、眞に皎潔の徳を表せりとや謂はん。門前に販ける記念品數多あり。就中櫻樹を以て作れる小斧一挺は、特に兒輩の爲に需めて家苞となしぬ。蓋し是れ華盛頓が幼時父の愛樹を伐り、敢て包藏することなく、自白罪を謝せるの正直に私淑せしむるに恰好なりとしてなり。大阪市江戸堀小學校長八上氏之れを聞き模造して頒つあらんとす。己同志を得たるを喜び、別して大阪の如き商業地の子弟には適切な教訓なるを信じて、いさゝか其の由來を誌すこと是の如し。嗚呼、僞善僞忠は惡

むべし、詐僞奸策は斷じて戒めざるべからず。冀くはこの斧を見る者毎に深く反省するあらんことを。(四十四年五月初旬)



第  
參  
篇

社  
會  
經  
濟  
談